

349

433



始



349
433

俱知安史

山田洋藏著

催告先輩並に文士諸氏

文士論客に富める我俱知安より筆持つ術も知らざる薄學
の余が俱知安史を發行せねばならぬ事情は本書發行理由
に述ぶるが如く實に止むを得ざるに出でたり本書俱知安
史は百枚參拾錢的名刺たるに過ぎず無筆の一老措大
る山田羊麓が胸中記憶の反古籠のみ

我が俱知安の健腦深智なる文士諸氏が一日も早く完美な
る俱知安の紹介書を發行せられんことを謹んで催告す

著

者

正安
12.26

内交

救世

流

香

印

富源
禮書

富源
禮書

俱知安史發行之理由

余は明治卅五年二月俱知安の將來希望あるを考慮し居を中央市街にトす茲に拾有五年年々歳々人同しからずとや歳變り星移るに隨ひ開村以來の凡ての事情は徒らに勢力の變動と新陳代謝の居住者の爲め次第に磨滅せられんとす。

茲に於て數年前より余は深く思ふ處あり俱知安史編纂の志を懷き時の熟するを待ち居たり。

明治四拾四年實父を亡ひてより身上の煩悶は此の俱知安史の荒骨の製造に着手したる原因となり寸暇忘るゝなく材料の蒐集に努め居たり。

偶々昨年千載一遇の御即位の大典を擧げらるゝを聞き紀念事

業として發刊す可く筆を取り始めたるも苟も俱知安史と題する上に於ては残る隈無く森羅万象を記述し置くの必要を認め大膽不敵にも無學文盲を顧みず心に思ふ事を筆にし此の俱知安史となしぬ擬字擬言は讀者の判讀に依頼するに決し前の荒骨を打毀して再び原稿の作製にかゝりたるは一級町村制施行前後にして殆んど數ヶ月に渉る久しき間なりしが一家の營業の餘暇寸時の閑を得て編纂したるものなれば文字用語は讀者必ず判斷に苦しまん、されど事實に於て過誤なきことを確信するが爲め所謂田舎の老士の事實物語りを聽くと思ひ一讀せられんことを祈る

本書は俱知安村時代に筆を起して一級町村制施行せられたる後に於て攔筆したれば町を村とし村が町となり居るを其儘訂

正を加へず印刷に附したり

本書の文字用語を訂正し文章らしくして出版すべしとの注文ありしも元來淺學にして文章なご知らざる余が原稿なれば之を訂正して文章らしくするには荒組の骸骨は肉なく皮なく一月二月にて出來得る業にあらず拙劣なる本文の訂正を爲すより新に著作する方却て速かなり意味だに解らば夫れにて可なり今日は單に速きを旨とし他日相當の文士が正確なる著書を發行せらるゝまで假りの俱知安史として提供せんのみ
本書に名士の序文を周旋す可しと申込まれたる人も羊頭を掛けて狗肉を賣るの類を學はんよりはと掲載せざるに決したり只農業上見る處あり特に題字二頁を加へたり

本書の主眼は既往を知り現在の俱知安を紹介し將來の希望を

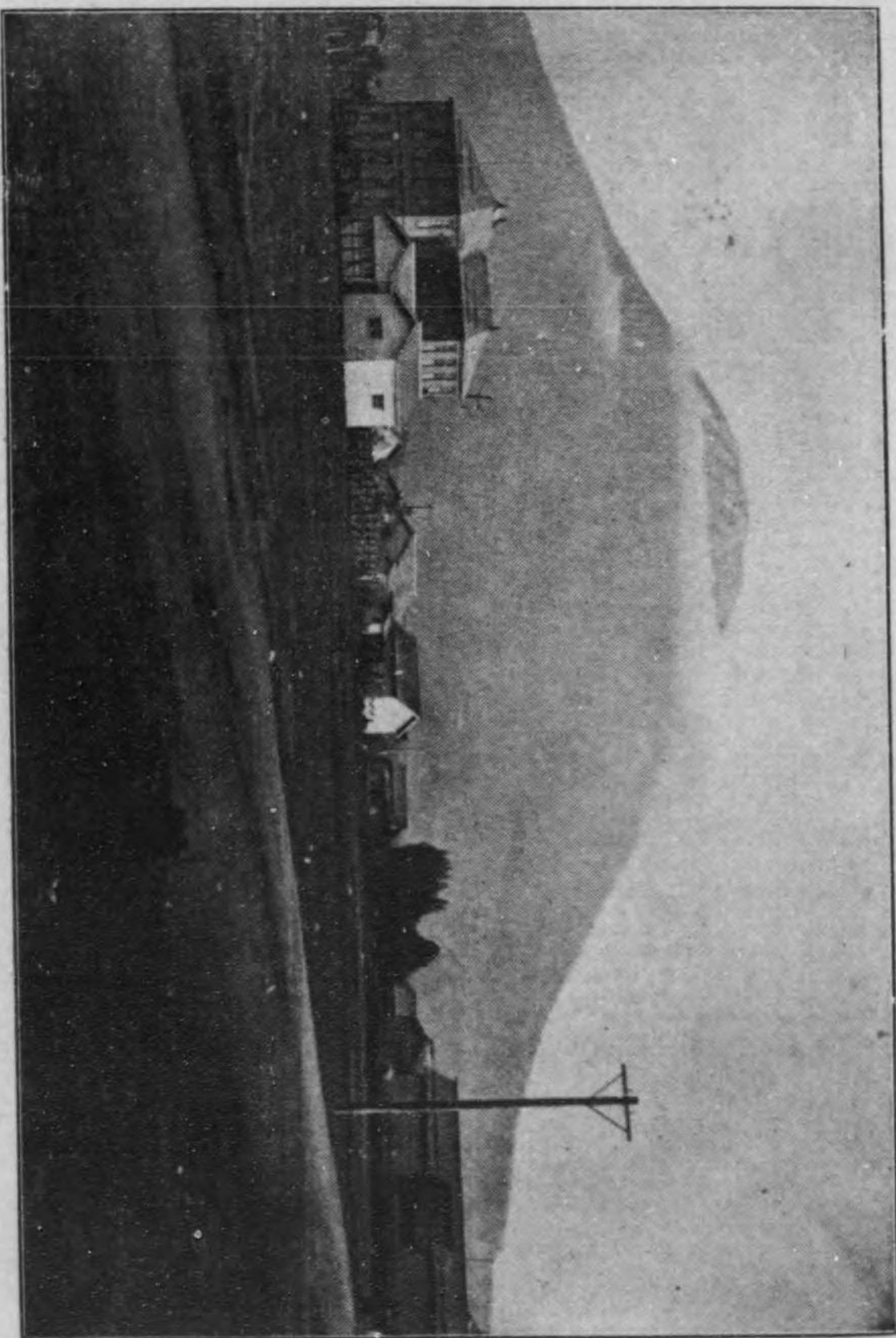
書き並べたるものにて著者の脳底を暴露したるものなり本書は卷末に町内有志の人物月旦を加へたるは町の生命は活動舞臺に立つ士農工商諸氏に依り俱知安を形作られ居るものと信じ一人も多くと思ひたるも記載を厭ふ人もあり亦都合のある諸氏も少なからざる爲め六十人に止めたり後日再版の時は一躍山麓史として亦列記すべし幸に略は御諒察を乞ふ
 本書各章各項を列記する不順の個所も少なからずと雖ごも材料集蒐上の都合に出でたる爲め不順を知りつゝ記載したるを御諒察の上再讀熟考せられんことを望む文章拙劣なりと雖も全部に涉り余は其責任を有することを誓ふ

羊蹄山麓の矯屋にて

山 田 羊 麓 敬 白

大正五年十一月二十日

尺百四千六拔海



後方羊蹄山

高山植物種類豊富ノ
 北海道富士

雪初ノ末月十ルタ見リヨ街市安知俱

書き並べたるものにて著者の脳底を暴露したるものなり本書は卷末に町内有志の人物月旦を加へたるは町の生命は活動舞臺に立つ士農工商諸氏に依り俱知安を形作られ居るものと信じ一人も多くと思ひたるも記載を厭ふ人もあり亦都合のある諸氏も少なからざる爲め六十人に止めたり後日再版の時は一躍山麓史として亦列記すべし幸に略は御諒察を乞ふ

本書各章各項を列記する不順の個所も少なからずと雖ごも材料集蒐上の都合に出でたる爲め不順を知りつゝ記載したるを御諒察の上再讀熟考せられんことを望む文章拙劣なりと雖も全部に涉り余は其責任を有することを誓ふ

羊蹄山麓の橋屋にて

山 田 羊 麓 敬 白

大正五年十一月二十日

尺 百 四 十 六 拔 海

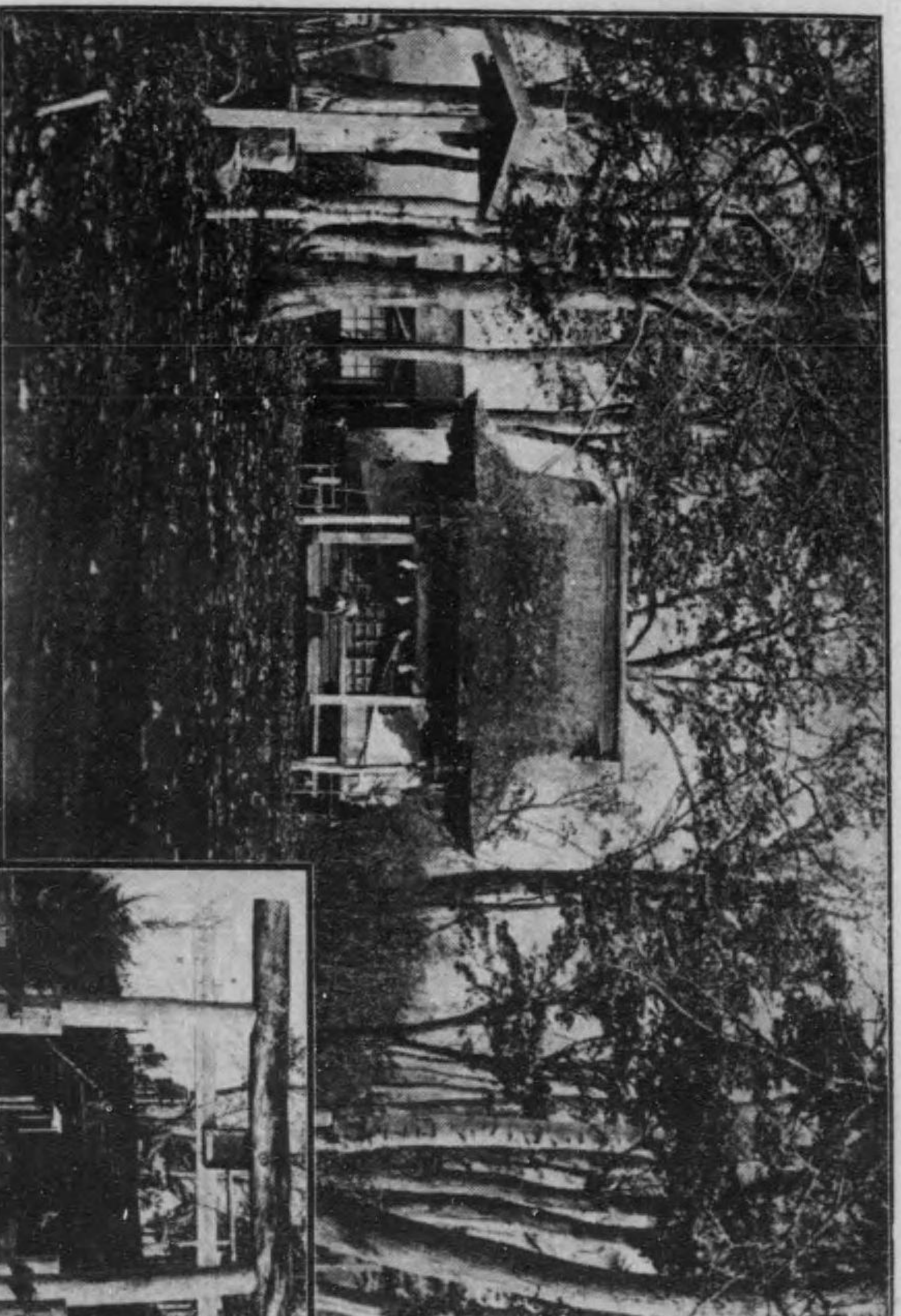


後 方 羊 蹄 山

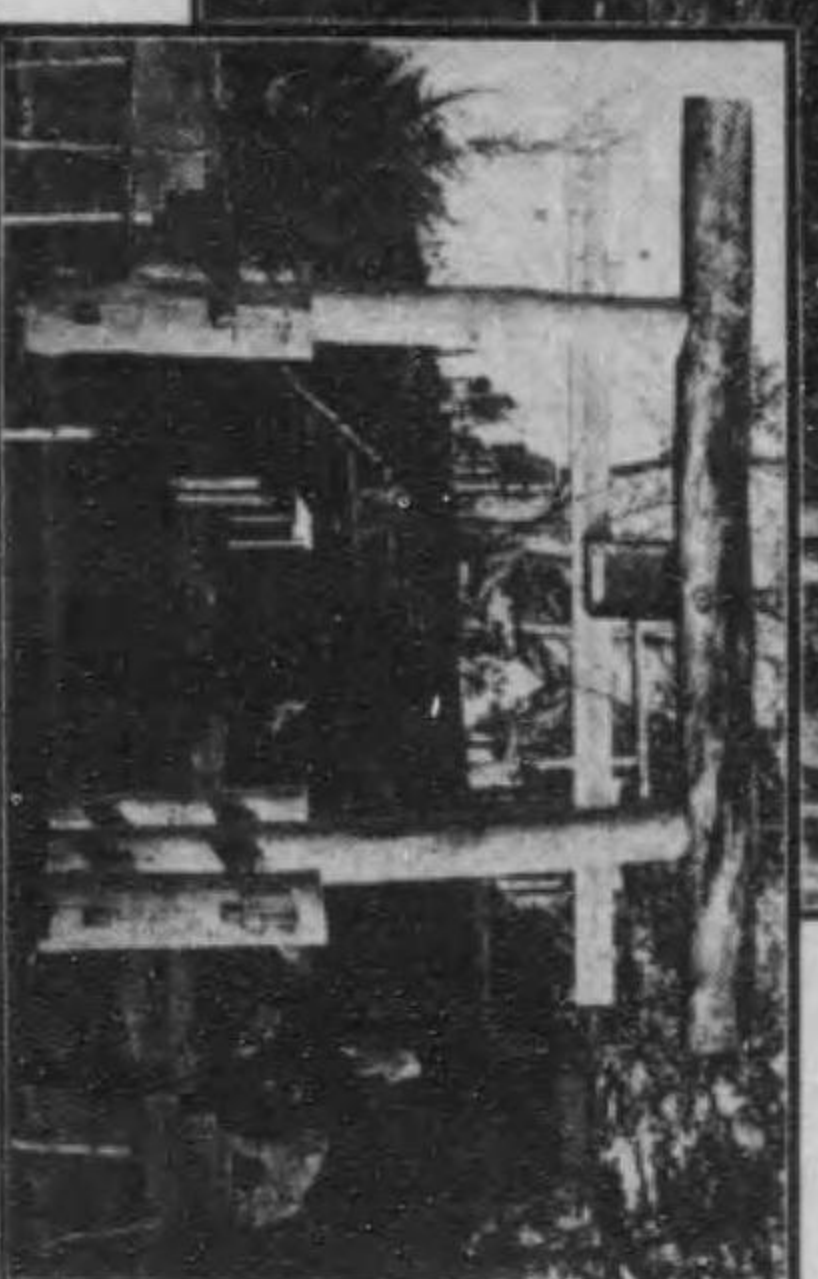
高 山 植 物 種 類 豊 富
北 海 道 富 士

雪 初 ノ 末 月 十 九 ヲ 見 リ ヲ 街 市 安 知 俱

氏神八幡神社



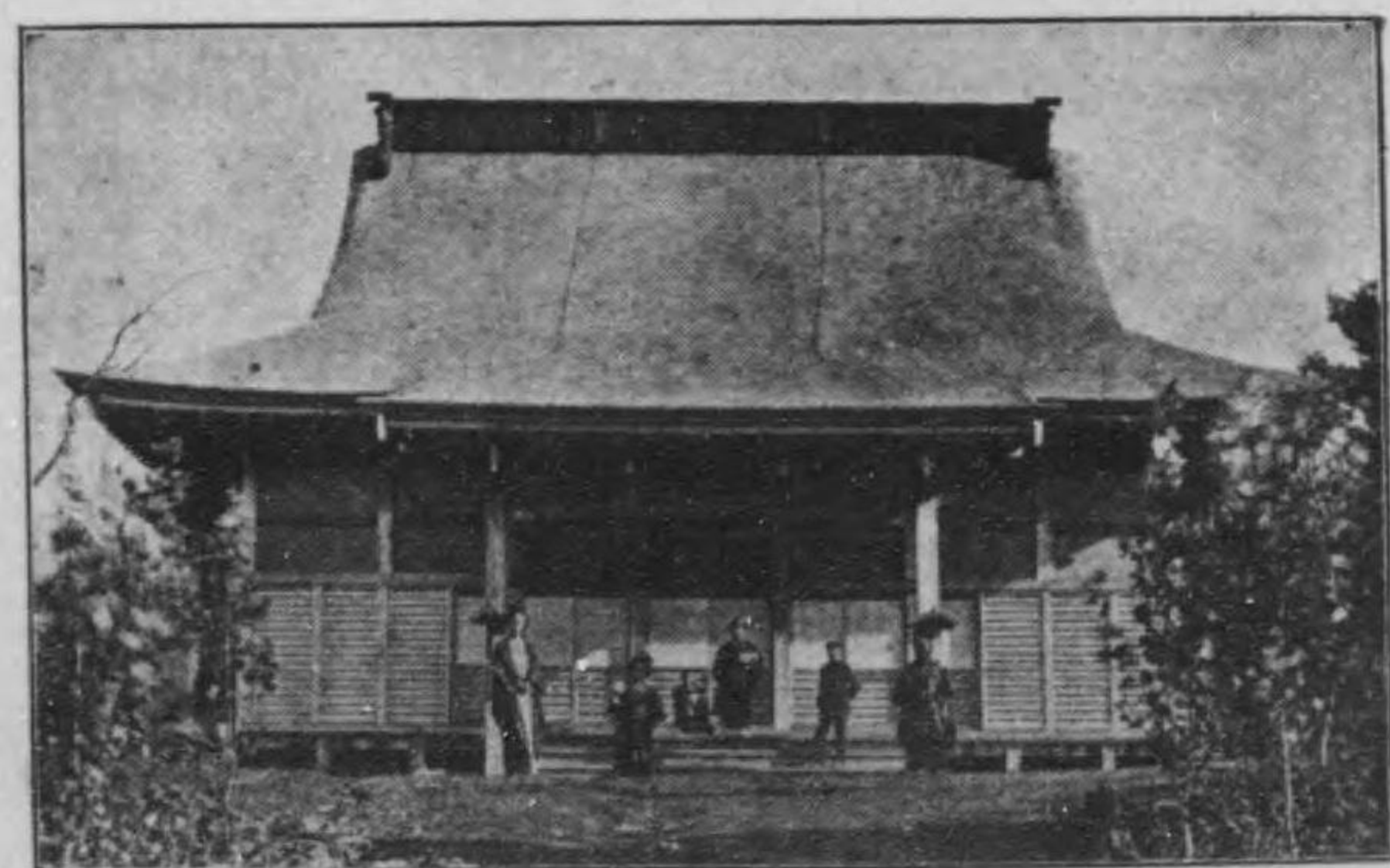
拜殿



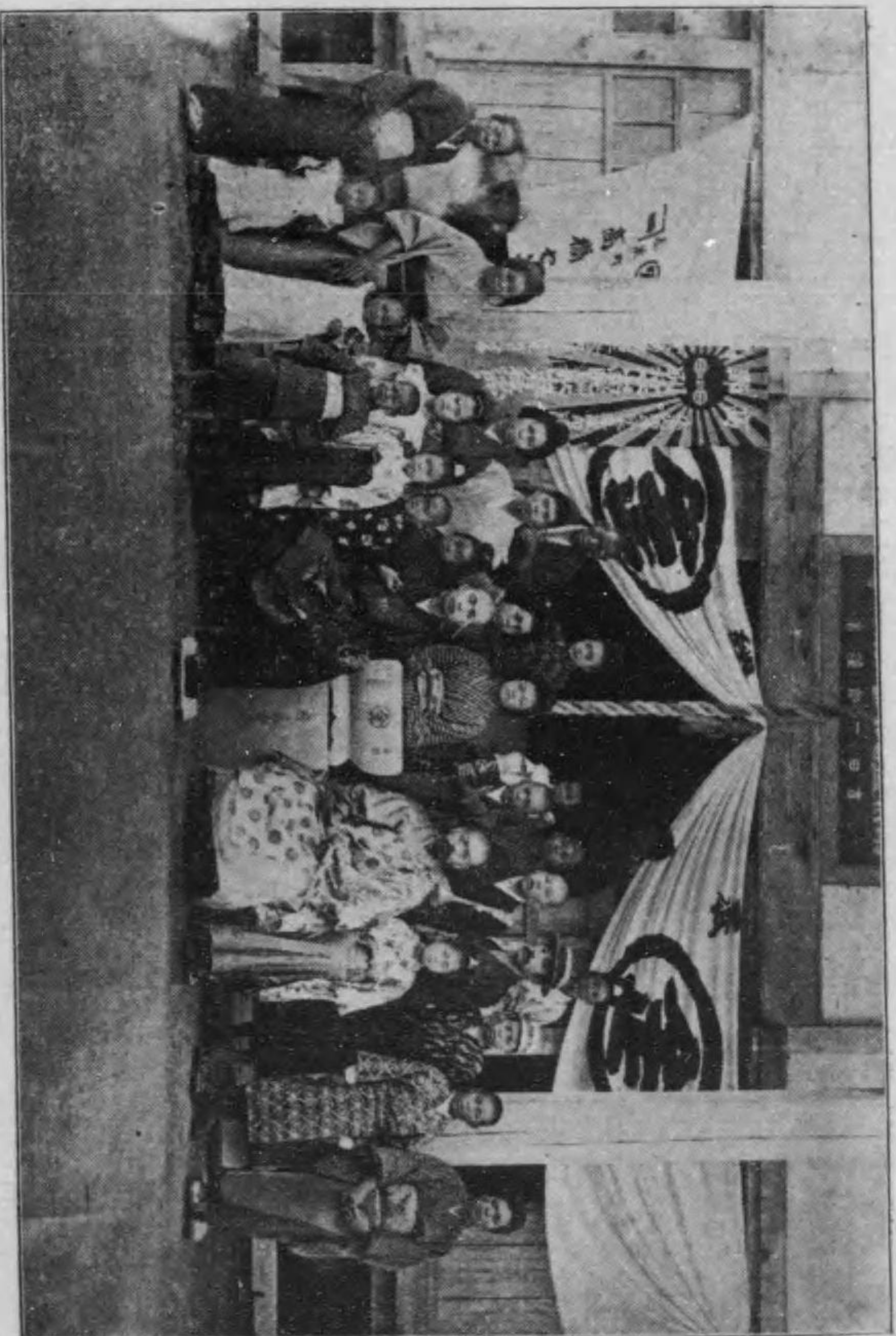
一ノ鳥居



真宗大谷派東林寺本堂



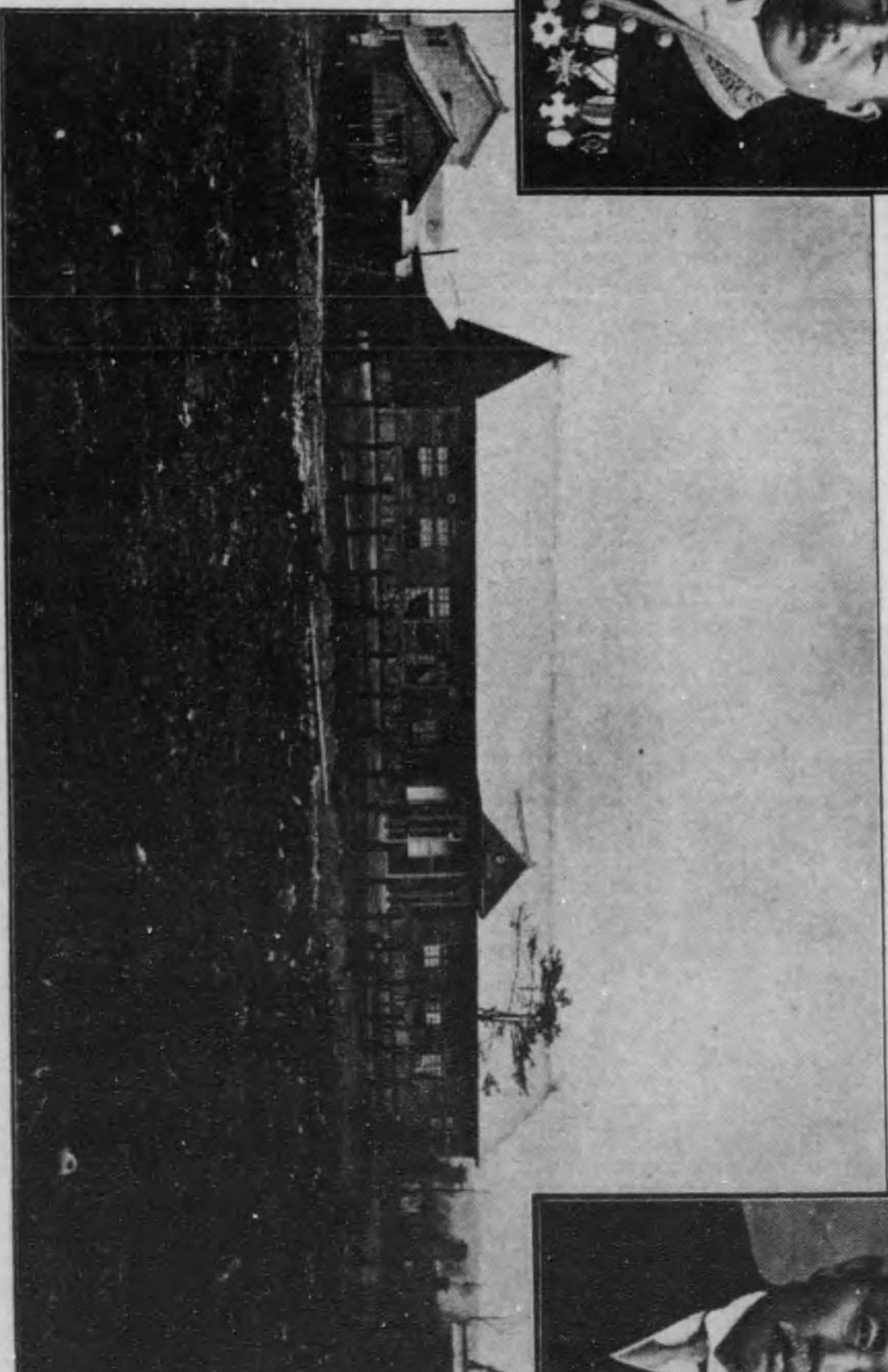
真宗大谷派圓融寺本堂



堂本寺羅比金

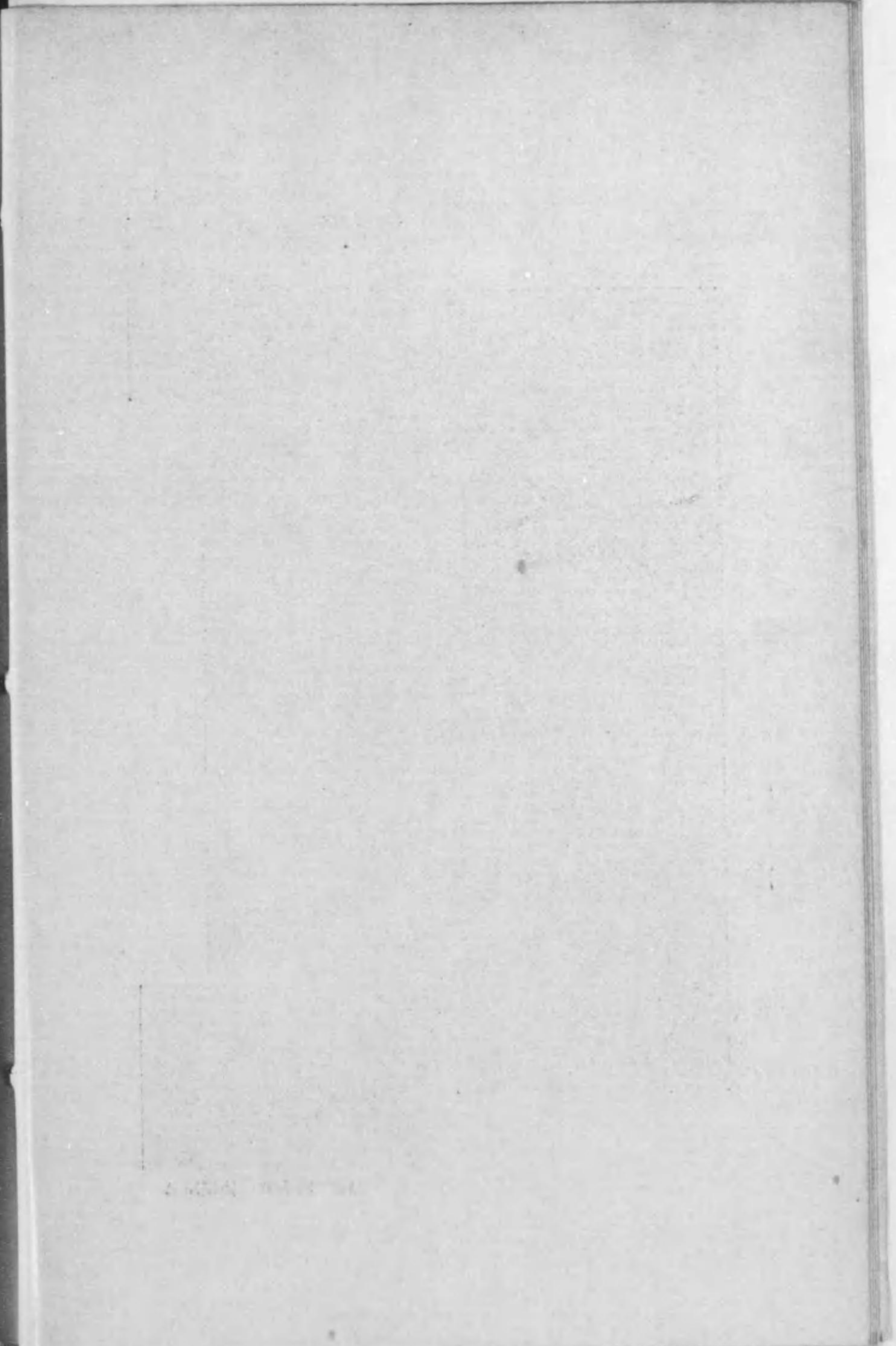


舊支團長 東鄉重清氏



現支團長 松崎喜五郎氏

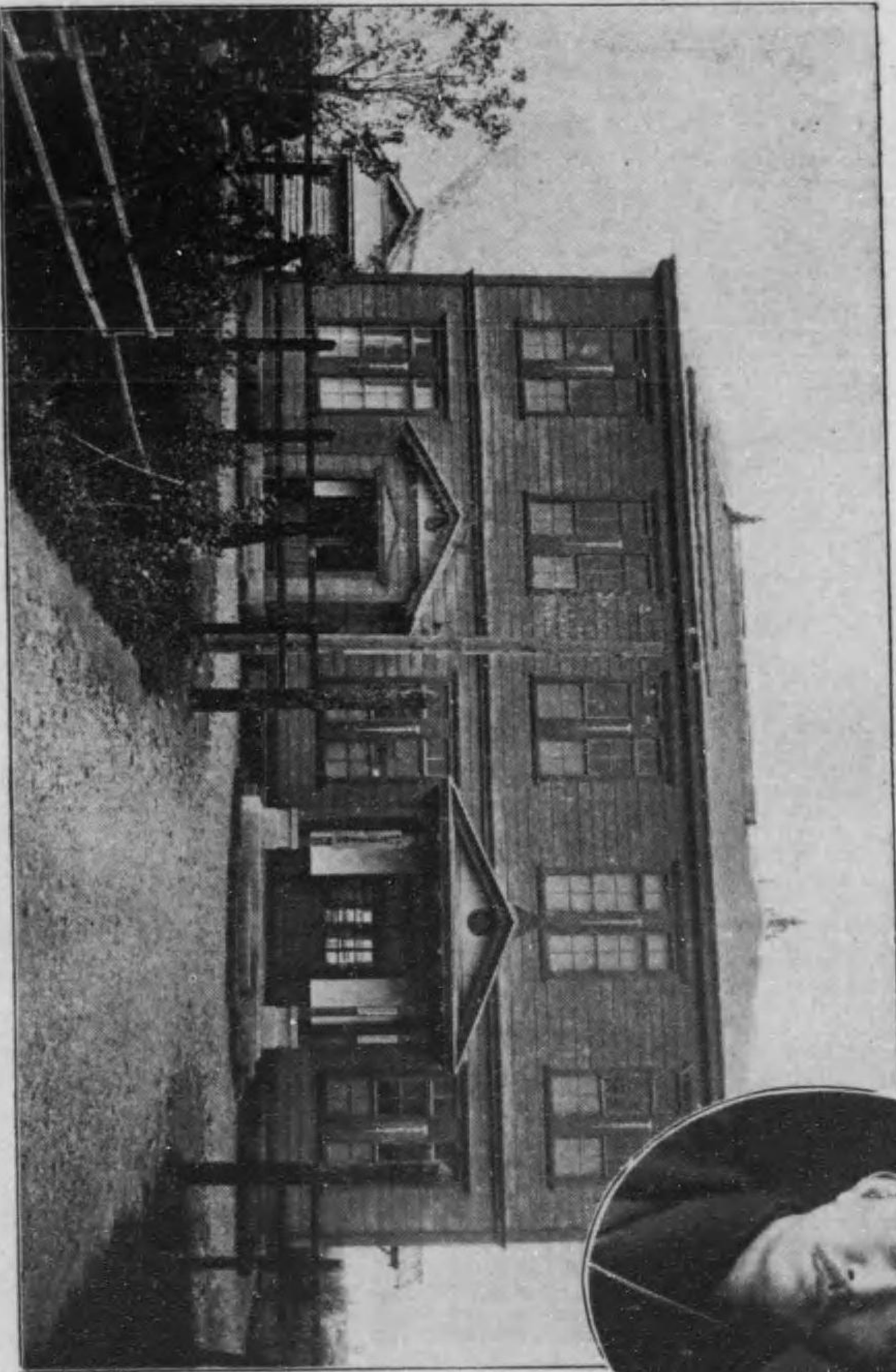
後 志 支 廳 全 景



現 町 長



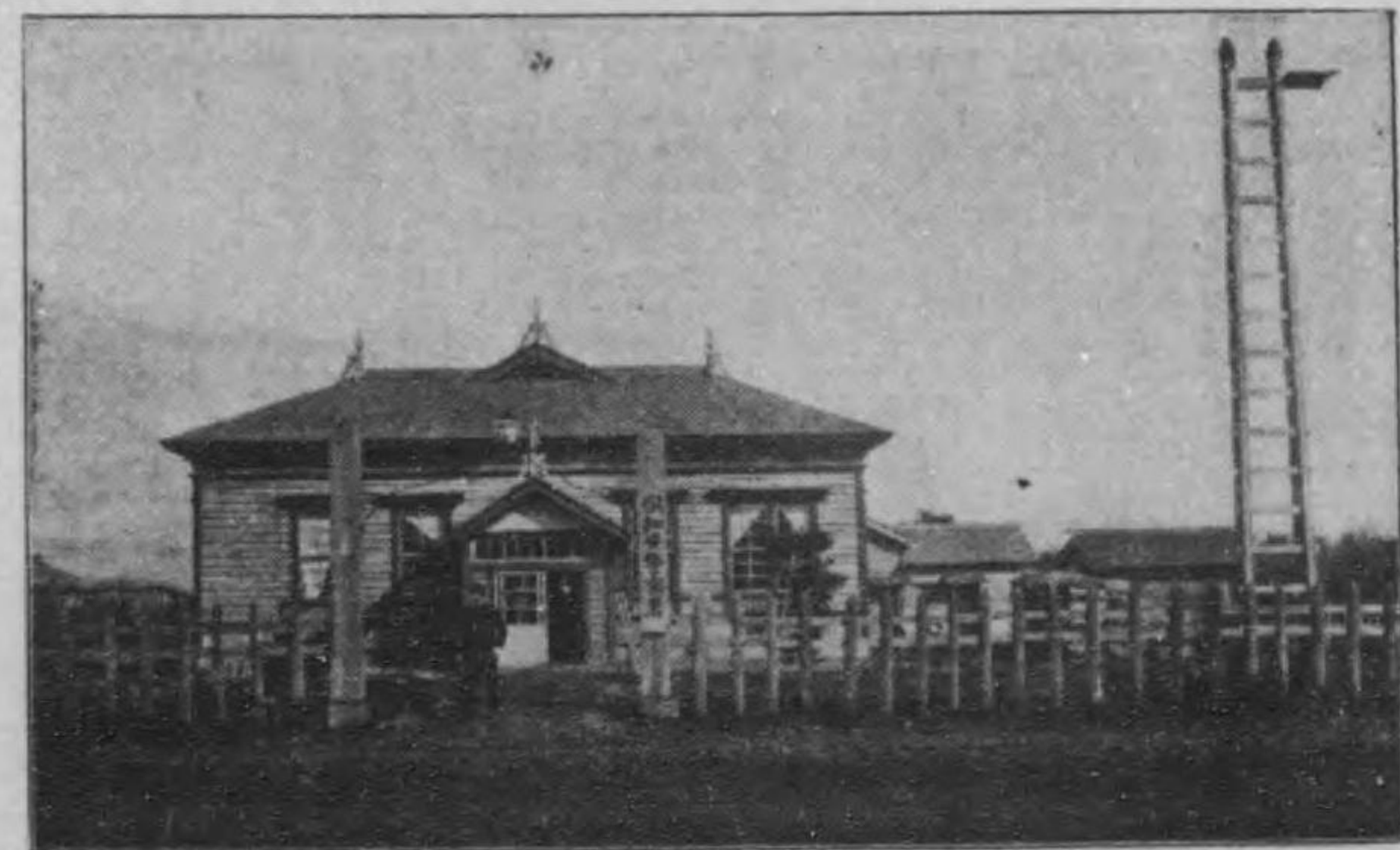
廣瀬悦太郎氏



俱知安町役場



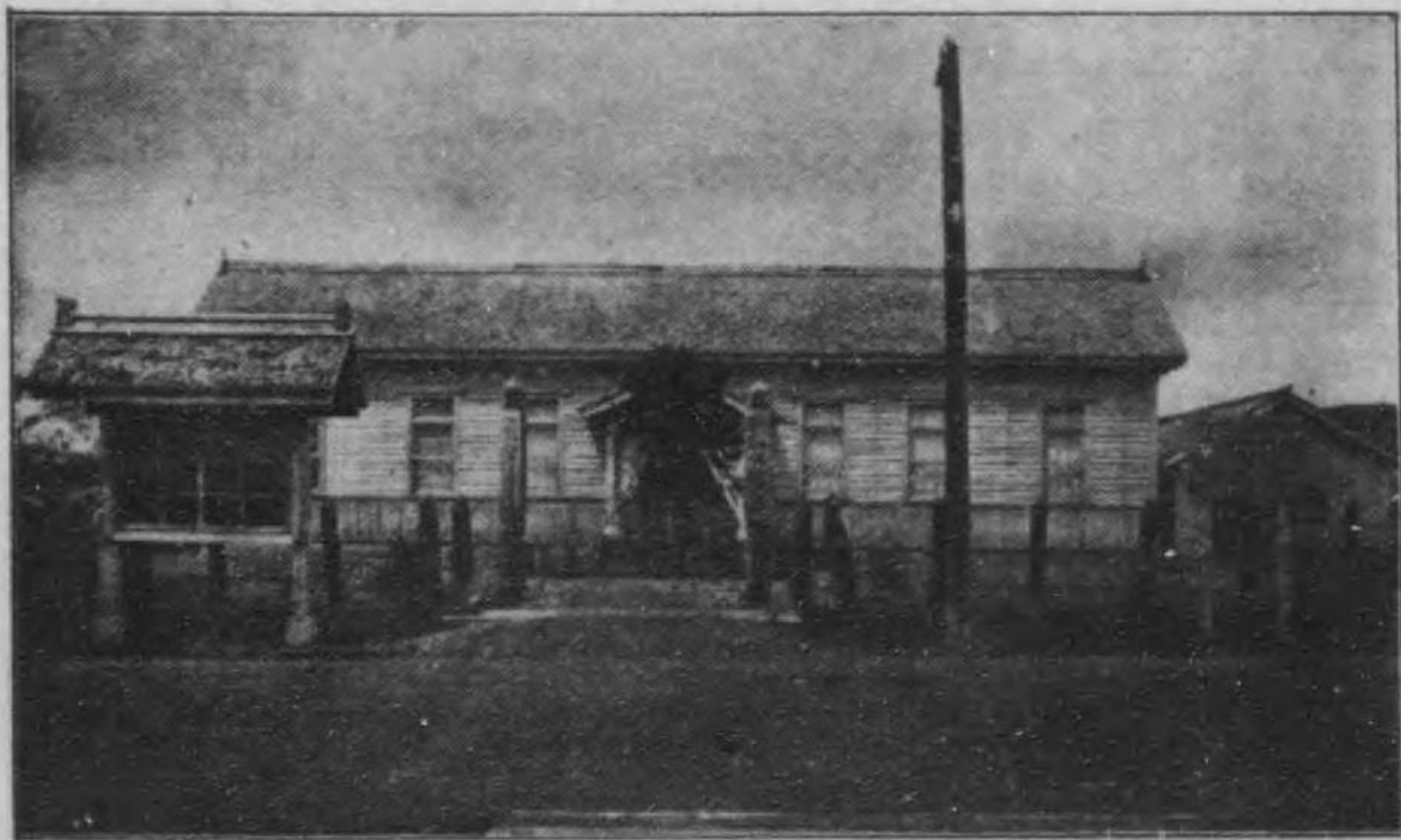
俱知安郵便局



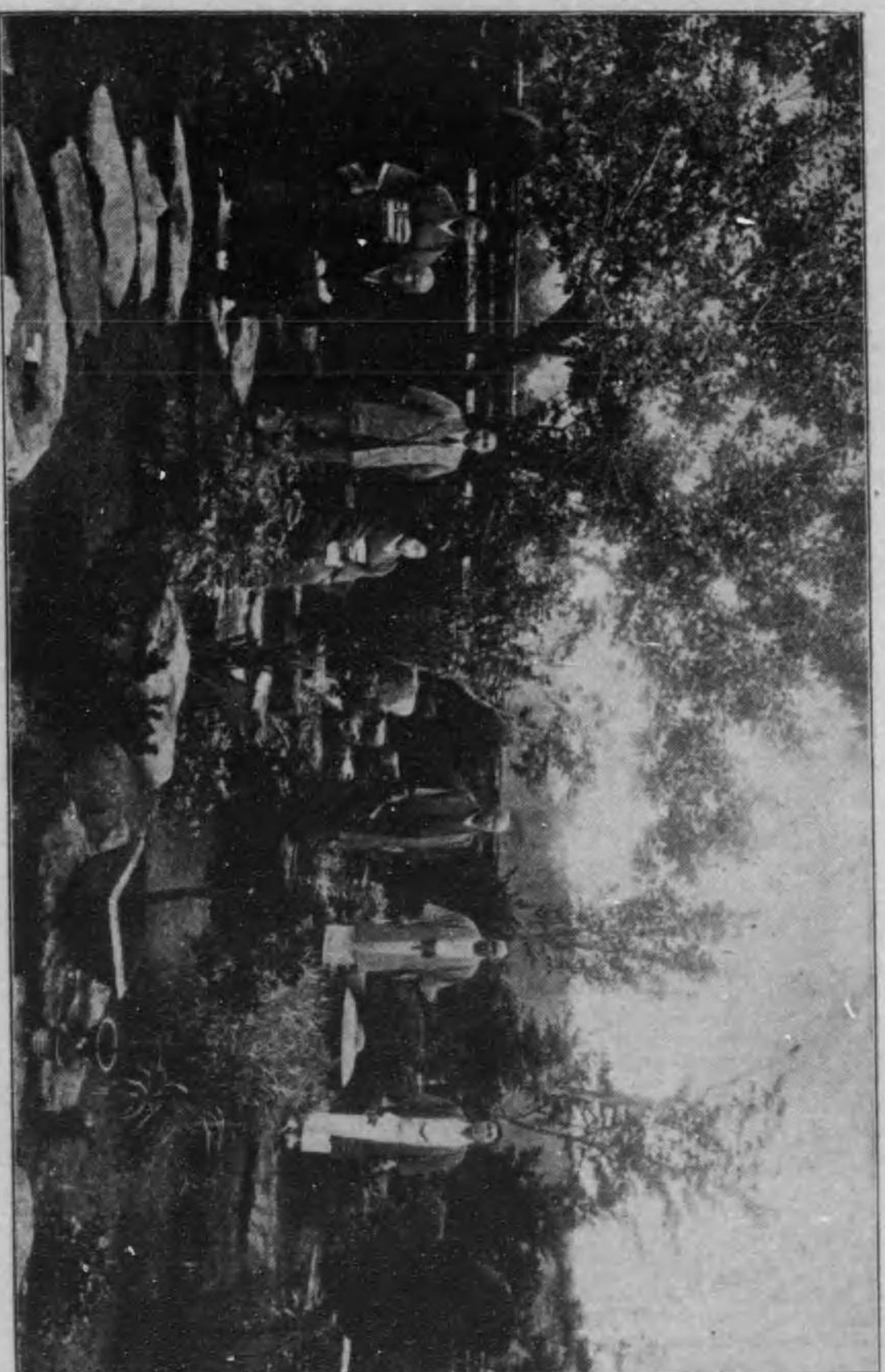
俱知安警察署



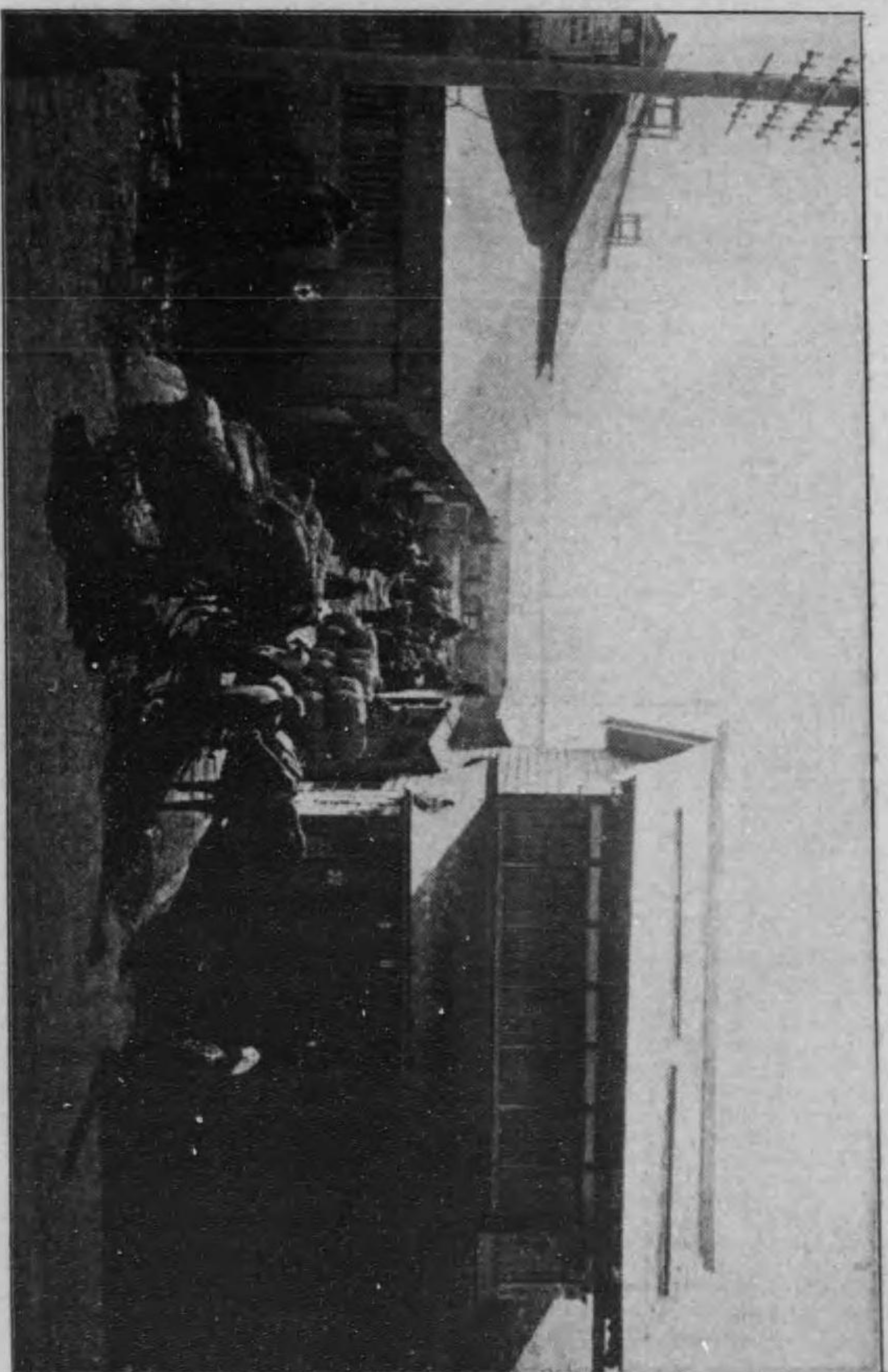
所務事林範模安知俱



署分安知俱區林營道海北



園庭氏松三與村中商豪安知俱



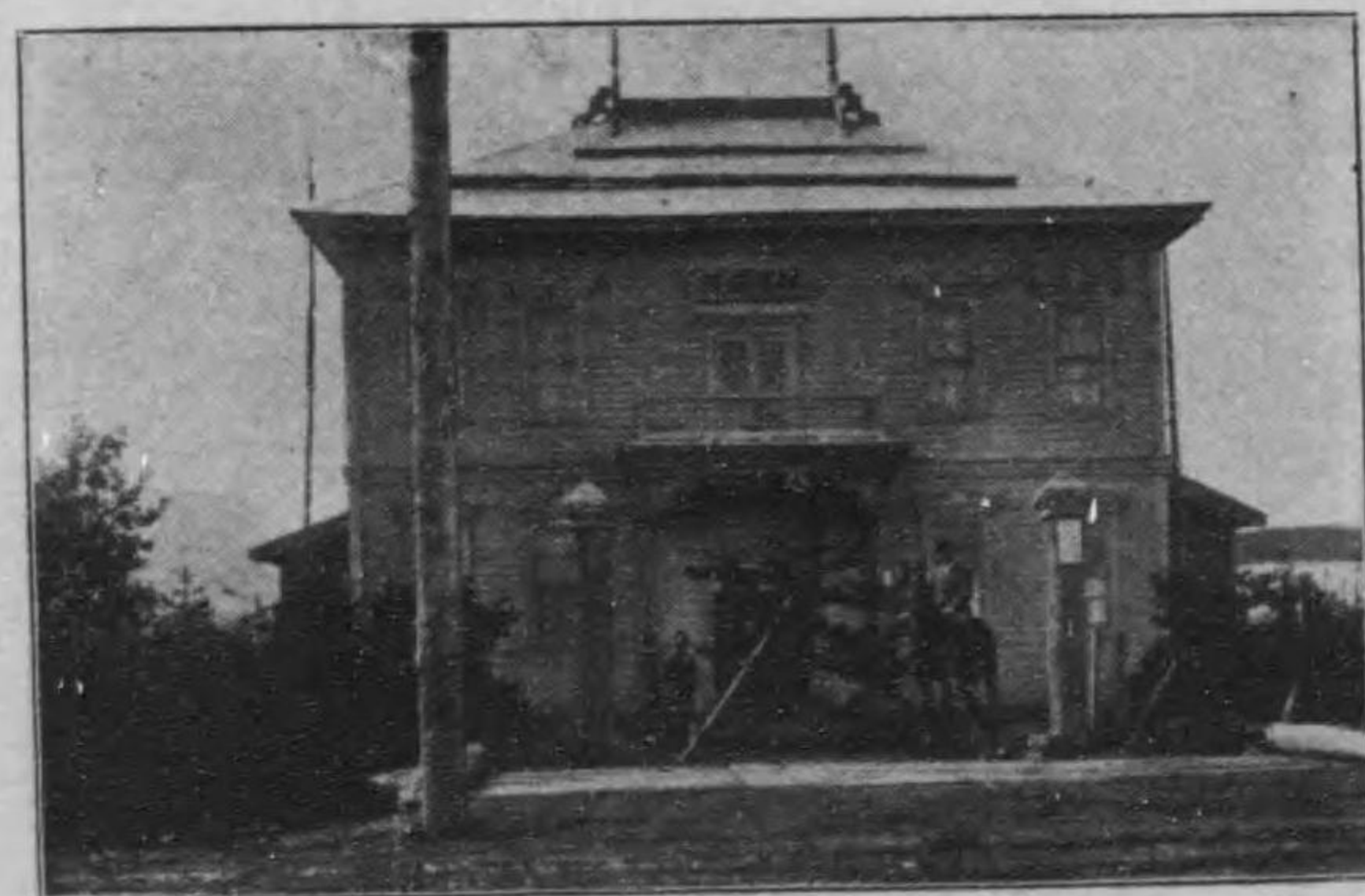
俱知安商伊井億右工門氏店舖

院 病 間 久 佐



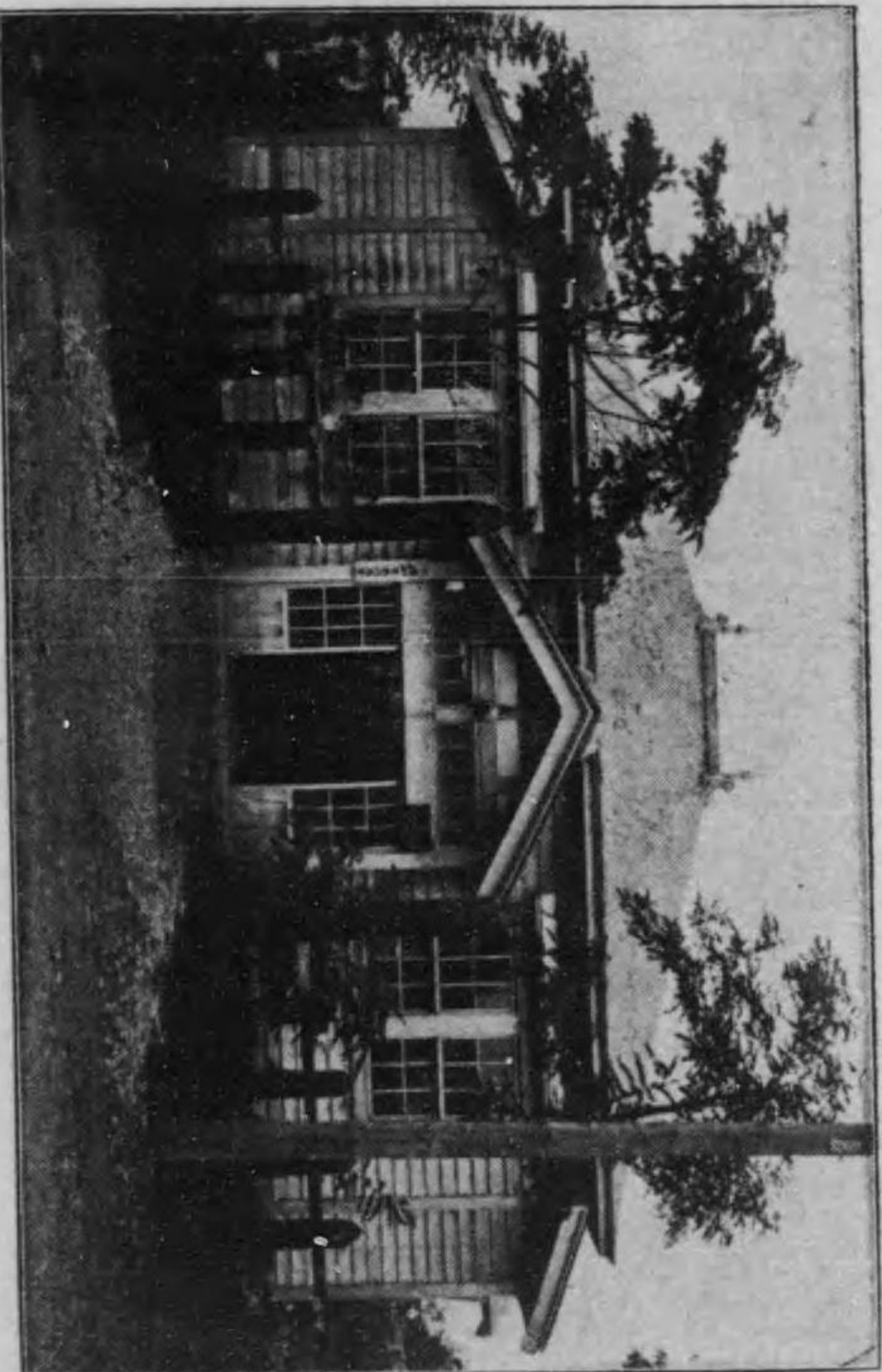
院病間久佐ノ營經氏作間久佐 主院

院 病 尾 横



營經氏郎三弘尾横

健奇ノ業材木



宅居氏勝藤後

健奇ノ業材木



氏三好雲村

町會議員



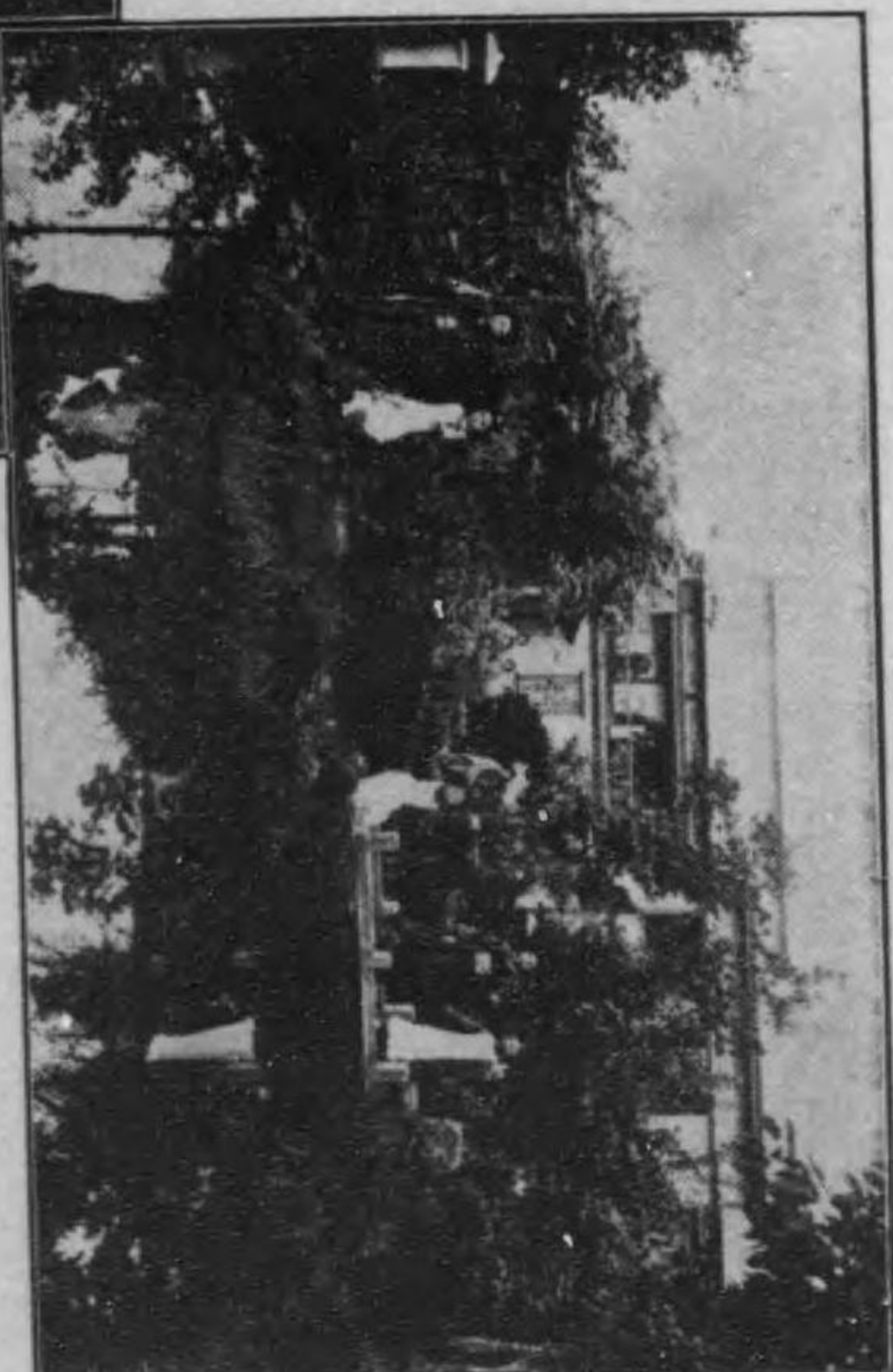
八反田角太郎氏

町會議員



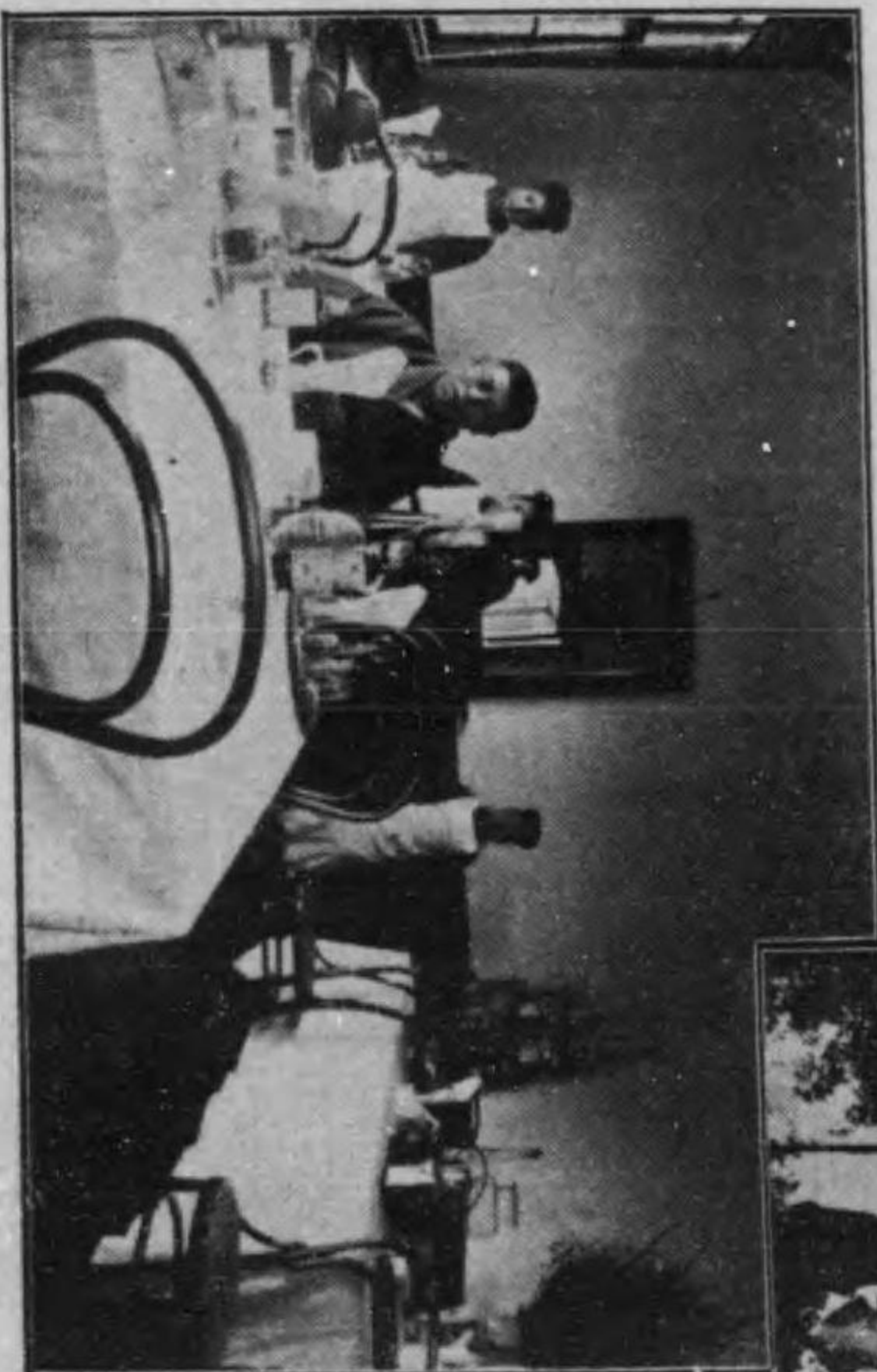
萩田清平氏

園庭樓清秀



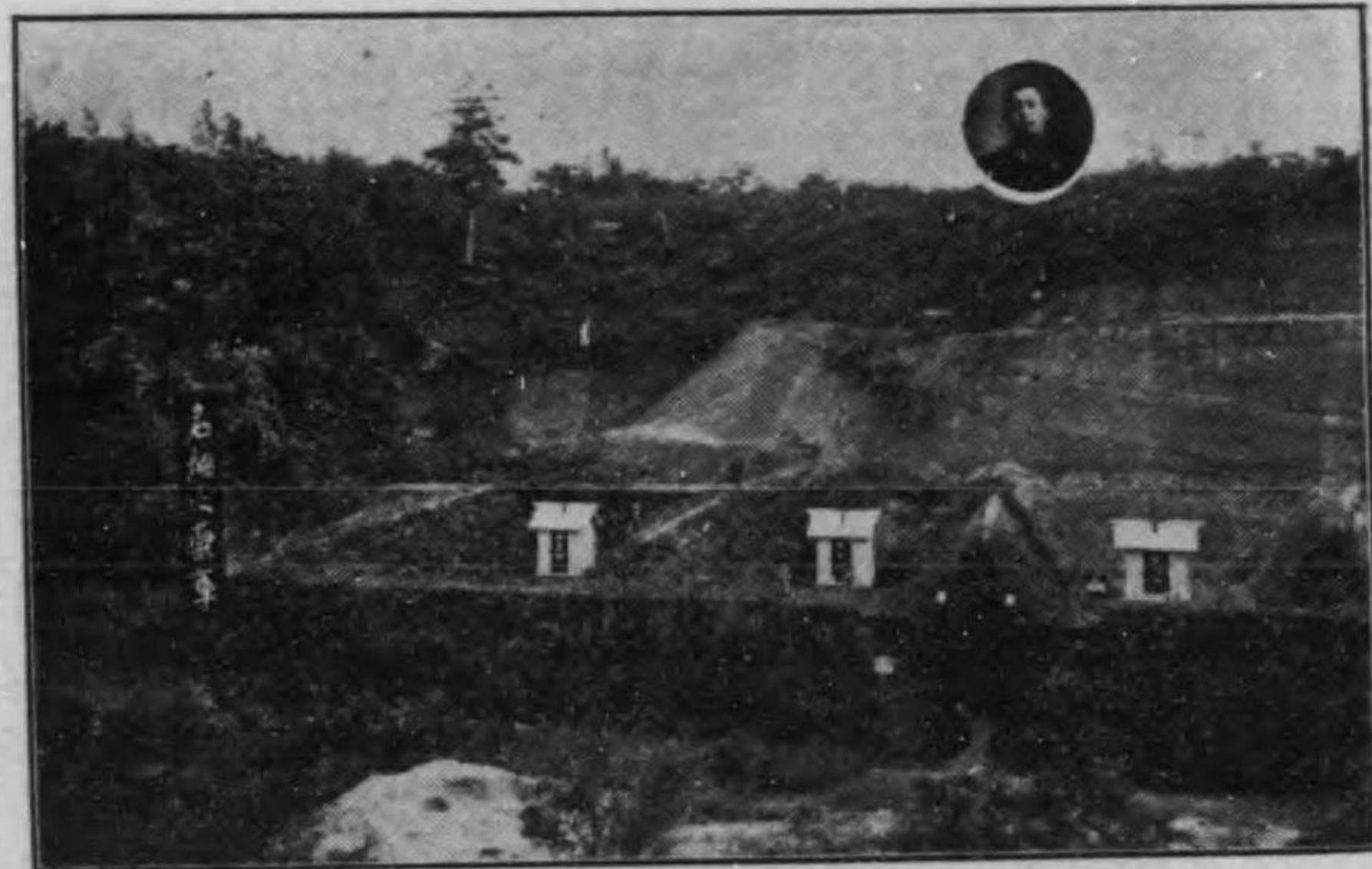
店理料ノ管經氏耶三敏上尾

人主ニ並堂食洋



園附樓清秀

大正四年新年築火藥庫



名畑長太氏經營



進藤金物店

青 年 成 功 者



高 橋 三 住 郎 氏

青 年 成 功 者



中 山 真 作 氏

石田順一君



石田宗一氏長男

せ

大林木進君



大林木二郎氏長男

し

ら

す

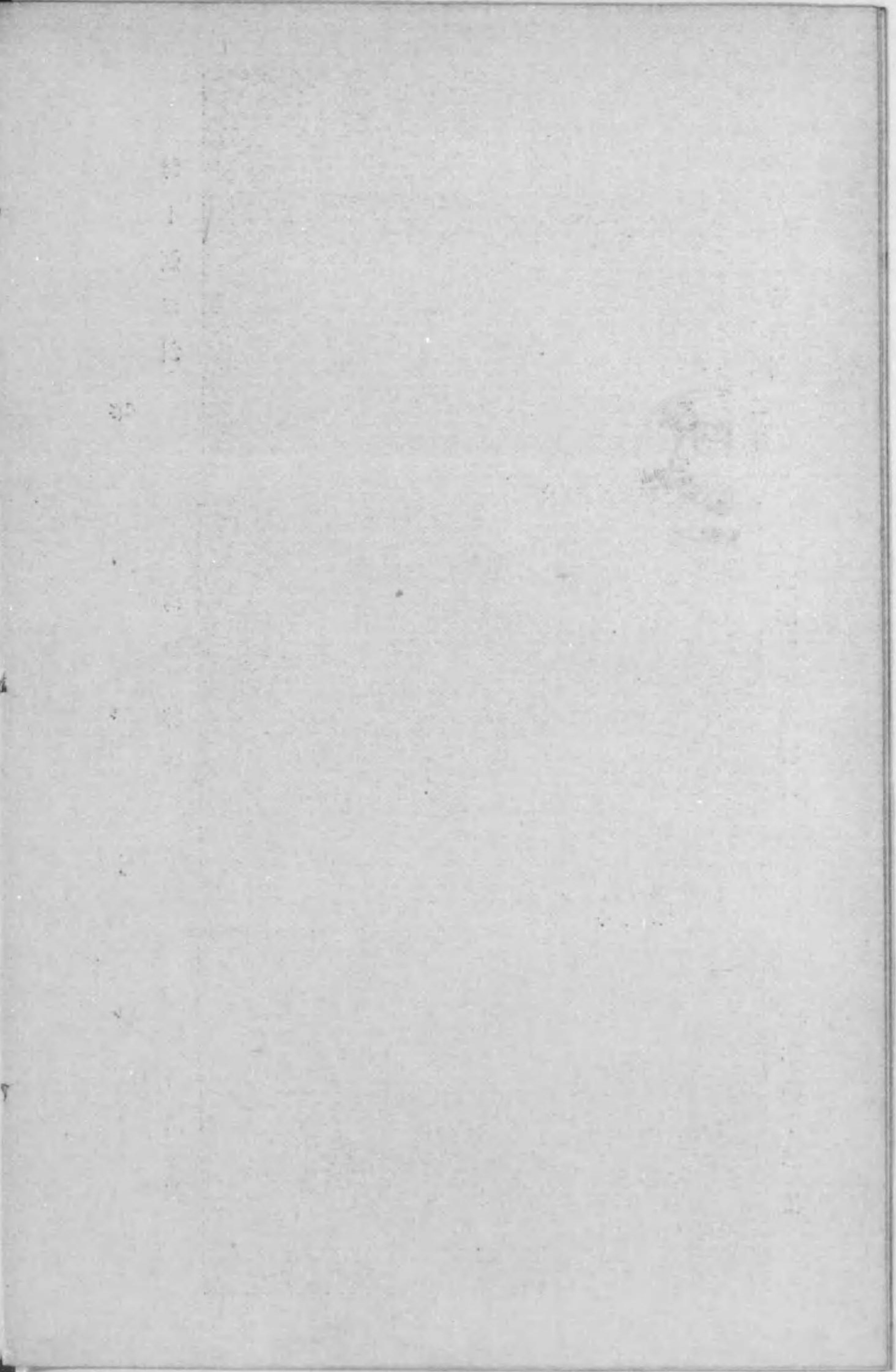
堺正直君



堺惟一氏長男

(四十六年十一月生)

(大正三年十二月生) 同五年八月撮影

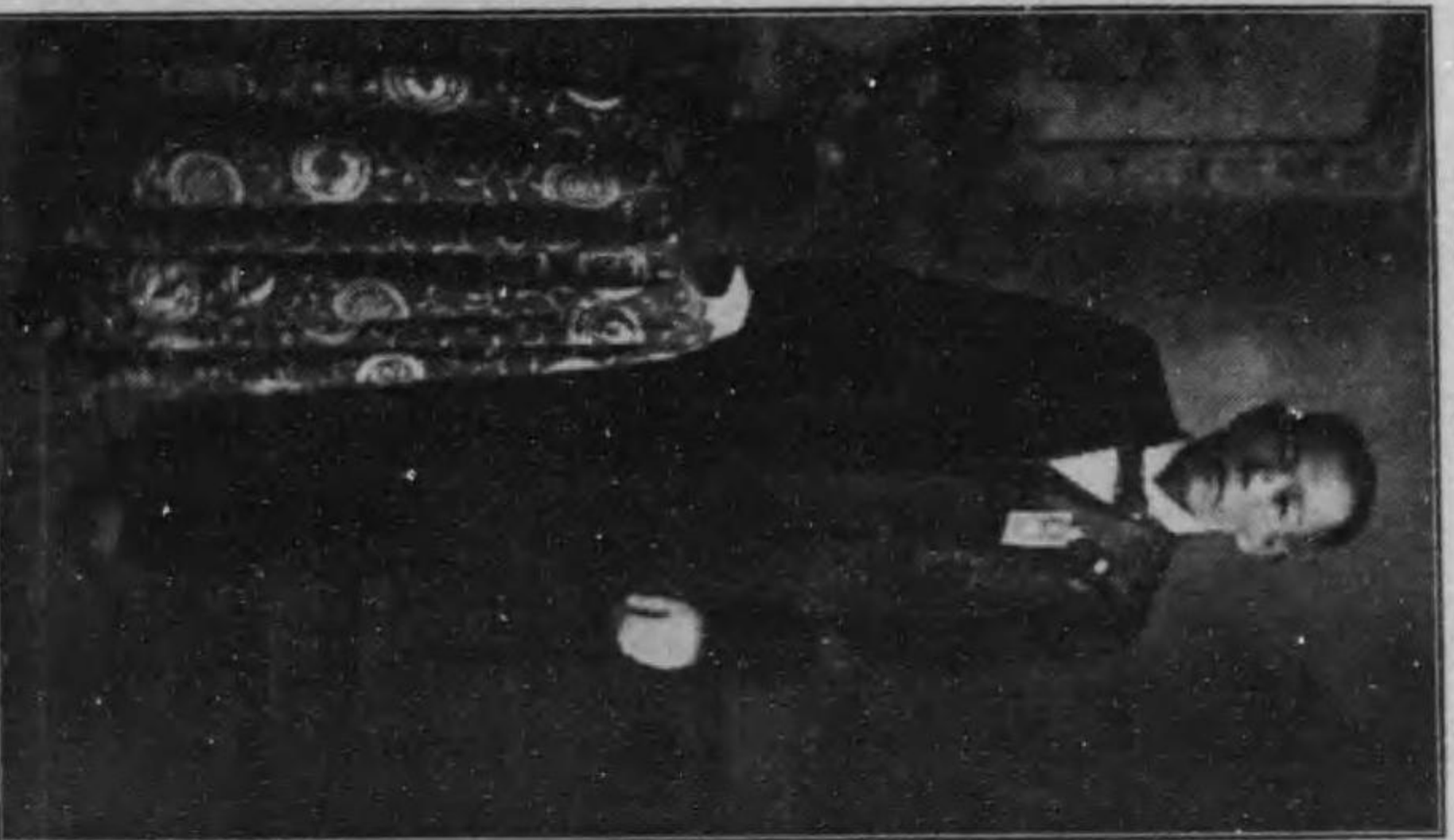


町會議員



樋口之助氏

青年送効者



一宮三郎氏

町會議員



金輪五郎氏



松本清吉氏



猪瀬清吉氏

町會議員

(聯合實業購買會)

者業門專殺雜



氏郎次米田白

員議會町



氏,郎三義田澤

俱知安水力電氣會社重役

主 場 農



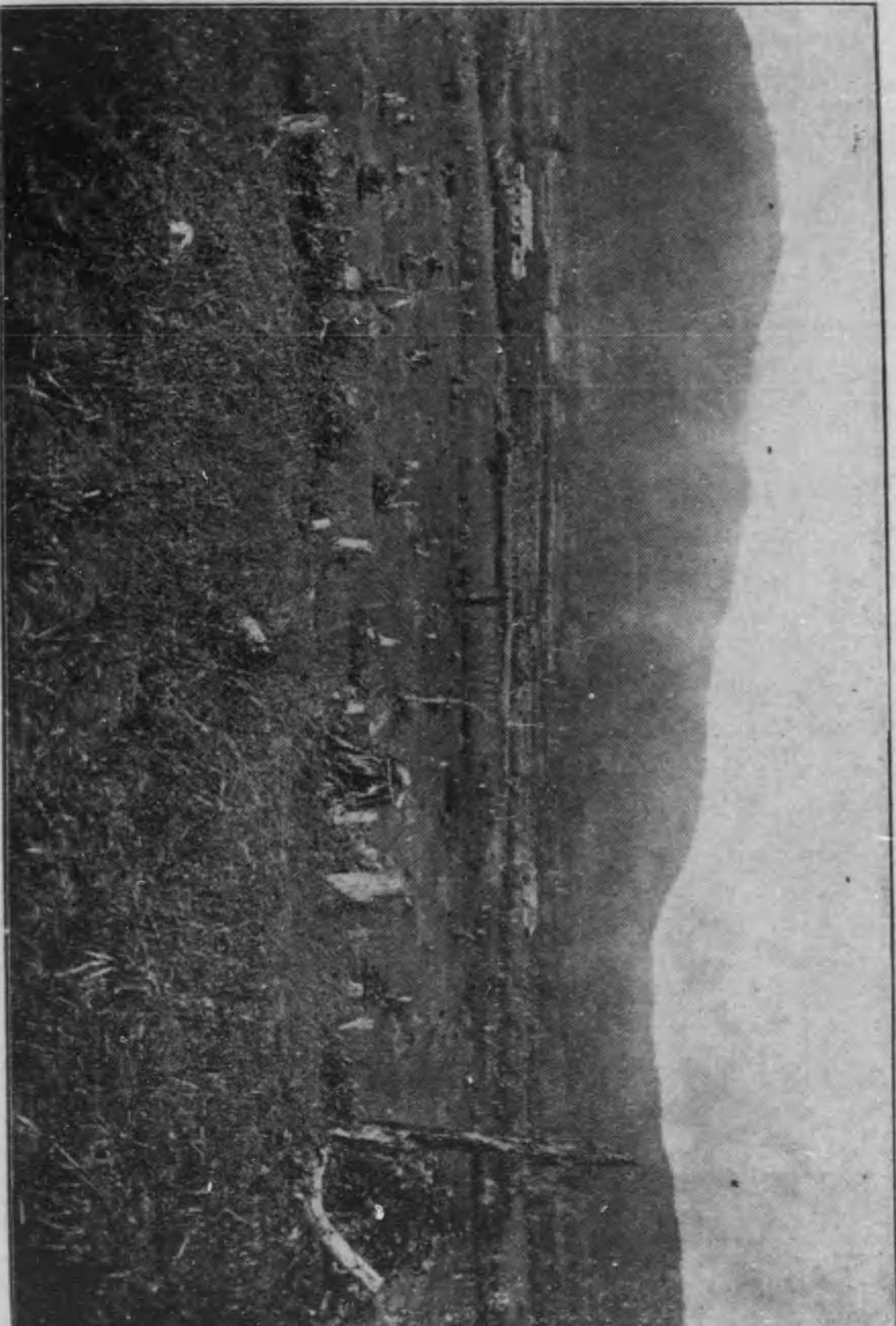
氏 太 平 佐 森

者 業 産 農 穀 雜



氏 人 靖 木 朽

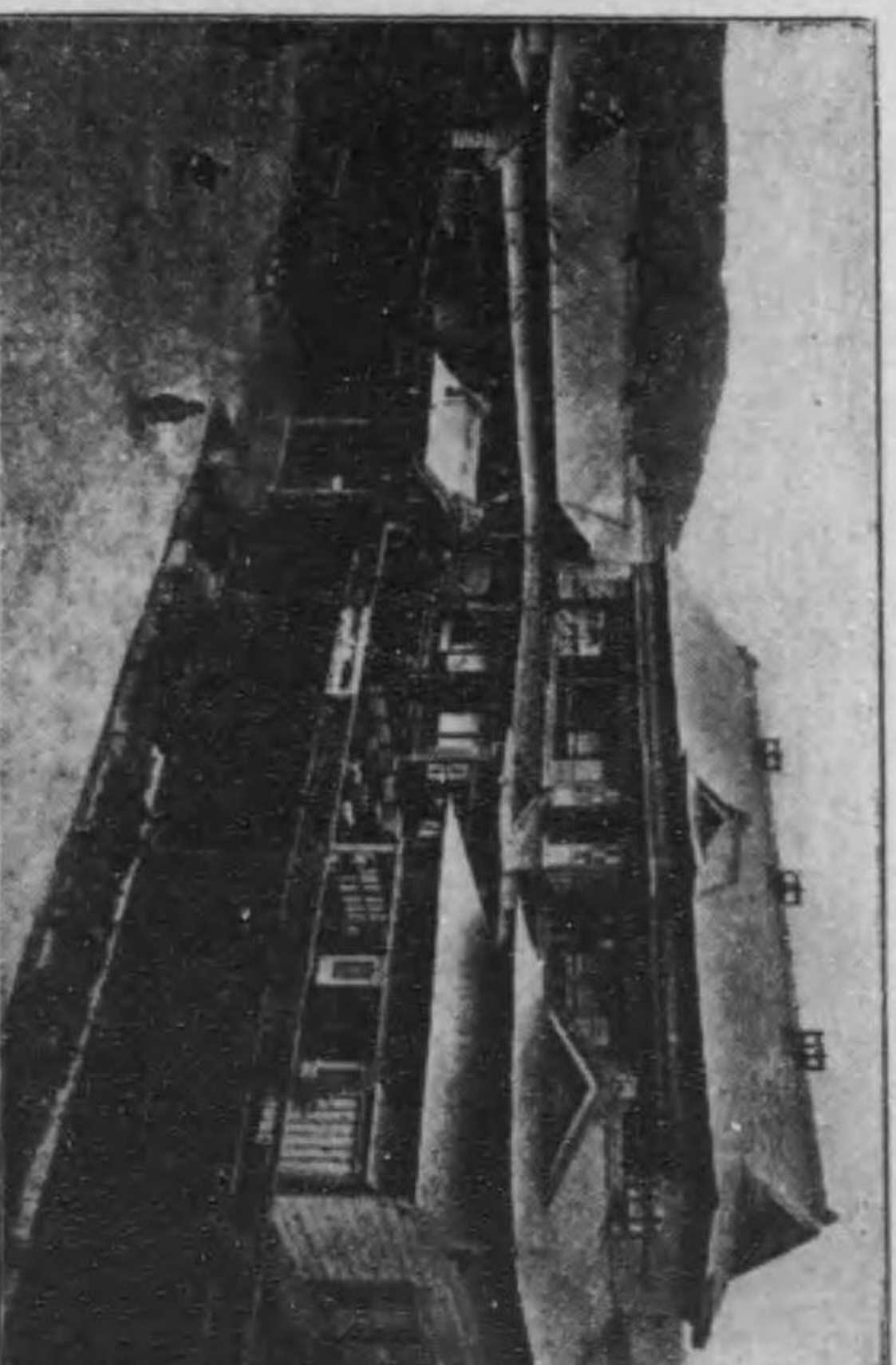
富永農場の一部ノ景



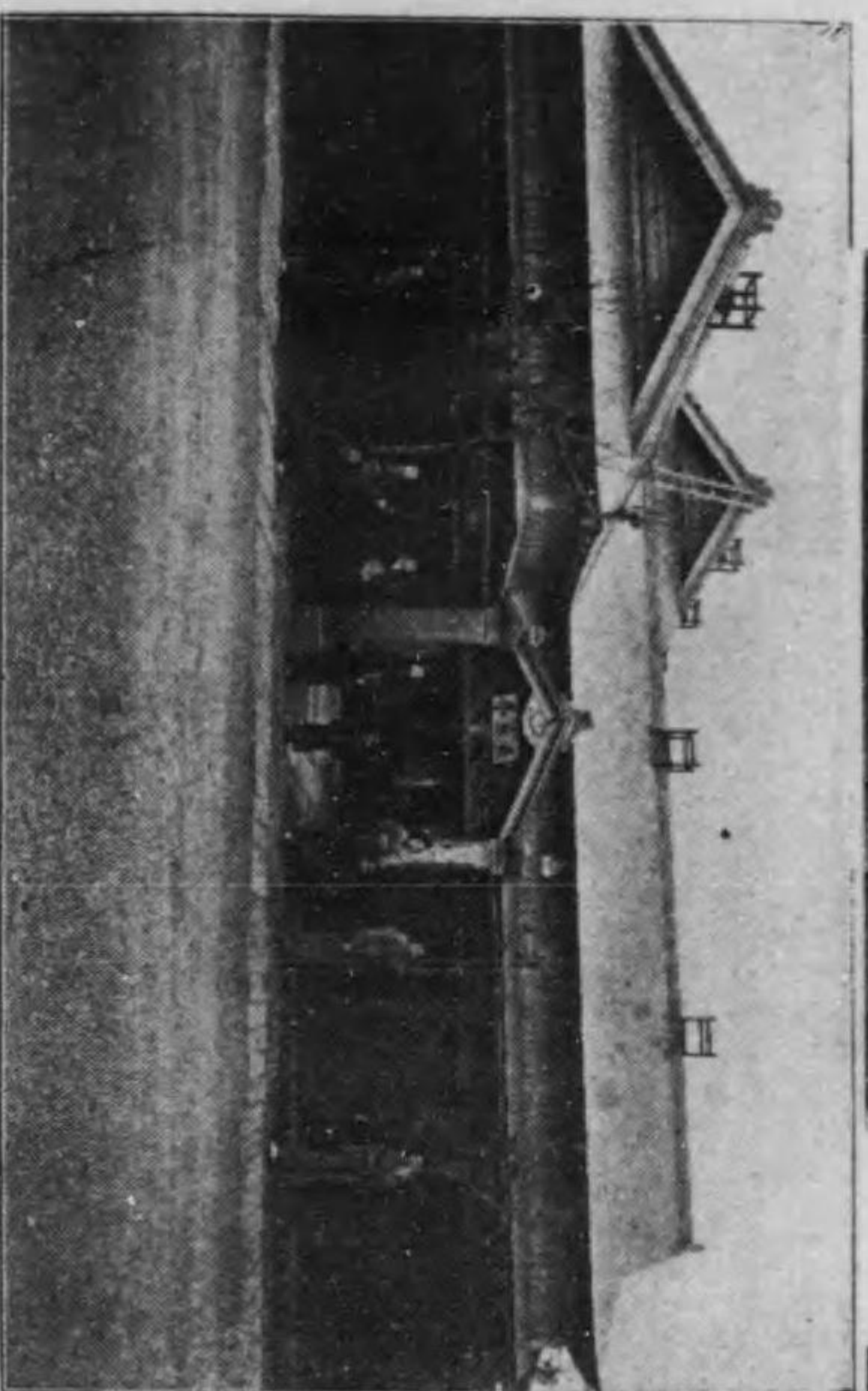
富永浩彰氏



喜樂亭主人

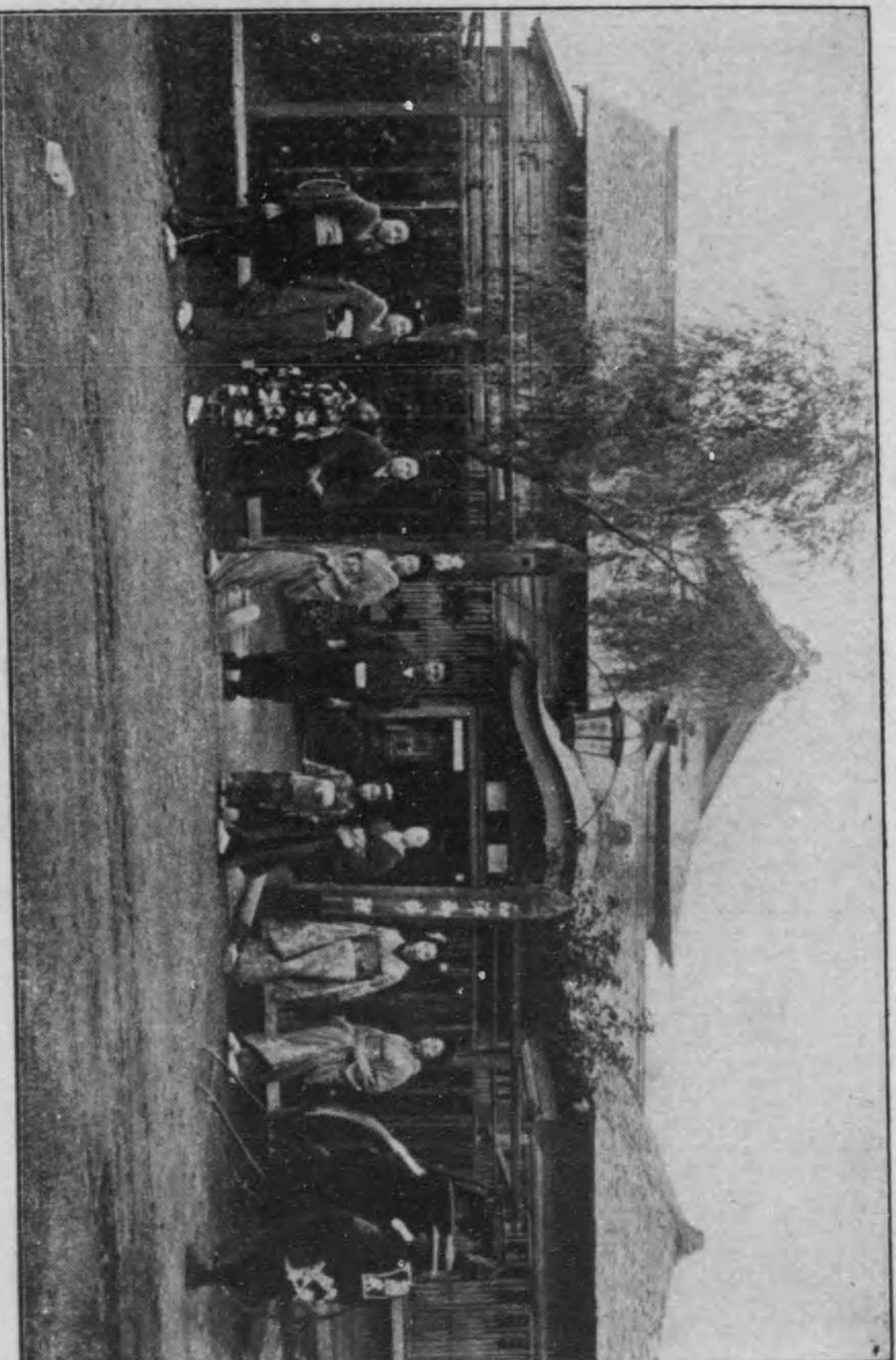


(面正南) 亭 樂 喜



(面正表) 亭 樂 喜

代久喜亭旗



管經氏郎三勝亦已

長部一第



氏吉兼川府

頭組



氏吉邦田山

長部三第



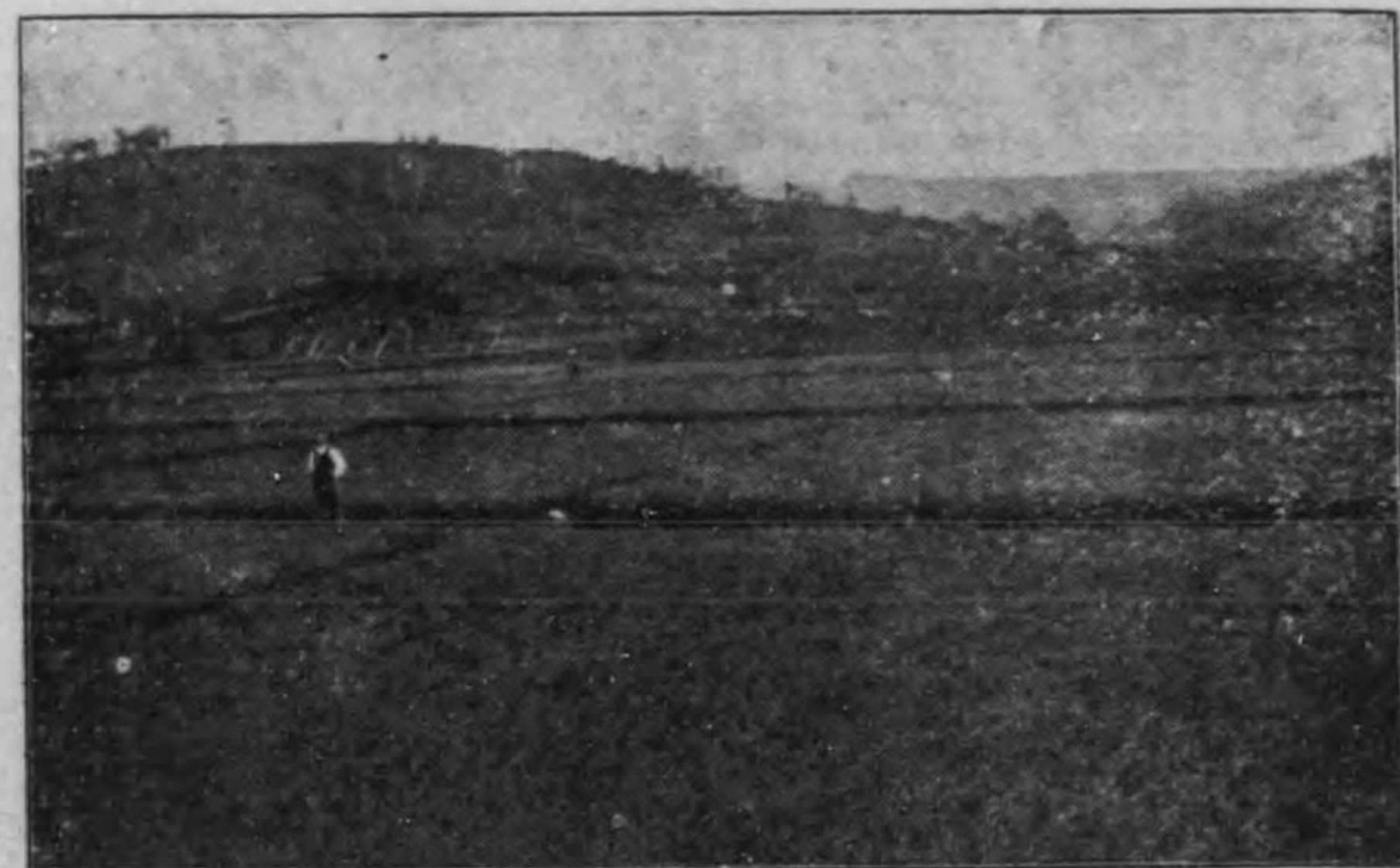
氏郎次平田鎌

頭小部一第



氏治善庫兵

青木農場

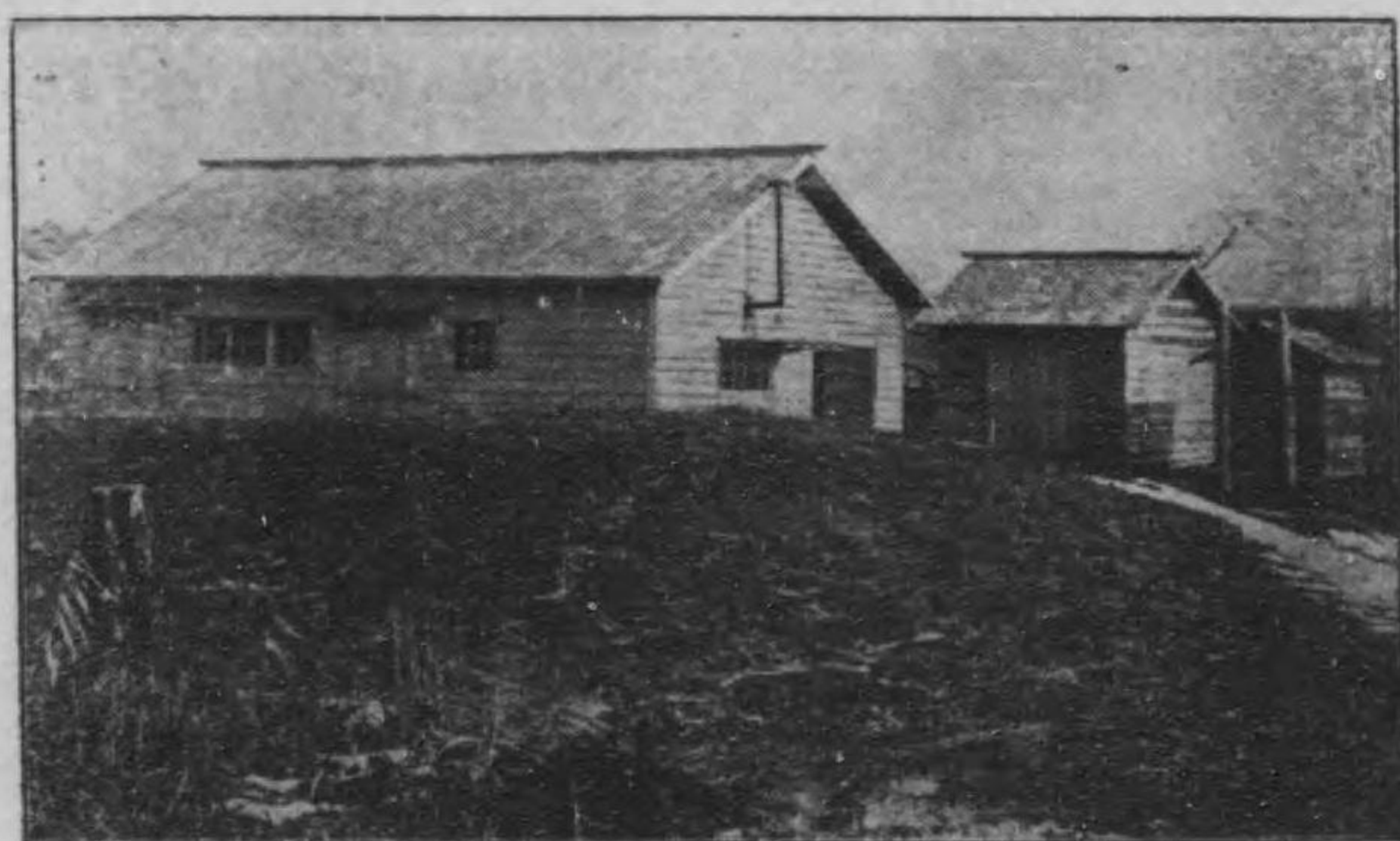


水稻模範試作水田ノ景

大正四年九月廿五日撮影

青木三哉氏主場

屠殺場

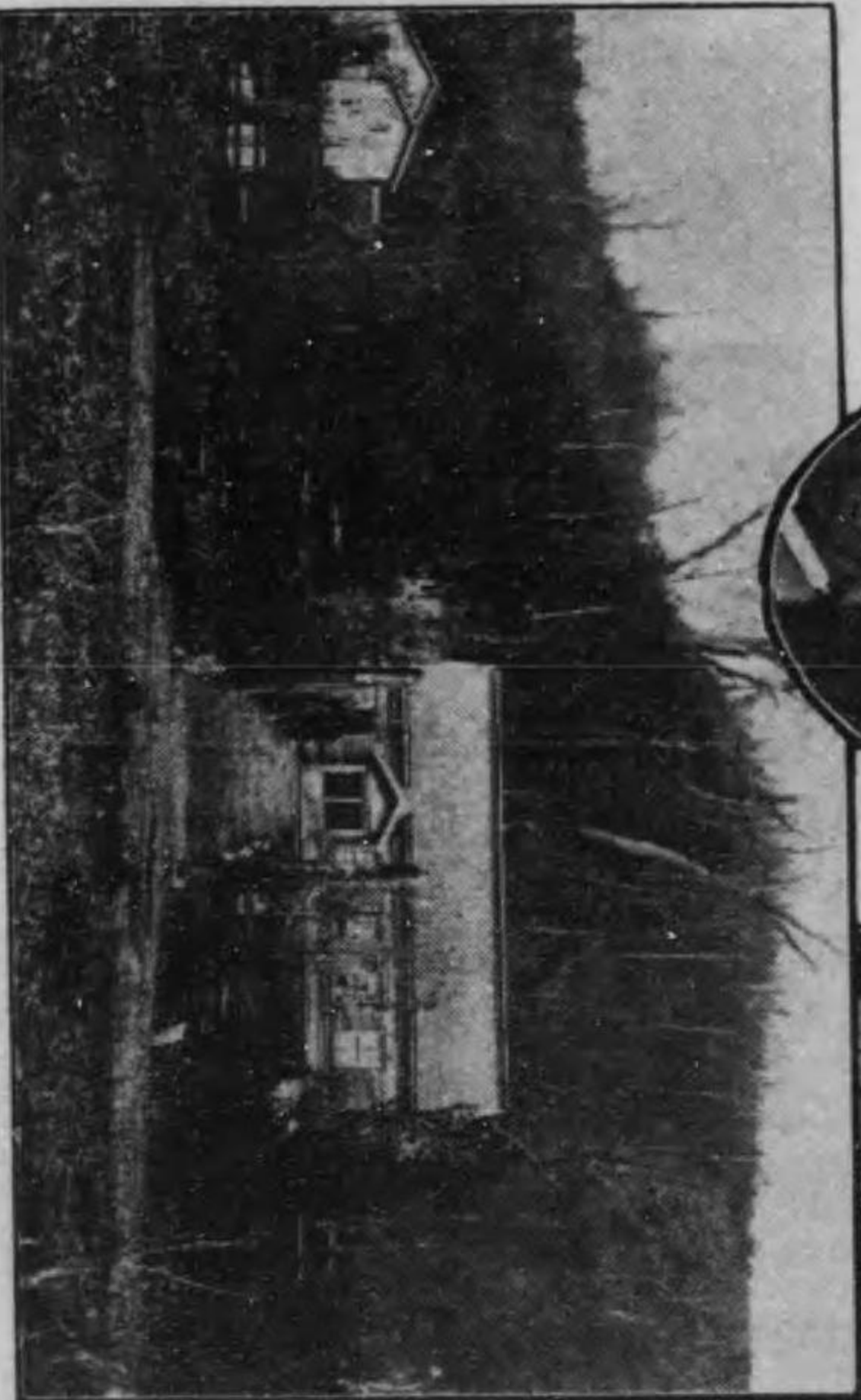
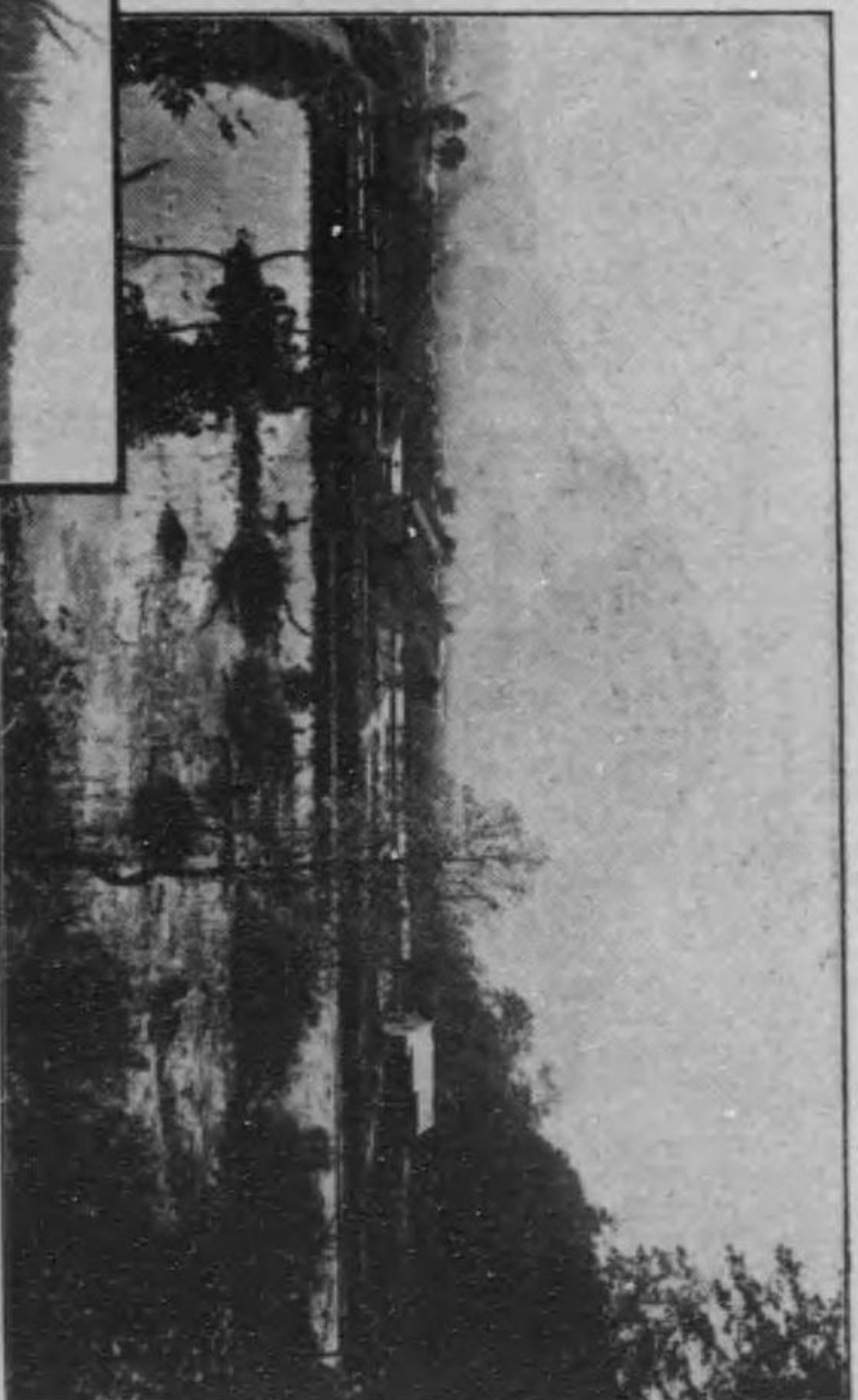


池本空之助氏經營

山 上 翠 次 郎 氏

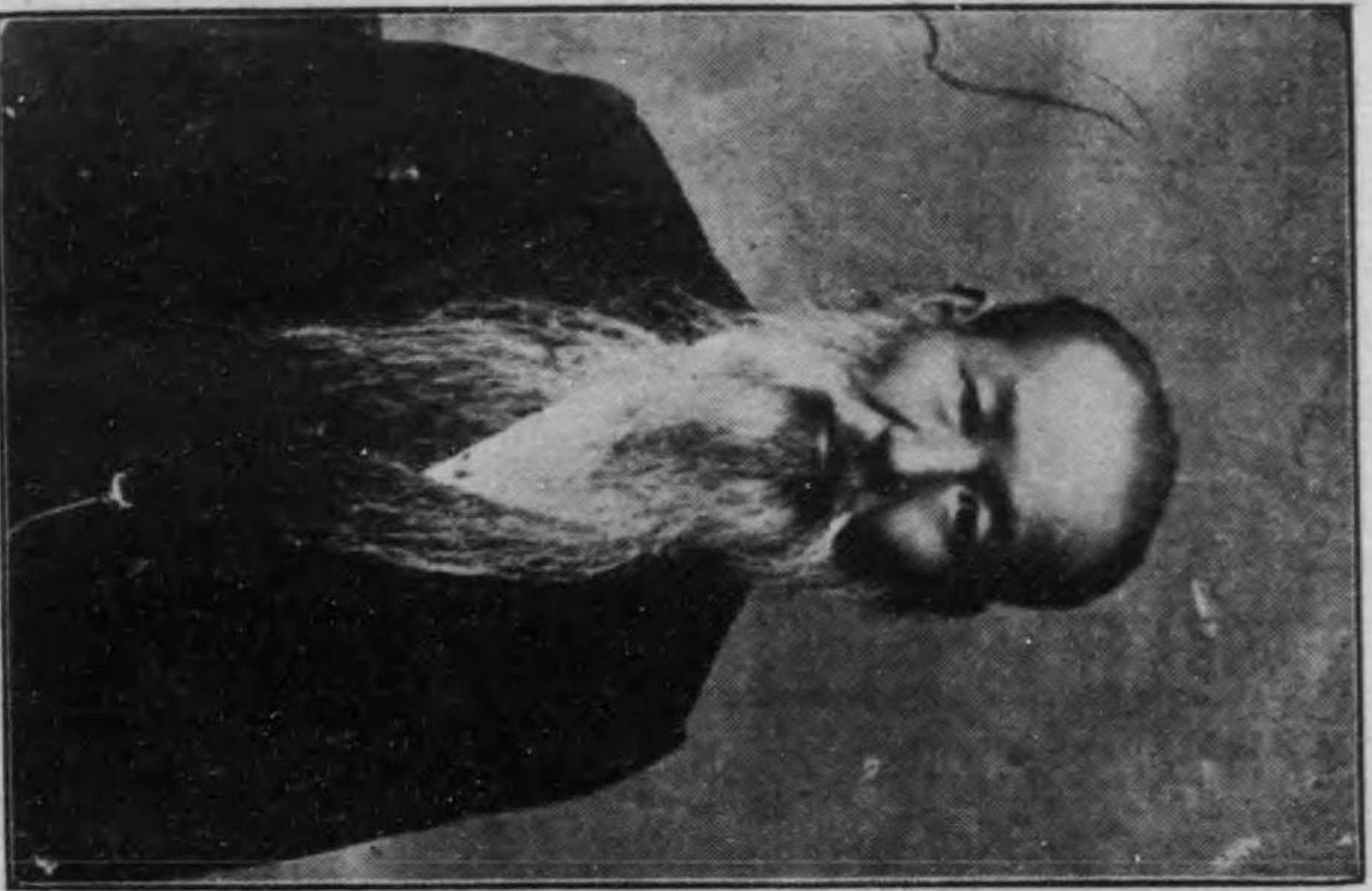


山 上 養 鯉 園 卡 卡 士 富 士



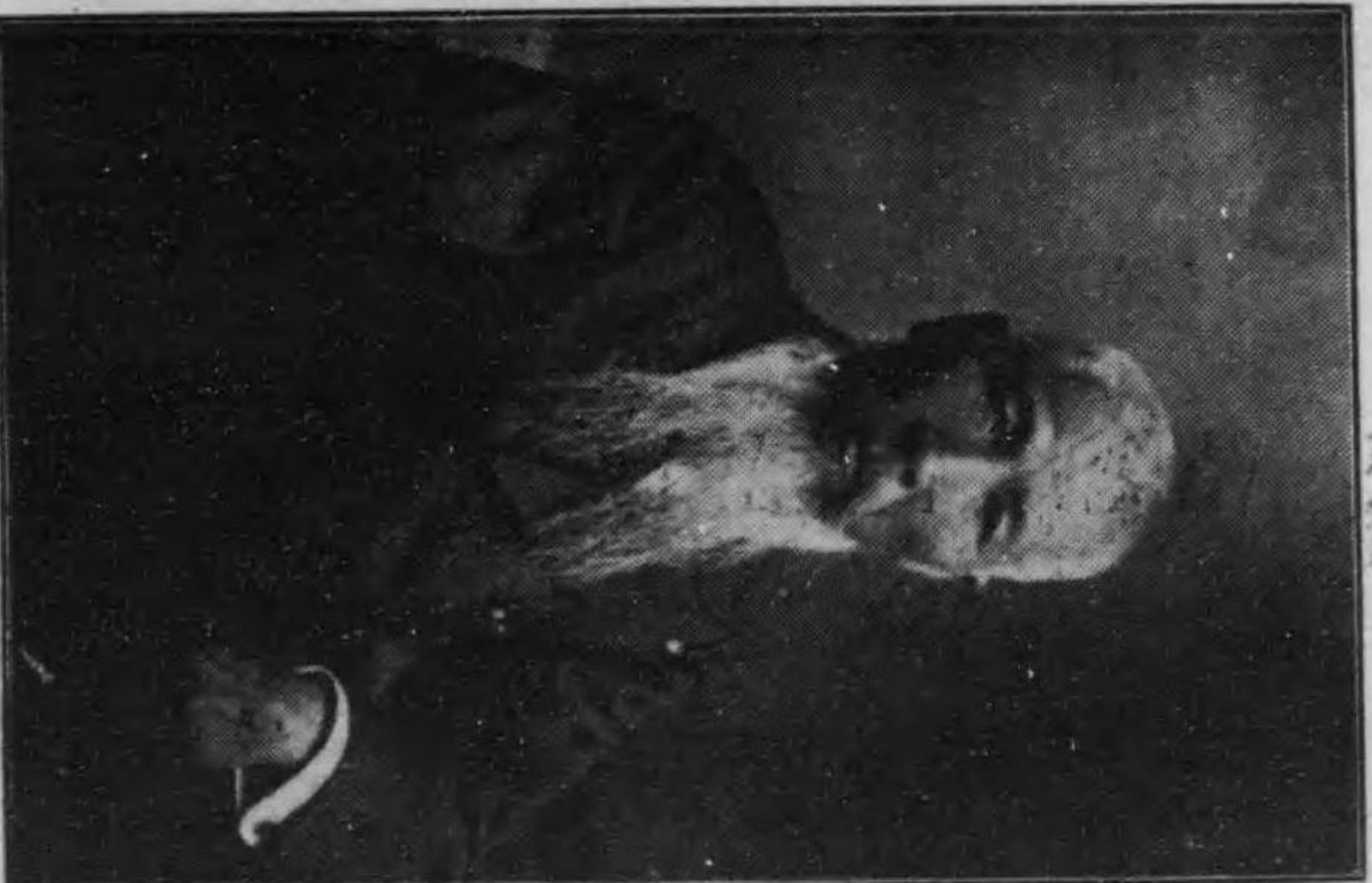
山 口 養 鯉 園 全 景

老元



氏意胤脇宮

員議會道



氏郎五緒部阿

俱知安ノ電鎮

士志ノ時當村開



氏夫敷田山故

水 力 電 氣 株 式 會 社



旭 ホ テ ル



山 田 藏 氏 經 營

葉富ノ代一・安知俱



氏郎三濱鍋真

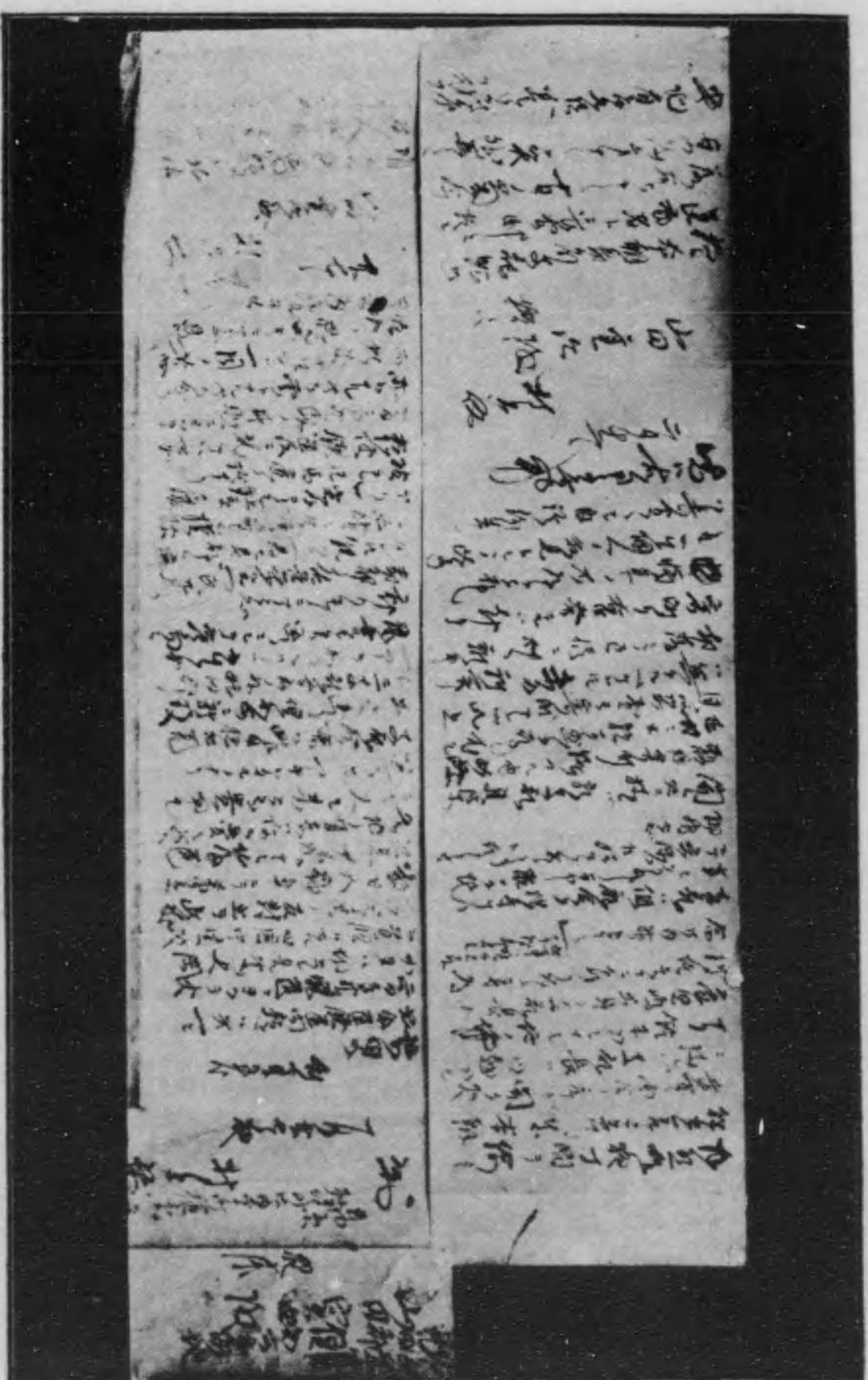
葉富ノ代一

阿部半平君



氏吉代三井武

簡書復往ノ者著ト客政ノ時當設新廳支志後



者 功 成 年 青



氏 郎 太 光 奥

業 送 運



氏 吉 健 村 奥

商 産 農 穀 雜



氏 郎 三 喜 堂 階 二



氏三一田山故 父嚴



麓羊田山 著著

殿父は廣島縣双三郡青河村字牛淵の本家に生れ其相續者たるべかりしに偶々廣島藩の親族なる山田貞右衛門氏が物故せし爲め其家名を相續したり藩主は山縣郡七拾四ヶ村に於て製鐵製茶人參培養の事業を起され加計村を中心として中繼所役所なるものを設置せられし際亡父も中繼所詰として勤仕元治元年癸藩となりし後も依然繼續して明治七年迄其任務に従事せり著者は慈母と共に本家に住したりしも明治六年加計村に移り殿父の膝下に養はれ通學時代は無事なりしも爾後父の失敗は著者の不幸となり遂に明治廿年友人と共に北海道に來り岩内に到着せり著者は青年時代醫業を志し居りし爲め岩内私立本郷病院に雇はれしも數年にして岩内と去り北海の野を逍遙すること久し著者の半生は實に失敗と蹉跎を以て其履歷を飾る外何等見る可き事をなさず嗚呼孝ならんとすれば親待たず徒らに亡父の生前を追憶して感慨無量なるのみ而して殘る半生は果して何をかなす乎阿々

俱知安史目次

第一章 俱知安の地勢.....一

一 秀麗なる羊蹄山.....三

二 自然の運河.....四

三 強敵なき俱知安.....五

四 俱知安の飲料水.....八

五 避暑地としての俱知安.....九

六 温泉の種類性質並に効用.....十一

第二章 潜伏時代.....十九

一 最初の移住者.....二〇

二 工業の今昔.....二四

三 戸長役場時代.....二五

四 郵便局の今昔.....二七

嚴父は廣島縣双三郡青河村宇牛淵の本家に生れ其相續者たるべかりしに偶々廣島藩の親族なる山田貞右衛門氏が物故せし爲め其家名を相續したり藩主は山縣郡七拾四ヶ村に於て製鐵製茶人參培養の事業を起され加計村を中心として中繼所役所なるものを設置せられし際亡父も中繼所詰として勤仕元治元年癸藩となりし後も依然繼續して明治七年迄其任務に従事せり著者は慈母と共に本家に住したりしも明治六年加計村に移り嚴父の膝下に養はれ通學時代は無事なりしも爾後父の失敗は著者の不幸となり遂に明治廿年友人と共に北海道に來り岩内に到着せり著者は青年時代醫業を志し居りし爲め岩内私立本郷病院に雇はれしも數年にして岩内を去り北海の野を逍遙すること久し著者の半生は實に失敗と蹉跌を以て其履歷を飾る外何等見る可き事をなさず嗚呼孝ならんとすれば親待たず徒らに亡父の生前を追懷して感概無量なるのみ而して殘る半生は果して何をかなす乎呵々

俱知安史目次

第一章 俱知安の地勢.....一

一 秀麗なる羊蹄山.....三

二 自然の運河.....四

三 強敵なき俱知安.....五

四 俱知安の飲料水.....八

五 避暑地としての俱知安.....九

六 温泉の種類性質並に効用.....十一

第二章 潜伏時代.....十九

一 最初の移住者.....二〇

二 工業の今昔.....二四

三 戸長役場時代.....二五

四 郵便局の今昔.....二七

目次

五 土地家屋變遷の有様……………二八

第三章 發展の動機……………三〇

一 羊蹄山の紹介……………三二

二 偉大なる新聞の力……………三四

三 舊北鐵線の開通……………三八

第四章 今昔の俱知安……………四〇

一 嚴然たる諸官衙…(現今)……………四一

二 民衆の疾苦…(開村の當時)……………四二

三 木材業の今昔……………四三

四 收穫時の俱知安……………四五

五 俱知安人氣質……………五一

第五章 在住者發展……………五二

一 小學校設立……………五二

二 俱知安新舊道路と市街……………五六

三 病院の設置……………五七

第六章 最近の俱知安……………五八

一 一級町村制施行……………五九

二 俱知安模範林事業……………六〇

三 營 林 區……………六二

四 宗 教……………六五

五 消防機關……………六八

七 衛生機關……………七一

八 俱知安警察署……………七三

第七章 將來希望の俱知安……………七六

一 政治機關に伴ふ將來の俱知安……………八〇

二 道路改修に伴ふ將來の發展……………八一

三 農業の前途……………八二

四 養蠶業の有望……………九二

五 商業の前途及倉庫……………九七

第八章 氣 候……………九八

一 俱知安の氣候……………九八

第九章 新移住者に警告……………一〇二

一 失敗の告白……………一〇三

二 言語と動作……………一〇三

第十章 俱知安雜觀……………一〇五

一 俱知安人中の富豪及豪商……………一〇五

二 俱知安人活動の雜錄……………一〇七

三 俱知安の人物……………至一六二

第壹章 俱知安の地勢

吾俱知安町は膽振國虻田郡の西北に位し本道に於ける新京都の名あり面積三十八方里餘西は磯谷郡に連り岩尾別西高安別の峻嶺あり稻穂余市の連脈は北に屏障として屹立し東は札幌郡と境を接す是れ無意年喜茂別の秀峯嶺翠を潜めて聳ゆ岩尾別、瀧野(ヌツブリカンベツ) 芳野(舊名ペーベナイ) 千曲(ツツカクサツブ)の諸水は此諸山の溪流を集めて滾々として原野を涵養しつゝある銀水は蜿蜒焉として長蛇の如く貫流する尻別川に合す洶に之れ山河雄大の天地にして舊平安城に酷似す依て北海の新京都と云ふも敢て誤れるものにあらざる可し。地味農牧に適し數万の農夫を收容して尙ほ餘裕あり一面鐵路を有して交通甚だ便なり

悠々たる歲月茲に千二百有餘年前阿部將軍の偉圖を追想して本町字比羅夫驛を發し大曲隘道八百廿五呎を出づれば兩岸の風光夏は蒼翠綠滴らんと欲し秋は紅將さに燃ゆんとする錦楓の下一道の清風瑟瑟として凝るものは潤となり奔るものは岩を嚙んで花を吐き雪を散す。尻別川に沿ふて遡ること里餘仰げば宏々として一望快濶の原野に出づ正に之れ前記北海の新京都にして明治四十三年後志國の全部十二郡と膽振國虻田郡の一部を合併し後志支廳を置かれたる北海道

の一大市街俱知安なり。試みに巻頭第一の北海道圖を繕けば北海道は鳳凰の翼を張つて將に舞下らんとする形に非らずや渡島半島に頭嘴を向け天鹽日高に兩翼を張り根室に尾端を振はんとする如く而して其脊梁骨を上川に寄せ頸骨を羊蹄山に擡げ而して命脈の咽喉を俱知安に托するに似たり咽喉なる哉咽喉なる哉俱知安は東西兩岸の最も迫る所に位して北海の三港函館小樽室蘭の中心を占めつゝあるに非らずや然り函館を玄關とし小樽を勝手口とし室蘭を庭口とするの形勢に位し東に虻田西紋監壽都磯谷余市の各都會港灣に道路を有し亦岩内に向ては鐵路の便ありて皆其門口を開かんとす地利の至便形勢の非凡は早晚活躍せずんば已まざらんとする者あり沿革。俱知安はアイヌ語クチャンにして隱場避所を意味す舊京都の平安城と形勢相似たるのみならず名稱も亦相類すとせば名實共に適ふものと云ふべし比羅夫將軍の事蹟逸焉として探索し難きものあるも今を去る百餘年前尻別川の鮭鱒漁に従事せし虻田(東海岸)岩内(西海岸)のアイヌ等は屢々利を争ふて衝突をなし虻田會長イタクネツカはベンベ地方のアイヌを従へ當町下ツケ(今の下ソースケ)に陣し岩内の會長ヘケミス(今の岩内御銚内町に住する伊藤榮太郎の祖先)は岩内古宇方面のアイヌを率ひ岩内郡幌似村に陣し尻別川の漁權を争ひたり尙ほ此地は舊來の下場所上場所と稱する境界線にして地理關係をも含む深き意味を有する争點地なりし。而

して十年の間、鋒を交ゆる事十五回なりしが双方とも鋒折れ力盡き今を去ること八十八九年前に始めて媾和條約成り(其際若ヲトナと稱するものゝ子土人某幌似村に住し居れり)毎年交代にて尻別川並にソースケ川にて漁獲をなす事に決すと(嗚呼百年の未來に後志國の部に加はり主權を握らんとはヘケミスの侵略主張の深き意味を有せし現象に外ならざる可し)其戰爭中兒女等は皆難を避くるが爲め此大原野の樹林内に身を隠し居たる爲め此名稱を生みしに到ると云ふ舊古モーセが一族を率ひ各所に轉戦せし狀況を偲ばしむ矣

(一) 秀麗なる羊蹄山

北蝦夷の一隈に聳立する一山にして帝國否内外に知られたる高山植物の豊富なる後方羊蹄山は山高きが故に貴からず木あるを以て貴とすと古諺を引用する上に尙ほ風姿富士山に酷似すると高山植物の豊富なる爲め帝國に冠たり其珍奇逸品に於て又種類の多數なるは全國何れの山岳に於ても見る事を得ず獨り北海の名山後方羊蹄山あるのみと斯界の大家稱揚せらるゝ處なり而して蝦夷富士に於ける高山植物は大正二年四月農科大學西田氏の博物會報抜萃に據れば二百六十一種の多數に達したるも今又學術研究以外に花姿艶麗にして珍品たるものを擧ぐれば左の四十種とす。斯くの如き珍品を有し夏季は登山の客を慰め巍々として雲表高く聳む何物かの使命を

有し魔界を叱咤し天賦の寶土を守護しつゝある其威嚴や亦偉大なりと謂ふ可し

○高山植物珍奇美花の一部

ガンコーラン。ツガザクラ。マルバシモツゲ。アカモノ。シロモノ。エゾシヤクナゲ。キバナシヤクナゲ。コケモミヤナギ。イワキキヤウ。ツリガネサウ。エゾフヂアザミ。タカネオミナヘシ。エゾアリドーシ。ミヤマキンバイ。メアカンキンバイ。コノバツガザクラ。オノオリンダウ。オヤマリンダウ。ミヤマリンダウ。ミツバオーレン。タルマイソウ。チシラツキヨ。タカネスミレ。イワウメ。イツイチャウ。ウコンウツギ。チシマザクラ。ウツバサイシン。イワツ、ジ。チンクルマ。キンボーゲ。タチヤマウツボ。ゴゼンダチバナ。ムメバチソウ。シラネアオイ。ハクサンチトリ。チシマフウロウ。サマニヨモギ。ヒメミヤマスミレ。ダイモンヂソウ。キクバクワガタソウ等最も珍奇艶麗なるものとす

(二) 自然の運河 尻別川

羊蹄山麓の溪流を集め混々として原野を涵養しつゝ、蜿蜒長蛇の如く中央を貫流する尻別川は東は喜茂別より西は日本海岸南尻別に(後志國磯谷郡)至る曲折亦曲流は水深くして舟楫を浮ぶに足る可き便を有し特産としては全道に於ける好味の鮭鱈雨魚鮎の類は俱知安人士の膳部を賑は

し其捕獲に依て一家を支ふる者少からず本川は東喜茂別近傍よりの木材流送に便にして南尻別海岸に積載する木材並に俱知安驛を経て搬出せらるゝ木材の全部は此川に依て流送せらるゝ、近き將來には此川を利用し後志水力電氣會社の設立を見るに至るも此尻別川の將來を豫測する事を得可し而して此流域に依り年々霜害の憂ひをも避くる事鮮少にあらざる可し尙ほ一面東俱知安喜茂別方面の農産物も次第に此の自然の運河を利用し舟楫の上下する事遠き未來に非らざる可し明治四十二年三月尻別川運河合資會社なるもの^①生れたれど如何なる事情にや呱呱の聲を上げしのみにて不幸にも本年役員會の決議に依り解散をなす事に決議せらるゝを惜む。此運河區域は約廿九里是れを北海道に求むるに二三川に止まる可し浮舟一艘に二十石内外の小なるものを以てする時は東俱知安喜茂別方面に對する需給の荷物は自然此運河の舟楫の便を要す可く進んで膽振鐵道又は礦山鐵道貫通する時と雖も此河舟の不用に歸する事なかる可し況んや昆布驛以南は鐵路の便なく南尻別に通ずるには水深く川蒸汽船を浮ぶるに便なる爲め既に小規模の會社は立せられ本年より其便を計るべく起業せられ將來有望視しつゝあり

(三) 強敵なき俱知安

俱知安の一部には膽振鐵道の開通が俱知安の不利にはなるまいが礦山鐵道も害にならざる迄も

開通後は俱知安商業界の爲め繁榮を殺がれはせぬかと心配する者あり。是れ杞憂中の杞憂否な
寧ろ愚の極論と評すべきのみ。人の榮ゆるを心配するは嫉妬なり。吾人は室蘭地方との交通早く
開けて相互の往來頻繁なるを望み西海岸と東海岸の横斷鐵道の便利なるを欲す。國家經濟上の
必要よりするも必ず布設せらる可きは明かなり當局者は殖民政策として膽振原野の拓殖を度外
視するが如きことなかるべく若し之を度外視せば衆議院に請願すべく貴族院に要求す可し吾人
の議論は前途遼遠と云ふ謗りも有る可きも樺太合併後に縣政の時もある可く尙ほ軍事上の一端
を述べれば世人杞憂と云ふ可きか知らざれども吾人の持論として我俱知安の使命の且つ大なる
事を覺悟すればなり。今や全歐洲の大戦亂の爲め隣邦諸國の平和は不自然ながら維持せらるゝ
と雖も我國百年の大計を貫徹するには第二の旅順港即ち浦鹽ある事を忘る可らず何れの日か浦
鹽と北海道の折衝なかる可らざるを保するや若し不幸東洋の低氣壓は浦鹽方面に起らんか船艦
相含んで孤島奥尻島を衝くは鏡を見るより明なり一度該島を占有せられんか西は立飛白神を侵
し津輕海峽を封鎖し内地との連絡を遮斷せんか一面壽都要港を占有し陸戦隊は猛虎の勢をなし
黒松内を遮斷し函館要塞は孤立し(恰も日本軍金州を遮斷し旅順孤立を例とす)西海岸線は砲彈
亂射軍隊輸送の力なく岩内港には應急の炭層を有し彼等をして縦横無人の威を逞ふせしむるの

不幸は目前に迫れり此悲惨なる運命の神に捕はれ萬古の歴史を傷くる事なきを保せず嗚呼。之
れに處するの策なかる可らず。之れに當らんには獨り俱知安あるのみ膽振線を俱知安に連絡し
便を取り此補充としては小樽より赤井川村を経て俱知安に通ずる未決道路並に札幌定山溪を通
じ東俱知安を経て俱知安に通ずる假定軍用道路を完備し此不時の用をなさざる可らず尙之れに
加ふるに礪山鐵道と定山溪私設鐵道と完成する時は廿五聯隊は自由に活動を試み函館要塞不時
の要に供するを得べし之れ將來に於ける重大なる問題にて誠に考慮すべき者なり。如斯重要な
る俱知安は正々堂々たり。以上の調査にして正確を得ば目的は必ず達し得らるべし何んぞ他の
繁榮を羨望するの要あらん俱知安は本道に於ける優秀の地勢を占む須らく鐵道を敷く可く縣廳
をも設く可し裁判所も設置す可く場合に依り聯隊をも置く可し、是れ吾人の決心にして軟弱な
る意志の民は俱知安の大富地新京都に居住するを許さず津輕海峽外に送還するを要す俱知安の
禁物は薄志弱行自信なき民のみなり

俱知安は船客の多少を心配する港灣の宿屋的殖民地と異なる事を忘る可らず他の地の繁昌を頭
痛に病むの必要もなく自信實行秩序的にさへ歩まば何等の杞憂を要せざるなり近き將來に於け
る樺太合併問題次に北海道五縣設置問題等も天與の地の利を占むる俱知安は四通八達の便を有

する爲の縣廳、裁判所、聯隊、學校(中學校程度以上)何時にても此の覺悟さへあれば我が俱知安は北海道中何れの地とて敵なきを保す自重自愛は俱知安の態度なる可し

(四) 俱知安の飲料水

人はパンのみにて活くるものにあらず。空氣なかる可らず。火なかるべからず風も無くてはならぬ必要物なり。此外一日も動物界に缺く可らざるものは水なり衛生に害なき清淨の水なり然るに俱知安は市街(四部落)何れも飲料水に苦む趣きあり上層は草木枝葉の腐敗せし化土にして一尺乃至二尺の中層は概ね粘土質にして六尺乃至八九尺の下層は概して酸化鐵質を含有する一面の盤層なり是れが爲めに井水は鐵氣を含み飲料水となすは沸騰又は濾過等の手数を要せざれば飲料に適せず。來る可き町の問題としては是等は適當なる解決を見るならん。西にクトサン清流あり南に尻別の大河あり水道を敷設したらんには一面火防の用を便し一舉兩得の安全事業と云ふ可し目下の如き日進月歩の俱知安としては數年を出でずして水道事業の完成を見る可く左に俱知安市街四部落の井水合計二百八十六に對する試験成績を示し立證とする處とす

合計二百八十六ヶ所市街内

内 飲料水に適するもの

(六三)

同 煮沸飲料に適するもの

(五一)

同 濾過し飲料に適するもの

(九)

同 濾過の上煮沸飲料に適するもの

(二三)

同 飲料不適のもの

(二四八)

以上の成績に依る時は二百八十六に對する百四十八即ち過半のものは不良の飲料なるが如し之れに加ふるに煮沸又は濾過の合計七十三個の加工飲料水を加ふる時は全數の二分三厘の飲料水あるを證す尙其裏面に入る時は煮沸す可き井水も濾過す可き箇所も其まゝ飲料に供されつゝあり不適當と認められし井水も使ひ水の口實の下に放任せられある箇所數多あり之れ等危険なる井水は何等かの處分を以て廢井するを要す。以上分拆の結果に依れば實に危険なる生活を營みつゝあるを認識せざる可らず目下町の急務としては水道の急設を實行す可し殊に融雪期の井水に於ては寒心に堪へざるなり嗚呼有識の志士は一日も此飲料水の重要なるを忘る可らず

(五) 避暑地としての俱知安及風景

避暑地として最も適當なる地たる事は一度函樽鐵路の客たりし人は皆知る處なる可きも最も好適地とする處枚舉に違わらずと雖も其二三を略記せんに(一)後方羊蹄山は本名「マクカヌブリ」

にして螺旋形を意味すと云ふ志賀重昂氏の所謂名山の標準なる美術的体式と幾何的体式を相調合按配して對數的曲線の定則を表はしたるに非らずや山容富士山に酷似して蝦夷富士と稱せられ本道唯一の靈山なり海拔六千四百尺七合目に至れば一際目に立つ積丹古宇兩郡界の神惠岬はそゝる舊古の蝦夷名歌『忍路高島及びびもないがせめて歌棄磯谷迄』は連想の中に目に映じ始めて蝦夷富士の風景の糸口は開かれ尙ほ登る事三町にして御花畑あり珍草三ツ木妍を競ふて美を争ふ爛漫たる百花誠に之れ神花たるの觀を呈し花中の雲泉湖は方十畝に盈たざるも奇岩怪石圍繞して花の美觀たり夕陽此仙境に涼を漁りたらんには終生此境を放るゝ時を知らざる可し

(二)紫雲峽は芳野川(舊ペーベナイ川)の上流にして懸崖絶壁峭然として直立し莊嚴跌宕雲漢を磨するの概あり青松奇木其間を縫ふて蒼髯黛色影を浸す所。水躍り龍臥し虎踞して噴沫四迸一東の碎雨に異ならず秋は楓葉霜に傲り満山紅を染むるに至れば山となく水となく錦を綴りて濃紅淡紫千變萬幻の趣きあり。

(三)玉虹瀑は瀧野川(ヌブリカンベツ)の水源にして高さ三四丈に過ぎずと雖も怪岩奇石集りて斷崖となり其斷崖絶壁は宿すに老松を以てす老松の下瀑水直下して甬角を怒撃する處奔濤の聲雷の如く雪は翻り花の舞ふもの化して煙霧となるや直射せる日光に逢ふて不斷の玉虹となり珠

簾となり瑠璃となる其美其奇云ふべからず此二川とも腰に一瓢を携ひ一竿の清遊を試みたらんには夕陽せまるを知らず恰も仙境に遊ぶが如く天然の圖書にひとし著者毎年夏季並に紅葉季毎に清遊を試む嗚呼不學にして其壯快を描寫するに苦む讀者諒せられたし

(四)西古安別の山麓に避暑地としては山田温泉あり(此西古安別は内地の箱根七湯の趣きをなし最も温泉に富む)扇面倒まに立ちて雄理限りなき蝦夷芙蓉を正視し裾野一帶俱知安狩太の各原野を俯瞰して朝暉夕陽氣象萬千の概あり晨には一面に漲る霧の海を賞し夕には玲瓏たる山月を迎へて最も身体に好適せる温泉に浴す此境に入りて避暑をなすもの温泉場内に充滿す温泉の効用分拆は別項温泉の部に詳記す此美麗なる活畫は納涼時季に於て最も好趣を感ず市内幾多の人は更なり遠きより來りて此仙境に避暑するも無理ならざる可し

(六) 温泉の種類性質並に効用

前項避暑地としての俱知安の項内に俱知安西古安別は内地の箱根七湯として療養所且つ避暑地として清遊場として記述せし如く山麓到る處に温泉湧出し目下其經營中のもの數個所あるも林冷鑛泉及び山田温泉青山湯の分拆表を得たれば差當り三湯を紹介す

山田温泉は俱知安西古安別に湧出し開村當時の功勞者として認む可き山田數夫氏の經營にかゝ

るものにて始め氏は余市郡仁木村に住したりしが仁木武吉氏と共に此大原野の踏査をなし同縣の諸氏と相謀り此深林に住したり其際各深谿山野を跋渉し偶々温泉あるを認め茲に氏は温泉場開始に心を入れ殆んど他を顧みざるものゝ如く一意専心事業發展に腐心せられたる結果俱知安七湯の基元として明治三十年三月廿二日温泉の許可を得(指令百四十四號)俱知安市街を去る一里三十町(馬車馬權の便あり)比羅夫驛より一里八丁順路は俱知安にして春季清遊は坂下にして下車し山間の梢に唱ふ藪鶯や枯木の辻の山雲雀。聲喧びしく遠山遙に鹿の子班と雪とけて此野邊や麓は春を迎へ俱知安市街より清遊旁々散らほらと若菜摘み來る乙女子も末は嫁菜となる身を持ちて裳すそを濡ほし西東夕饗の膳に父母に供せんものと野漁りの姿見るく八丁坂道連れ昇れば天與の温泉四百廿坪の靈泉場明治廿九年六月七日内務省東京衛生試験所にて分析せられし其結果。慢性皮膚病。リユーマチス痛風腺病肝臟病。婦人生殖器や永久微毒又は鉛毒水銀の中毒等に特効あり氣鬱病者やヒボコンテル。ヒスラリーに厭世家。呼べば答へん蝦夷富士と寢物語りに朝小言神の使命は山嵐梢を摩する其睡言は裾野の下界は夢にも知らぬ仙境他界の人となり病を治する特種の妙味其分析表を示せば

硫酸カリウム

(霸王鹽)

〇〇、二九三

硫酸ナトリウム	(芒硝)	〇、三八四七
硫酸カルチウム	(石膏)	一、〇〇九五
クヒールカルチウム		〇、〇九〇九
クロールマグネシウム		〇、一五三九
酸化鐵礬土		〇、〇〇三二
珪酸		〇、〇四〇三
磷酸		僅微
硼酸		痕跡
有機物		少量
遊離及結合炭酸		〇、六五二五
硫化水素		〇、〇一一一
計		

明治二十九年六月七日

内務省東京衛生試験所長

衛生試験所技師藥學博士

田原良純

衛生試験所主任技手

瀬川林次郎

林冷鑛泉

俱知安市街の西村界に接する廿町にして冷鑛泉あり明治廿七年四月頃林登一郎氏の發見に係り
清涼飲料水にして鑛泉分類上單純炭酸水に屬す夏季の飲料水としては最も賞味せらる
一昨々年の如きは炭酸水サイダーの製造等起り次第に有望視せられ居れり
溫泉の主治効用並に定量分拆を示せば

第四百四十五號

一冷鑛泉

一湧出地北海道虻田郡俱知安原野壹種

右定量分拆

右分拆の爲め當所に差出したる本泉は無色清澄にして異臭なく刺戟性爽快の味を有し反應は弱
酸性を徵す今之れが定量分拆を施行するに本泉一リートル(五合五勺餘)中に含有する固形物の
總量は〇、四二七五グラム(一グラムは二分六厘餘)にして其主要成分のグラム量左の如し

重碳酸加兒シユム	〇、二〇二五
重碳酸マクテシユム	〇、一五七三
重碳酸ナトリユム	〇、一二〇三
格魯兒カルム	〇、〇二二二
酸化鐵礬土	〇、〇〇九五
硅酸	〇、〇九三〇
磷酸	痕跡
硫酸	痕跡
合計	〇、六〇五六
遊離炭酸	一、二〇四一

以上定量分拆の成績によれば本泉は鑛泉分類上單純炭酸泉に屬す依て左に適應する醫治効用の

概要を示す

内用 胃弱 便秘
浴用 但し冷浴 皮膚病

明治三十年十一月十七日

内務省東京衛生試験所長

衛生試験所技師

主任 田原良純

衛生試験所技手 丸山長四郎

青山温泉 (俱知安七湯の一ニセコマン別)

青山温泉不老閣は小樽色内町廿二番地中西勝右衛門氏の經營にして規模宏大にして一度此仙境に遊ぶ時は歸るを知らざるの感あらしむ深谷に向て三階の客室あり運動場遊戯場等迄完備し清潔爽快源泉の如き最も諸病に特效あり左に其成績を示す

源泉試験成績報告

小樽區色内町卅二番地

中西勝右衛門

本泉は初め無色清澄なれども時を経るに従ひ漸次少しく混濁す異臭なく微かに爽快の鹹味を有し反應は弱亞留加里性を徴す今之れを煮沸するに少量の氣泡を發揚し白色の沈澱を析出し稍強き亞留加里に變す比重は攝氏十五度の溫度に於て一、〇〇二四八に居る而して其一リットル(五合五勺餘)中に包有する固形分の總量は二、九六七五グラムにして主要成分左の如し

格魯兒那篤謨	一、七二二七二
重碳酸加留叟謨	〇、三八六五三
重碳酸麻偏涅叟謨	〇、二九二四四
重碳酸那篤留謨	〇、三〇六四二
硫酸加留叟謨	〇、二二二一五
格魯兒加留謨	〇、一八五九三
酸化鐵並礬土	〇、〇一三五〇
硅酸	〇、一四五〇〇
合計	三、二八五六九
游離酸	〇、二四三六四

以上定量分拆の成績に據れば本泉は鑛泉分類上亞留加里食鹽性炭酸泉に屬するものとす

明治四十三年十月十一日

正八位勳六等藥劑師

佐伯龜壽

鑛泉醫治効用梗概

本泉は浴服用共に重要なる塩類を含有せるを以て諸般の疾患に對して極めて著効あり、若し夫れ浴用に供せば皮膚を輕度に刺戟し表皮の細胞を膨脹軟化せしめ油脂を鹼化するの能功あり加ふるに天賦の靈妙なる温刺戟と相俟つて健全なる新組織の發生を促進するものなり而して又服用に供すれば胃液の分泌を促がし食思を振興し胃腸内の異狀酸酵を防止し腸壁の蠕動を進め便秘を緩和し各組織の新陳代謝を盛ならしめ斯くして汎百の疾患を治癒せしむるものなり而して其之を應用すべき諸病に至りては概略左の如し

- 一脚氣及多發神經炎
- 一慢性腸胃加答兒
- 一癩摩質斯及各種神經痛及皮膚病
- 一肝充血及胆石
- 一尿道及膀胱加答兒
- 一喉頭咽頭及氣管枝の慢性加答兒
- 一頑固なる胸膜炎及慢性腹膜炎
- 一腎石及膀胱結石

- 一痛風又は腺病
- 一脂肪過多症

- 一婦人生殖器の慢性加答兒
- 一神經性弛緩症ヒポコン德里歇私的里の便秘

右の諸病に効驗あるものと認む

醫學士 植田 潔

其他俱知安市街より里餘の箇所にて温泉湧出しつゝある所數箇所に及ぶ。西端岩尾登(火山)近傍に到り又數箇所の湧出あるも何れも客舎の設けなく行路者の遊戯場所となりをるもの少なからず。定量分拆の手續き等も結了せられず或は主なき温泉場も二三ある可き模様なるも近き將來には何れも皆發展して浴客を招くに到る可し

第貳章 潜伏時代の俱知安

廣漠たる原野三十八方里街域新たに形造られたる我俱知安の地は、知らず什麼の使命や荷へる思ふに僅かに二十幾歳の昔鬱蒼たる深林の地老幹巨材、森立繁茂し晝猶ほ暗き荆棘、地を蔽ふて足履ひ處なかりし事を、斯くて長く土人が所謂隱遁の地とし豊饒なる農作地の土として世に待たる可かりし我が俱知安は、山河襟帶、平安の舊帝都に酷似せる天賦の寶土祝福せられし自然

の寵兒が明治廿三年時の北海道廳參事官白仁氏は故中江兆民氏に語りて曰く羊蹄山麓クチアン下ソツケに三百五六十万坪の平地あるも到底拓殖の見込なしと放言せられし我が倶知安は不幸御料林に編入せられぬ、之が爲め一時開發を障げられしも天與の寶土吾が倶知安は遂に時世の進運に見出され長足の發達をなしぬ

(一) 最初の移住者

羊蹄の山巔々雲表に高く尻別の川水碧潭に流れ洋々たり此山麓此沿岸の豊沃なる土地は幾久しく御料林としてある可き等なく、端なくも明治廿五年五月を以て鬱蒼たる榛葉參差たる樹林は熱血ある拓殖男子の集合を以て自由に開墾の實を擧げ大に當局者をして覺醒せしむ此勇奮なる熱血兒を數ふるに計十八名(阿波の人等の團体)曰く眞鍋浜三郎、山本彌平、山田邦吉、山田幸吉、小松山三郎、仁木宇藏、仁木辰三郎、松本鹿藏、福山與藏、岡部春藏、藤本嘉藏、森内九平、黒田房吉、筒井種吉、小松宇三郎、石井收平、阿部半平氏等卒先し至大なる使命を荷ひ開墾に従事するや一面當局者は始めて夢の醒めたる如く(潜伏時代の項參照)大に驚き直ちに調査を遂げ開墾に従事してより二年二ヶ月の後ち即ち明治二十七年七月御料林の解除となりぬ(此間何れも無願開墾なりし)隨て殖民地に編入せられ拓殖の道漸く開け前山官林今の北一線西六

十七番地に當る地域を基點と假定し測量區劃をなす明治廿八年十一月貸付済となりぬ、當時現住者五百戸を數ふるに至れり爾來年々歳々道廳は増區劃をなして新に貸付せしもの二千餘戸に及びしかば單獨移住と團体移住は比々相接し幾箇の大農場は規定の小作人を移し來りて開拓の氣運次第に擧りしなり、農場は凡て小作制度にして見るべきものなしとせず其主たる成墾地を擧ぐれば左の如し

七百八十三町二反	岡部外世吉
二百〇八町九反	大崎節子
百四十町一反	廣瀬悌太郎農場
百十七町六反	武岡農場代武井三代吉
五百一町七反	舊本願寺農場 稻村道三郎
二百四十五万坪	京極農場
二百三十五町三反	辻彌太郎
四十四町一反	竹内龍雄
九十五町八反	森正名東京團体

八十二町九反	伊藤喜之助農場
百四十町步	富永寅次郎
六十一町六反	池崎藤吉
三十八町九反	伊藤助次
四十四町三反	石井彦三郎
九十八町五反	伊井億右衛門
六十九町二反	八反田角太郎
三十三町一反	東郷重清
三十七町二反	笹原佐太郎
三十町二反	佐々木寅雄
百二十七町五反	宮川儀八
九十二町四反	田中重兵衛
四十二町八反	高橋政右衛門
三十六町三反	曾我祐準

四十町七反	中山捨次郎
七十五町三反	梅澤市太郎
六十一町五反	同 榮之助
四十九町六反	同 榮之助
四十八町五反	山下竹次
七十五町三反	阿部猪五郎
五十四町步	阿部重之
百十九町一反	須田金之助
三十三町二反	鹽田政平
九十二町八反	鈴木重慶
三十九町四反	森佐平太
四十一町九反	森 工ノ
百〇四町四反	森 宗平
三十町七反	大林吉兵衛

三十町九反 小 田 權 吉
以上成墾地

其他三十町未満のものは過半或は全部成墾しありて之れが小作の移住する者年々増加しつつあり(收穫する諸雜穀輸出計参照)

(二) 工業の今昔

時明治廿六年七月岩内の人鈴木大吉氏及廣島縣人縫部兼次郎氏等我が大倶知安の樹林に注目し明治二十五年より三十五年六月迄滿十ヶ年間(南一線西七號)當時の原野即ち御料地六反六畝二十歩の借地をなし燧軸木工場なるものを設置し白楊立木四百二十二本の拂下を受け營業を開始したるに原料の豊富なる爲め次第に隆盛に趣き之れに使用する夫役一日八九十名に上り之れが夫役に従ふ婦女子等も需給の必要に迫られ野菜其他播種の必要を感じ原野を手當り次第に開墾せしに好果を收め移住先輩諸氏と相待て開墾の糸口をなしぬ此際工場は日々使役する夫役に給するに米噌を以てし夫役の人々は開墾の資を得一舉兩得の策を講ずる爲め益々盛大を極め來りしが花には嵐月には雲折柄廿七八年日清の大戦役起るや製軸輸出に大打撃を來し一面御料林は解除を重ね區劃となりて遂に事業を中止するに到りぬ、目下大坂の人森氏蒸氣力を利用し六號

線の尻別川沿岸にて製軸業をなし傍ら木材挽割を營業となし居れり其盛大なる日毎に百二三十人の労働者あり大正四年十月工場内より出火し器械全部焼失の損害を受けしも近頃には到り次第に復活しつつあり△帝國製麻會社は製線工場を基線西七號に設け盛に營業をなしつつあり目下本道に於ける製線工場としては二三位を下らざる大工場となりぬ△其他石油インジン使用の製材所水力應用の製材所、製粉所澱粉及び麵類製造所、味噌醸造、經木、割箸、柳行李、曲物、馬具、馬車、馬櫛、石工、柁、疊等の製造所等夥多なりと雖も其内最も有望視せられつつあるは柳行李、柁、曲物、經木等にして製材、製麻事業は倶知安水力電氣會社開始せられたるを以て此電力を應用したらんには尙一層の發展を見るに到る可し當町は農工兩立の地にして文明の利器を應用し斯業界の革新を謀りなば我が倶知安の面目を一新する事遠きにあらざる可し

(三) 戸長役場時代

倶知安は室蘭郡役所膽振國虻田郡虻田村字クチャンにして虻田戸長役場出張所を以て此大原野たる今の倶知安東倶知安一圓を支配せられ當時基線西三號に位置を定め行政事務を掌理せるを始めとす。明治廿九年四月室蘭支廳は虻田郡を割て新に倶知安村を設置せり當時の三號線は巡查派出所(倶知安警察署の項参照)と其他二三商店を點綴せらる、同年道廳は大に見る處あり行

政區劃の變更を實施し本村を岩内支廳管内に屬せしめ虻田郡倶知安村を創設して茲に始めて發展す可き機運に邂逅せしめぬ(百年前岩内會長ヘケミスが苦心の侵略意味の貫徹せしを黃土に聞きたらんにはさこそと思ひぬる可し)始め三號線に役場を假設するや當局者は此大原野に於ける公設の市街を區劃し之れに各官衙を建設せんと企畫し公設市街として三十五年三月貸附を了し直ちに公設市街に戸長役場は移轉せられたり然れども倶知安は西走東奔的發展の度を知らざる變化甚だしき村としては深き考慮なかる可らず俱知安の恩人故河島長官は著者に語りて曰く俱知安は未だ足を入れたる事なきも北海道に於ける拓殖の大方針を確立するに於ては俱知安も一人前の男子となるは近き將來に來る可し油斷してはならん微々たる一小村も化して大市區と變更するが如きは其實例多々あり家屋や官廳(當時官衙は戸長役場登記所警察分署模範林事務所)の如き物には土臺にレールを設け置く可しと宜なる哉氏の先見、氏の拓殖政策の遠大なりし事、時世の變遷茲に顯はれ公設市街の俱知安戸長役場も亦中央市街九號線に新築移轉をなすに到りたり

明治三十九年に到り二級町村制を施行せられ法規に依り半民半官の村長を得るに當り有志の苦心詮衡の好果に依り當村名望家の青年武井三代吉氏を以て村長となさしむ村民良千石として歡

迎す就職以來基本財産の造成村内の整理其よろしきを得無事平穩にて歎呼しつゝありしに家事の都合にて職を去るの已む無きに至り後任として官選の村長を得しも不幸にして開村以來の大汚點を殘し職を除去せられ曲折を経て大正四年四月一日一級町村制は施行され元老宮脇胤意氏村長として就職せられ本年更に町となり廣瀬悦太郎氏就職熱心に町の爲め活動せられつゝあり

(四) 郵便局の今昔

膽振國虻田郡倶知安何野誰と記名し岩内より投函する時は虻田郡有珠郵便局を経て月二三回の幸便的配達の下に月餘到着の現象なる開村當時岩内奥倶知安とする時は小澤局に到りて二日目又は三日に配達に接する事を得たり其當時より移住者増加し遂に明治三十年九月一日基線西六號三十八番地に郵便事務を開始し河合篤叙氏局長たり(現局長の實兄)同三十一年十一月爲替貯金事務を開始し焦眉の急を補ひ三十二年十二月一日電信を開始し同時に小包郵便をも開始せられ之れにて漸く通信機關は大略具備せられたる折柄六號線の大火に遭遇し三十四年十月十日基線西三十九番地に移轉せしも更に第二の火災にて類焼の厄に遇へり偶々舊北鐵線の開通となり停車場及中央市街は一時に人家膨脹し通信事務の頻繁なる情況となり明治三十八年十二月十一日基線西五十一番地に移轉したり明治四十年局長河合篤叙氏は家事の都合と村有志より北海道

議員候補に強要せられ職を辭し後任として實弟敬勝氏就職す其當時より倶知安の繁榮は朝飯の昇るが如き速度を以て展開せられ電話の必要を認め新任局長熱心に東奔西走の結果四十二年十二月十一日電話を開設し目下其數百十四番に達す然るに三十八年の移轉廳舎は次第に腐朽し且つ事務は増加し局内狹隘を告ぐるを以て大正四年十月十三日南一線西五十三番地に移轉し函檜間に會つて見る能はざる大規模の建築物となれり明治三十年郵便事務取扱數と大正四年取扱數を對照して如何に此地が全速力を以て開發せられつゝあるかを証す

明治三十年一ヶ年間郵便物

引受 二、六三四通
配達 三、一九七通

大正四年一ヶ年間郵便物

引受 八七六、〇八五通
配達 九五三、〇二三通

(五) 土地家屋今昔の有様

倶知安に於ける土地の賣買は明治廿七年春頃未開地當時より始まり一戸一万五千坪の價格貳參拾圓より百四五拾圓を限度とし賣買せられたりしも土地並に殖民道路の開け行くに隨ひ上騰し來り基線西三號線附近は長足の進歩を以て成墾せられ加ふるに大福豆の栽培は其收穫金多額なる爲め一時に地價に影響し一戸分即ち一万五千坪の格價壹千圓以上に突飛し小作料の如き一反

歩五圓と云ふ異數の現象を呈し次て舊北鐵線の開通と共に一層地價を高め殆んど天井を知らざるの概ありし折柄明治四十五年行政區域變更となり俄かに土地熱を起し市街宅地の如きは坪五六錢乃至七八錢の場所も突然坪壹圓貳圓參圓又五圓八圓と暴騰し目貫の個所の如きは坪拾圓内外にて賣買せらるゝに到り今や二三割の低減を示すものゝ如きも一時は突飛の暴騰を見し事今に到り奇異の現象たりし事を記憶す

家屋は道路險惡交通便ならざると成懇急を欲するより他意なかりし時代は皆堀立小屋の構造にて農業の餘暇に建築用木材を所有地内より造り置き二三年を経て柁葺家屋原野に散在したるも是れを全部の移住者數より算する時は誠に曉天の星の感あり著者明治廿九年の秋北海道毎日新聞(今の北海タイムス前身)段清吉君と此地に遊ぶ時の旅舎鈴木大吉氏宅なりし家屋間取りは相當に出來上り居たるに敷物は皆薄縁にて夜中身体に痛みを覺ゆ熟睡する能はず起床一番下女を捕へ敷物の不平を語る下女微笑して曰く岩内よりの道路御覽の通りにて疊の運搬出來ざる故なりと、以て當時の倶知安を想像するに足る、道廳にては此年小澤を経て倶知安に通ずる殖民道路の工事を起し三十年の年始めて基線道路も出來疊建具等岩内方面より移送され農家にては南四線山田幸吉なる人前住地余市仁木村より始めて用意せしを聞く其他商店旅人宿等に疊建具を

見るに到れり然るに舊北鐵線開通前後の要求にかられ旅人宿料理店の如き華美を盡し客を待つ營業者は競ふて疊建具は更なり凡ての什器は輸入せられぬ質素にして雅風を主とする人々や虛榮に走る成金黨次第に家屋の建築に趣味を覺え相互に美を盡し構造に心を盡すに到れり而して又一面倶知安の天恵深き寵運兒の名は一時に喧傳せられ全道津々浦々は更なり内地の諸客は恰も大古ユダヤの片田舎ベテレヘムに救生主キリストの誕生せられし夫の如く東より博士西より學士南より北よりも旅客は舊北鐵線の便に依り集來し在住者の狼狽目も當てられざる有様なりしが苦屋も不便堀立小屋も適せず親類が訪問した知己が來るとして什器夜具其他の裝飾品は戸棚は更なり座敷床の間に點在する云ふ有様次第に時世の進運に伴れ新築新調亦新築の結果人家は稠密し原野内四個所に市街を形作りたるに開村以來六七回の大火は人家稠密の個所を焼拂ひたるも引續き又復漸次繁榮の境に進み現今にては全道札幌函旭の三四都會を除けば二位と下らざる大規模の建築家屋を見るの盛況に到る嗚呼二十幾年の昔各所に點在しありし時代の堀立小屋が一時に如斯一變せし情況驚くの外なし

第三章 倶知安發展の動機

北海道殖民政策の大方針確立すると同時に東洋に於ける國交上の大低氣壓は日露の間に突發せんとして日々夜々に黒雲起り軍事上室蘭線の一路のみにては日本の商權を保障する能はず遂に西海岸鐵道線敷設の最も急務なるを覺知し函館を基點として小樽を経て札幌に通ずる鐵路は開かれぬ。見よ鐵路一軌、廣漠の野を横切り煤烟天に漲きり汽笛雞犬を驚かしてより茲に此地は新たなる生命を得たり新なる機運は提供せられぬ、潜める寶土燦として光輝を放ち、其眞價値を解せられたり之れ北海道に於ける至便の地位に天與を受け居る倶知安の民の幸福を思はざる可らず

凡そ新開の土地、否新殖民地として種々の曲折困難は不得已ものなるも人意的開發の急進と自然的開發は文明智識の注入に對して一種不可思議なる運動と云ふもの、必要を感じ臨機應變の行動に出で交通機關の具備並に裁判所、稅務署、ありとあらゆる行政機關と司法機關何れも當路者と民意と、天與の地利とに待て次第に發展の端緒を開き始めぬ

地方的感念より起る動機は概ね運動に依らざる可らず之れ民の聲を大ならしめ社會に訴へ是非を審判なさしむる爲めなればなり弓と矢となす天與の地理てふ問題を所有し之れが發動を試むるに當つては一日も運動を怠る可らず懷古す岩内會長へベチケが東西兩岸を横斷し後志國

を併呑せんとする侵略政策は百年の今日に於て始めて後志全國を統一して、しかも膽振國の大原野に後志支廳を設け以て次第に東海岸に肉薄せんとするの概あり開村當時、岩内奥俱知安の郵書何れよりとなく呼物となりし滑稽なる郵書の取扱ひありし事を思ひ起す事あり而して一度室蘭支廳管内俱知安村と稱へらるゝや否や當時の有志縫部兼次郎、鈴木大吉、宮脇胤意の諸氏は莖旗を押立て大舉室蘭支廳に迫り遂に虻田郡の一部を割き岩内の管内に屬せしむ之れ俱知安に於ける大運動の嚆矢にして引續き先輩諸氏は追次運動に運動を重ね俱知安をして今日あらしむ其當時を追想するに中央には河合篤叙氏南に東京團体森正名、三宅鼎、廣瀬悦太郎氏北に阿部猪五郎、米田和氏東に万代佐太郎氏西に宮脇胤意、藤原俊藏氏俱知安宇東俱知安に江川重太郎、橋本作次氏等の諸豪相携へ相計り熱心以て地方開發に努力せられ幾多の曲折を経たる事筆紙に盡す能はざるを惜じ、之れ著者の責にして讀者諸君に謝する所以なり

(一) 羊蹄山の紹介

海拔六千四百尺の蝦夷富士は北海道第一の高山にして(壹章の一項参照)其形駿阿富士に類似し俱知安原野は富士の裾野に酷似する處より世人に知られ居たるに舊北鐵線の開通するや尙一層の人氣を集め機將に熟せんとする殺那醫師佐久間周作氏郷里裾野に近き爲め富士登山の盛況や

裾野一帶の沿革の一部を河合篤叙氏に語る茲に兩氏相謀りて登山會の組織を企て佐久間氏は熱心に材料を収集し是れを提供して河合氏亦勞力と筆紙を吝まらず東奔西走一面新聞紙を利用し羊蹄登山の壯快を鼓吹し土地の人々も登山會なるものを援助し多大の寄附を醸出し以て登山道路を開鑿し河合氏を會長となし野々山某幹事を代表し登山客の來集に心を盡したるに其頃より町家の印に羊蹄山を入れ種々の方面より紹介に怠らざりし

第一に明治三十九年著者の起案に係る新京報なる新聞を起すや羊蹄富士山にカヌミを入れ其内に新京報と題字を書き又市内料理店の暖簾に富士を書き富士の山程金星イ(羽)と云ふ二十世紀の現象を具体的に顯はすと云ふ奇抜の料理店は出來今尙經營營業しつゝあり亦停車場前に小林金吾なる人富士形の登山餅を賣出し構内呼賣を爲し俱知安名物蕎麥屋青山亭にては印裨天に羊蹄富士の印を入れ待合青山支店にては金星イ料理店の如く待合の字を富士形に入れ種々様々の意匠により俱知安紹介と羊蹄山紹介に最も力癪を入れたり今にては登山會は益々世人に知られ日本山岳會の如きは年々會員を渡道登山せしむると云ふ盛況に到りぬ目下幹事は高山万次郎氏事務所を擔任せらる後方羊蹄山は第壹章の一項に記述せし如く世界に稀なる高山植物を有し札幌農科大學宮部博士の如きは最も熱心なる蝦夷富士紹介者の重なるものなり

(二) 偉大なる新聞紙の力

著者は明治三十五年此地に住するや余に天は深き使命を以て第二の郷里とす可き事を命せられしを悟る。朝早く羊蹄の峯を眺ては一種得難き感想に打たれ晝は清き流の尻別の川に一竿の清遊を試みて心を洗ひ居れり何れの日か筆と口にて俱知安の開発を謀らざる可らざるを覺ふ久し明治三十八年十一月頃より機運は次第に熟し來り追日に余をして其使命を果さしめん事を促がせり

左に著者發行の新京報の主意と最も先見の明ありて贊助せられたる諸君の氏名を轉載し參考となさんとす其先見と理想は發行後三ヶ年にして而も三年目三月理想外の大管區を以て目的は達せられぬ此時の快なる著者の叫び忘る可くも忘れられざりし『幸なるかな此寶土』甚だ長文なれど紀念として轉載せり……

新京報設立之趣意

振古未曾有なる日露交戦も條約の内容如何は兎に有れ平和克復を見るを得たるは御同様大慶に存し候而して申上ぐる迄もなく武力を以て世界に雄視し得る帝國今後の一大責務は國力の

充實産業の發達を企圖し勝を平和の戦争に博し得るに有之候は論を待たざる儀に有之所謂戦後經營の根本要義は此に外ならずと存し候

右に就ては政府當局者にても新占領地樺太の經理を始め諸般夫れ々の施設可有之候得共國運の發展其の實力充實を計る上には單に政府者を待つて然る可きに非らず實に國民自ら大に奮つて之が局に當らざる可らざる儀と被存候而して此の一大責務を果し候には先づ御同様個人々の利益幸福を圖り斯くて其の郷黨よりして進むで國家の大に及ぼす可く秩序的進歩の儀切要と存し候根底なき膨脹發展が却て世を沮害し失敗に終るは自明の眞理なるは争ふ可らざる儀に候 不肖夙に籍を此地に置き諸君の高庇に依り身心を安むじ居るの幸福を心常に深く感佩致し居り候者から居常地方のため幾分だも利益幸福の増進に少補ある可き様と不願微力聊か犬馬の勞を致し候は各位の御諒察有之儀と存し候就ては此際尙ほ進んで吾が地方の發展の爲めに献身的努力せんの決心を以て敢て諸君御贊助を仰ぎ度候

吾俱知安の地理的關係と行政區域を異にする爲め不利不便はもとより土地の盛衰の上に及ぼす影響の過大なるは各位の夙に御承知の事と存じ候膽振國虻田郡に屬する此地方が後志國岩内支廳の管轄たる事の不便利は今改めて申す迄も無之交通機關完備の今日に際し依然十年

前の舊態に安じて顧みざるは頗る其意を得ざる事に候且つや交通機關の設備を欠く僻在の地に管轄官廳を置く爲めに蒙る人民の不便利亦言外の次第に御座候。兎に角四通八達の中央の好位置を占むる吾が俱知安の地に支廳を置き以て現在壽都岩内兩廳を併合するの儀を主張し運動し此目的貫徹に全力を注ぐ可く決心仕り候是れ一は戦後經營の行政整理に先鞭を着けたる者にして又實に吾俱知安をして東部北海道に於ける中央都會としての繁榮を來たらしむるの要儀と確信仕り候此の儀は各位に於ても勿論御異議可有之筈も無御座候へども何卒不肖の主張を遂げ候ため特に多大なる御助力を賜り共に此地の發展盛運を劃策被下度特に御賛助を仰ぎ候

斯くて其運動に就ては言論文書其他幾多の方法可有之候へども辯論遊説の傍ら現下時勢の要求に従ひ第一に吾地方を紹介し吹聴し着々主張の實行を遂ぐ可き機關即ち文書發行の最も緊要適切の方法たる可きを信じ先づ私財を投じて右必要の機械其一部を辨し候も此事たる到底薄資の不肖輩が獨力の能く爲し得る處に無之候依て別項の方法に依り賛助員を募集し以て希望を果たし度と存し候請ふ憂國愛民の地方高義の各位幸に奮て御賛成あらん事を右謹んで得貴意候 敬具

新 京 報
主 幹 山 田 實 次

贊 成 人 名

廣 瀬 悅 太 郎	林 傳 彌
山 本 彌 平	山 田 邦 吉
武 井 三 代 吉	阿 部 半 平
菊 地 千 代 松	小 野 塚 要 七
坂 東 千 賀 藏	松 木 清 作
山 階 嚴 城	八 反 田 角 太 郎
山 上 琴 次 郎	名 畑 長 太
印 藤 善 四 郎	横 尾 弘 三 郎
真 鍋 浜 三 郎	關 口 茂 平
以上現住の人	
星 野 駒 吉	弘 野 熊 次 郎

森	本	淺	吉	小	松	山	三	郎
倉	田	德	兵	渡	邊	慶	次	郎
山	本	豐	作	岩	淵	義	重	
掛	川	七	藏	中	川	信	定	
米	田	和	一	宮	脇	儀	一	郎

以上轉住

漸くにして明治三十九年三月三日を以て發刊し極力地方發展に力を盡し一面札幌東京方面の政客を煩はし遅々として歩を進め明治四十三年三月一日趣旨書の目的を貫徹し小樽岩内壽都の三支應を廢し新たに後志支應と改名して俱知安に設置せらる此事業たるや一小新聞の誇る可き處にあらず時勢が茲に至らしめしとは云ひながら三年前新京報は此先見を以て活動を開始しぬ、有力なる俱知安紳士としての人々も未だ早しとの議論の下に主幹山田實次を批難論駁せしも正は邪に勝つとや遂に其理想は實現せられぬ政客と著者の往復郵書の一部を掲載して其當時に於ける活動の証として參考に備ふ

(三) 舊北鐵線の開通

舊北海道鐵道線は明治三十五年起工にかゝり三十七年に竣工せしことは俱知安發展の動機にも詳記せし如く種々なる事情の爲めなりしとは云ひ一は運動の大好果なりしを信ず而して此沿線には内地政客の關係せし土地も尠なからざるより陰に陽に此西海岸鐵路開發を援助せらる。又全道最大の勾配を有する稻穂、俱知安の二大隧道は俱知安の利益となりしを忘る可らず一時舊北鐵線の議起るや岩内は躍起となりて岩内を通過し雷電を経可く所謂海岸線なるものを主張し岩内鐵道既成同盟會なるものを起し此大原野横斷に反對せんとするの模様ありしも殖民鐵道の大方針と軍事上(前記参照)海岸線の危険と一部政客の後援となり迂紆曲折の結果遂に岩内民意の一部を入るゝ事となり申譯的に此最大勾配の難を知りつゝ稻穂峠を経て小澤迄鐵路を敷く事に決せりと。是れ一面怪訝の思ひなきにしもあらざるも將來後志全國の中央首府となる俱知安は四通八達の好位置を占有せざる可らず舊北鐵線復舊工事中岩内支線を見込まれたるも無意味のものにあらず來る可き將來は舊北鐵線最初の計畫の如く大勾配の稻穂隧道を廢し函樽鐵路の牽引力を増大ならしめ石炭の消費を節約し尙ほ且つ距離の短縮時間の節約等種々の方面に向て企圖ありし如く今尙鐵道院に於ても最も是れ等に深き注意を拂ひ調査に調査を重ねらるゝと聞く一朝其計畫にして實行せらんか本村北十二線より赤井川に接するランテナイ通路を突破し然

別驛より俱知安驛に通せんか来る可き將來の膽振線の分岐點と岩内支線の分岐點と相待て四通八達の便を得るに至るべし之れ俱知安人士の祝福ならずや。此問題は今や時間の問題にして近き將來に實現せらるゝは火を見るより明なり嗚呼鐵道院七年計畫吾が俱知安に幸あれ。

第四章 今昔の俱知安

明治廿七年七月御料林解除となりし室蘭郡役所管内虻田郡虻田村の一字として支配せられたる北海の龍兒俱知安は同廿九年迄は虻田村戸長役場俱知安事務所を基線西三號線に設けられしを始めとして巡查駐在所と共に二三の商店は點綴せられたり之れ當町に於ける第一の市街とす而して當町の發展は漸次西南に針路を向け明治三十年九月郵便局を基線西六號線に設置せらるゝや次で行政區劃の變更の爲め岩内支應に屬し岩内警察署俱知安分署を六號線に設け人家次第に増加し當町第二回の市街は六號線に移り越えて三十四年北海道廳は當地に豫定市街地を測量區劃し三十五年三月其貸下を了すると共に家屋の建築をなすもの次第に相躡き市街の体裁成りしも位地少しく偏する事を豫想するものなかりし折柄翠瑣尻別の二川年々歳々汎濫の害を逞うし住民漸く移動せんとするの時に當り北鐵線の開通となり停車場附近は人氣の昂騰すると同時に

官設市街と六號線及び停車場附近との中心に位する基線西九號線は一躍して中央市街地の月桂冠を贏ち得て茲に第四回の當町市街を形作るに至れり幸にして帝國製麻會社製線工場を西七號線に森製軸所を六號線に共に大規模の工場を建設せしより市街の異動に引續き水難火災の悲運に襲はれ大打撃を被りし六號線も再び新生氣を回復し中央市街九號線と今や家屋も連絡せんとするの機運に向ひつゝあり以上四箇の集團を合算して市街と稱するもの今や一千五百戸に垂んとす。明治四十二年後志支應の設置せらるゝや俄かに市街に一大革新の氣運を來し種々なる機關は陸續として起り札幌管林區岩内分署壽都分署を廢し之を併合し俱知安に分署を設置せられ同時に岩内警察署俱知安分署は俱知安警察署と昇格して農事試驗場も亦新設せられ年々凡ての機關は完備せられつゝあり

(一) 嚴然たる諸官衙

基線西三號線に於ける虻田郡の一字虻田村役場俱知安出張所は時勢の進運と共に戸長役場となり有志諸君の熱心なる運動に依り色々の難關を突破し遂に北海五縣制實施の準備として後志支應の現實を見るに到れり始めは微々たる戸長役場事務所も二級町村制を施行せられ市街の擴張と同時に各自其地勢の優秀を自覺するに至り遂に今日の俱知安を現出せしむ而して目下の建

築物を數ふれば第一五百九十二坪の第三尋常高等小學校、村立病院、岩内區裁判所俱知安登記所、郡農會、銀行支店、後志支廳及官舎、營林區署、町役場等凡ての機關は天與の俱知安を飾る可き建築物の美を盡し今亦第三學校の増築を企畫しつゝあり殊に町村役場は一級町村制施行と共に中央市街後志支廳西側に美々たる建築を爲したるより一層官衙輻輳地の美を飾れり建築に對する不快の巷説あるものゝ如く傳ふるも這は只一部の内訶的問題にして齒牙にかくる必要なきも神經過敏の町民の事として東西話頭に上りしも識者は之れを意とせざりき之れ民心の奥床かしき美風の存する處にして著者の讚美するものなり如斯狀態にして曲折百難を排し目下の如き嚴然たる諸官衙を羅列し來る可き何物かを迎ふるの慨あるは末頼もしき事ならずや自重せよ新京都の人士、奮勵せよ俱知安人よ

(二) 俱知安先驅者の辛酸

古昔ロビンソン氏勇を奮ふて一小孤島に住し拓殖の辛苦を嘗む世人其豪氣を賞す凡て古今東西を問はず開拓者の艱難辛苦を嘗むるものゝみ其好果を收むべし我が俱知安の開拓者も概ね辛苦をなさざるものなし抑も墳墓の地を去る其時の勇氣、其殺那の情、蒼海數百里の波濤を越え、寒氣最も激甚なる北海の殖民地に渡航し來るや道路なく家屋なく東西南北皆榛葉に掩はれ晝尙ほ

暗き樹間に住し食を求むるに道路なく原野を這出で巨木を倒して架橋となし山又坂を越ぬ數里を辿りて食を求む其辛苦艱難は到底筆紙に盡す能はざるを惜む、移住者は冬は亘寒結氷の時機となるや其風雪咫尺を辨せざる時と戦ひ巨木を伐採し夏季開墾の準備をなす、炎熱堪へ難き夏の日も星を戴きて起き出で月を踏んで我家に入る年中慰安す可き事柄さては他に求むるを得ず只一家夕餐の席に爐を圍み一家團欒將來富貴の夢物語りのみ亦開墾の概況の如きは巨材を倒し枝葉を焼捨つるも株根は尙ほ巨幹の如く之れを土中に掘り鋸斧の力を借りて漸く一日強力者二十坪乃至三十坪の開墾をなすは關の山なり實に土一升も泥砂五合も皆農民の忍耐により相倚り相重りて我が大俱知安を大開墾地と化せしめたり是れ開村茲に二十餘年の賜物にして實に先驅者の奮闘の効果なり

(三) 木材業の今昔

俱知安木材業の始めは開村當時即ち明治廿七年御料林解除の當時より起り椴松、蝦夷松、白楊木など主要物として伐採せられ尻別川に投流し磯谷郡尻別に於て水揚げをなし汽船の便に依りて各地に販賣せられたりしが汽笛一聲俱知安の森林に響きてより漸く營業者競ふて伐木に従事し販路亦隨て擴大し木材業熱勃興して天鹽木材會社は支店を設け使役の袖夫木挽雇人の如き一

時五百人にも達し一面伊達紋鼈早瀬木材部は事業の敏腕家たる人々を選定し村雲好三氏を俱知安に住せしめ専ら木材會社と競争の位置に立ちて盛んに營業を擴張せられ一時俱知安の金融は木材業者の投ずる資金にて市内に充滿し農産物も一時壓倒せらるゝ如き繁盛を極めたり然るに其後年を追ふに従ひ盛衰を來し天鹽木材會社は小樽木材會社と變更したるも漸次衰微し來り遂に閉店の已むなきに至り其後木材界の不振を來し一時蹉跌する處ありし爲め村雲好三氏は大に視る所あり早瀬氏と關係を絶ち遂に獨立して大に奮勵する處あり引續き事業を繼續せられ目下使役する袖夫木挽百人を下らず其他後藤勝氏は舊來の箇人營業に苦き經驗を嘗め漸次盛大に趣きつゝありしが如何なる都合にや大正三年俱知安一代の富豪阿部半平氏と手を携ひ合名木材商會なるものを組織し多大の實收を得今尙ほ引續き營業をなしつゝあり昨年並に本年の如きは人の知らざる奇利を得たりと稱せらる。森木工場は製軸の傍ら挽材販賣を業となし居れども専門としては前二者の外なし。材源豊富にして羊蹄山麓一圓の森林東俱知安、喜茂別近傍の大原野の密林は年々伐採せられ尻別川の本流に投じて流送し來り俱知安驛を経て小樽函館方面に輸出せられつゝあり近來木材界の革命とも云ふ可きか五六年前より雜木材の販路次第に開け十四五年前の檜松、蝦夷松、白楊木の類よりは一層活氣を帯び目下檜、樺、樺の巨木細幹の差別なく

盛んに輸出せられつゝあり更に驚く可きは本年後藤勝氏の木材にして東京に直接汽車輸送を試み巨額の利益を收めたる事は之れ木材界のレコードを破りたる突飛の奇利と云ふ可し

(四) 收穫時の俱知安

俱知安に於ける農産物の收穫時は夏秋の二期なり夏期の收穫物は燕麥最も早く是れに次ぐに青豌豆夏蕎麥亞麻等主要の作物にして所謂夏物と稱し最も深き注意を拂ひ夏期の收穫に年中の生活費を補充す數年前より燕麥販路に就き陸軍省と協約し年々收穫高の八分を陸軍糧秣廠に納む購買販賣組合に於て取扱ひたる明治四十三年よりの調査を見るに左の如し

明治四十三年度	一〇、七一五石
同 四十四年度	一五、二二〇石
大正元年度	一九、八〇四石五斗
同 二年度	二三、七一石五斗
同 三年度	四二、三二七石五斗
同 四年度	二〇、一四六石

尙昨年設立の信用購買販賣組合の取扱ひたる燕麥は

大正四年度

二万二千六百三十二俵

以上は糧秣廠のみに於ける計數なるも當町俱知安驛移出統計表を示せば左の如き多額に上る此現象に依り夏秋二期の收穫時の多忙なる豫想外の思ひあらしむ農家は何れも毎年漁業閑散時の漁夫並に漁村の細民を雇入れ此莫大なる收穫物の取入れをなし居れり。近年青豌豆其他の豆類の價格上騰し亞麻燕麥の耕作者減退の現象を示せし如き感あり左の統計には亞麻を除き居れども實際に於ては數の上に於て意外の統計を示すべきを信ず尙移出統計の外俱知安農況をも加ふ

俱知安驛移出統計表

品目	自大正元年七月 至大正二年六月		自大正二年七月 至大正三年六月		自大正三年七月 至大正四年六月		本年度豫想
	俵	數	俵	數	俵	數	
青豌豆	三九、〇九九	...	四六、七九八	...	二七、三四九	...	二五、〇〇〇
赤豌豆	五、一七二	...	一、一〇一	...	三、五〇五	...	一、〇〇〇
白豌豆	四、六八九	...	一、五二八	...	二、二二八	...	二、〇〇〇
大豆	一、七四三	...	〇、四四四	...	一四、三八〇	...	三五、〇〇〇
小豆	三、五九二	...	一、一九四	...	八、九五二	...	八、〇〇〇
小麦	八四二	...	一、六九九	...	一、〇三二	...	一、〇〇〇

品目	自大正元年七月 至大正二年六月	自大正二年七月 至大正三年六月	自大正三年七月 至大正四年六月	本年度豫想
燕麥	六、一六三	四、三八六	一一、七六三	五、〇〇〇
燕種	四〇、八一八	六二、八七一	一〇九、八一九	七五、〇〇〇
和種	四、九〇八	二、八一七	二、八一〇	二、〇〇〇
洋種	四二二	五七三	二、六二六	二、五〇〇
荏胡	八八三	二一〇	一六一	二、五〇〇
唐黍	一九九	〇八〇	四、〇〇三	二、〇〇〇
大豆	〇七〇	五、〇〇〇
亞麻	三、一四	二、五七四	三、七九四	三、五〇〇
福福	六八、五三三	三五、六二三	五八、三二二	六五、〇〇〇
九福	一一、九九一	一、八二二	五、四四三	四、〇〇〇
中福	一六、二七〇	二、一六三	五、八五八	六、〇〇〇
長福	六、三四四	二、七九七	五、四九五	七、五〇〇
金時	三、一三八	一、九五八	一〇、七六三	一〇、〇〇〇
姉子	一、二〇六	一、四〇〇	一九、二一七	二五、〇〇〇
室隱	八、五九四	五、六四六	一九、二一七	二五、〇〇〇
小手	七、五四	一、〇八三	三、六九〇	三、〇〇〇
中長	一、七七	一、七〇	一、一九三	一、五〇〇
虎豆	〇、八三	三、〇〇〇

白丸豆	大手豆	裸麥	稻黍	取合	澱粉	合計
、一四六	、五八六	、三九〇	、七九〇	、一三三	、一三三	、一三三
、一九〇	、三九〇	、七九〇	、一三三	、一三三	、一三三	、一三三
、四五二	、八〇六	、一三三	、一三三	、一三三	、一三三	、一三三
、七〇〇	、一五〇〇	、三〇〇	、三〇〇	、三〇〇	、三〇〇	、三〇〇
、二〇〇〇	、二〇〇〇	、二〇〇〇	、二〇〇〇	、二〇〇〇	、二〇〇〇	、二〇〇〇
、三〇二	、五五〇	、三〇二	、五五〇	、三〇二	、五五〇	、三〇二
、二二六	、五八三	、一八一	、六二九	、三〇八	、〇五六	、三〇二

俱知安農況

一、本春は平年に比し約十日間融雪期遅れたると五月中の天候低冷不順にして各種作物の發育遅れたりしたため一般に悲觀の狀態にありしも降雨其當を得たるを以て發芽齊一なる事近年に見ざる好成绩なりしと六月中の氣温亦殆ど大暑中の如く高温にして夜間と雖も甚しく低下することなく故に作物の發育迅速の伸長をなし大福豆の如きは(六月二十二日より廿四、五日間に於て)一日五寸内外の成長を觀農家をして先づ安堵せしむるに至りたるが七月初旬より天候一變し再び低冷不順殊に梅雨の狀態を繼續し夜間濃霧の襲ふ事數回に及び多少

發育阻止せられ菜豆及裸麥等に病害を認めたりと雖も例年に比する時は甚だしき被害に非ざれば今後の天候適順なるに於ては裸麥莖葉の外は先づ豊作を以て收穫し得べし。

尙ほ本村農會の水田試作の狀況を比較するに苗の發芽成育等前年と大差なく温床(陸仕立苗)苗の如きは(早生種)七月十七日に出穂を見るに至り前年の七月二十四日出穂に比すれば約一週間早く又大福豆は前年の七月二十九日の開花に對し本年は七月二十三日にして是亦一週間進み居る事を證明し得るなり、今左に各種作物に付豫想を概述すべし。

一、麥類は五月中の天候低冷なりしたため莖葉の生育前年に劣ると雖も出穂期の天候該作物に不順と云ふに非れば結實相當にして裸麥を除くの外平年作以上なるべく反別大麥三百五十町裸麥七百二十町小麥八十三町燕麥二千町歩にして大麥小麥に於て増加したるも裸麥燕麥に於て減少せり。

一、亞麻及豌豆は共に反別に於て減少し亞麻二百九十町七反歩(前年四百二十町)豌豆五百四十九町七反歩、(前年七百八十五町)なりと雖も發育共に良好なると集約なる肥培を施すに至りたるを以て生産額は其の割合に減少なかるべく従て品質の善良なるものを生産するに至るべし。

一、菜豆類は上述の如く發育齊一にして生育又佳良なり而して病害を被りたるは該作物の適地を誤り播種したると連作若くは肥培の至らざる所の少部分に止り一般は目下(七月下旬)生育旺盛にして開花中なれば天候に特殊の變化なきに於ては平年作以上を豫想し得べく其の反別大福豆九百七十八町九反歩、長鶉九十八町二反、丸鶉百四町壹反、金時三百九十二町七反歩、其他菜豆類二百七十七町四反歩にして前年に比し二割五分の増加なり。

一、大豆及小豆、大豆は從來「マメシンクヒ」蛾の被害減少するに至りたると輪作の關係上反別非常に激増し(前年三百九十八町)七百九十八町五反にして新開地方面に「ウリハムシモドマ」の幼虫の被害を受けたるものありしも少部分にして一般は作柄良好なり、小豆は相場下落の影響を受け反別に於て減少したりと雖も作柄良好なれば收穫に於て其割合に減少なかるべし。

尙玉蜀黍、黍、蕎麥其他の作況も前者と同様にして反別も亦前者と大差なく、今後天候順調なるに於ては豊作を以て收穫し得べく其反別約千四百六町四反歩なり。

備考 當俱知安驛を經由すべし東俱知安及真狩兩村に於ける作況も本村と大差なく是亦同様の結果を豫想し得べし

(五) 俱知安人の氣質

俱知安人は嘘を吐く、表裏反覆決して信用すべからずとは舊小樽木材株式會社が盛大に事業を經營しつゝある際に山子杣夫が俄に木材業者と一變し洋服を着用して鬚を蓄ひ贅澤を盡し放蕩を爲したるより函館小樽方面の金主を苦めたるに起因す然れども俱知安を通じて皆然りと云ふ可らず時勢の變遷により彼の徒輩は北見天鹽方面の剝木鳥ケラツツキと化し去りて當今は其影を認めず之等は一時開發に伴ひ來る可き現象にして俱知安の氣質を評するに足らず。俱知安の民は艱難以て財を作り拓殖の目的を達する堅忍不拔の美風を有し又一面貯蓄の念に富めり新開の土地にしては早く貯財し郷里に歸ると云ふ氣風あるも俱知安人は概して其味を知らざるものゝ如し寧ろ餘力あれば他方面より金力を吸集し以て俱知安の將來を企圖し土地の開發を計る可きを目的とし土着成功の民たらんと努めつゝある氣風を備ふ信用程度の如きも一朝失敗の結果破産の極に達せんか舊知面識の人々協力して其商店の再興を計るが如き一種言ふ可らざる相愛互助の美風を有し是れが爲め奮勵努力産を興したるもの枚擧に遑まわらず俱知安人氣質は至つて同情に厚く拓地殖民富國強兵の實を擧げんとする氣風を有するもの如し

第五章 在住者の發展

潜伏せる俱知安が公然岩内支廳管内俱知安となりしは明治廿九年にして交通機關の先驅たる郵便局は設置せられ吾人の生命財産を保護すべき警察分署を置かれたる時に於て一同萬歳を祝したりき（當時の有様）舊古へケミスも祭りたりき又虻田村字クチアンの字句を入れしも俱知安（ともにやすきをしる）の心事。實に日本晴れの心地せしなり。著者は此時に於て特に感じたりは當時の行政司法事務の複雑危険なりしことなり

（一） 小學校設立

各項掲載の如く三十八方里の鬱蒼たる大盈地も廿五年以來數戸の移住者を生じ人煙かすかに霞き千古の林間に丁々たる斧の音を聞くに至りしが同廿七年土地を區劃し廿九年に至り人口激増して七百八十戸の多數に及び校舍建設の要を感じ同年二月創立の議を決し時の（虻田村戸長役場出張事務所）役場筆生清野志馬氏奔走の上室蘭郡長廖原郷一氏に計り之れが創設の許可を得今井亦藏、眞鍋濱三郎、小田三郎右衛門、泉菊次郎の四氏を舉げて設立委員となし此等大に意を決し寄附金を募り壹百貳拾八圓を補助金として官に仰ぎ本村基線西十九番地に三千坪の地を

得以て校舍の建築に着手したり同年四月廿八日大井幹男氏戸長として赴任し専ら校舍新設の衝に當りて其工を竣り同年九月十一日訓導上田甚助氏校長となりて開校の式を挙げたり是れ當町に於ける校舍の始めにして俱知安全村を以て通學區域とす、然るに廣漠たる原野に移住者各所に散在し尙ほ且つ社會の進運に伴ひ一年一年と人口増殖せしかば茲に小學校増設の必要を感じ明治三十一年六月俱知安第一第二第三尋常小學校を増設し通學區域を定め南四線以北西は六號線を限り北は北四線零號二番地に至るものを第一學校の通學區となしぬ、第二學校は明治三十年六月山陰農場管理者米田和一氏同農場内の子弟を集め北七線西七號に私立の學塾を創立して焦眉の急を補ひ同三十一年三月十一日北六線西三十九番地に敷地六百坪校舍廿九坪五合の校舍を設け俱知安尋常小學校俱登山分校と命名して白土氏校長たり其當時米田和市阿部猪五郎入江龍雄の三氏等に依り敷地寄附並に建築費寄附等完結し始めて前記の校名を見るに到る其後三十五年十一月校舍を北五線西三十五番地に移轉増築せり敷地壹千坪校舍は百廿二坪を以て稍々學校の体裁を爲すに至る明治四十三年十一月阿部猪五郎氏の一方ならざる盡力により二教室及便所を増築なしたり尙敷地六百坪は岡部農場主青木利一氏（札幌の人）の寄附なり目下總坪數壹千六百坪を有す之れ即ち第二學校なり

第三學校設置創立事情は年移り星變ると共に種々複雑となり人の知らざるを奇貨として歴史を傷けんとする傾向あるを以て最も著者は現在の活歴史を調査し公平なる見地より起稿し諸學校の沿革等大に相違しあるを詳記し反省を促すものなり乞ふ諒せられたし

今の第三尋常高等小學校の前身に就ては山本彌平、仁木宇藏、小松山三郎、宮脇胤意氏最も深き關係を有し創立も氏等の賜ものによる事を忘る可らず又一面には山田數夫氏(邦吉氏と違ふ)等學校創立には腐心せられたるを口碑となり居れり以上の諸氏は終に三百餘圓の寄附を得て明治三十年建造に着手し同年秋竣工を見たりしも設備規則に違背せる箇所ありしが爲め開設認可なかりしより改修を加へたる結果茲に位置指定ありて三十一年十一月一日開校俱知安第三尋常小學校と稱するに至りぬ是れ目下の第三尋常高等小學校の前身なり

校名改稱は明治四十二年六月二十二日俱知安第三尋常高等小學校と改稱す明治三十八年三月創立認可同年七月一日位置指定となりたる俱知安高等小學校を廢し俱知安第三尋常小學校に高等科を併置し高等小學校の校舎を分教場として併合したるに依る。通學區域は明治三十一年開校の當時より四十二年高等科併置の時までは東六號線以西。南は四線の尻別川以北。北は三線を境として其以南。西は村界以東なりしが四十二年以降は高等小學校児童は本村内他の尋常小學校

通學區域内より來るもの多數となりし爲め六方面に別ちて其最遠距離を調査するに

- (一) 零號線方面 (東) 凡二里
- (二) 第二小學校方面 (北) 凡一里
- (三) 俱登山峠下方面 (北) 凡一里
- (四) 第五小學校方面 (南) 凡二里
- (五) 第四小學校方面 (南) 凡一里半
- (六) 岩尾別方面 (南) 凡一里

學級編制
尋常小學校 十二ヶ學級
中 二部は 二學級 複式は一學級

大正四年調査坪數五百九十二坪收容兒童高等科百廿六名尋常科八百五十一名合計九百七十七名なり

第四第五第六第七第八其他特別簡易教育所及分教場等を合して校舎計二十三ヶの多きに至る早晩通學區域擴張並に校舎亂設の惡弊を除去せんとするに議論百出し喧噪甚だし然れども町經濟

より考ふるに遠からず合併整理せらるゝを希望す

(二) 俱知安新舊道路と市街

俱知安町の殖民道路としては明治廿九年改設せられし以上舊縫部道路と稱するもの小澤驛より谷川邊りに沿ひ俱知安峠を越え(目下北二線通り)を通じ縫部並に鈴木製軸所に通じ縫部渡しを経て東俱知安に通ず。イヤハヤ小笹踏分け一步進んで大聲叱呼二十歩徒歩して熊の足踏駄馬一頭に米四斗を付け谷川水淺き中を涉らしめ湿地は次第に避けて小高き峰をたどり此大原野に通ぜしものにて恰も熊狸の通路と疑ふ計りのものなりし、縫部鈴木の工場は益々隆盛に越き移民も漸次増殖せる爲め日用品の需給並に製軸の運搬等に道路の必要を感じ縫部兼次郎氏道路の開鑿をなし以て今に口碑に傳へて縫部道路縫部渡し等の名を残すに到る此間に於ける苦心慘憺驚くの外なしと實に其恩恵や忘る可らず

國道は札幌より函館に通ずるに島松千歳室蘭を経て伊達方面より喜茂別狩太昆布を迂廻し來りし其時代は遂に變遷を來し當局者も深く見る處あり明治卅九年恰も當町二級町村制施行の當時内憂外患多かりし際村長武井三代吉氏の奔走に依り幸ひに國道變更を實行せられ札幌を基點として小樽余市小澤を経て俱知安基線西九號中央市街を通過し狩太に達し函館に通ずる事に確定

し是れに伴ふ本村の利便は亦言外の事なりし隨て殖民道路は國道を主腦とし皆是れに集中せり而して市街は此國道變更と共に市街區域を定められ國道附近は皆市街地と限定せらる其他の道路に伴ふ將來は第七章二項に掲ぐ

(三) 病院の設立

開村以來醫を業となすもの草分の石井收平氏を始めとし大河内某長崎格左衛門氏年を追ふて開業せしも何れも草根木皮の漢法醫は時勢の變化と生理的眞理の原則に依り廢頽し倒るゝ者あり轉住するあり獨り石井收平氏は醫業を棄て此俱知安の拓殖に従事せんと計畫し下ソースケに澱粉製造を起し奮勵努力最も勉めしも時利あらず遂に失敗に終りしが引續き池倉太なる醫師村醫として開業せしも二三ヶ月にして去り此廣漠たる殖民地に村醫なく何れも不便を感じ居りし折柄一面移住者は日に月に増加し茲に病院設立の必要に迫られ明治三十三年俱知安に於ける村醫雇聘の議起り佐久間周作氏を迎へ始めて俱知安病院なるもの設置せり爾來十ヶ年の間俱知安村醫として本村内に於ける良國手として名望を荷ふに至れり引續き明治三十八年六月十八日私立横尾病院設立の許可を得總建坪百五十坪二階作りの廣大なる建物を造り病院資格となし開業せしを横尾弘三郎氏とす氏は病院を開くや外科を得意とし手脇を振ひ居らる兩氏とも村内に於け

る刀圭家として信用を博しつゝあり次で明治四十三年一月山口百重郎氏居を中央市街九號線にトし山口病院なるものを開きたり氏は開業以來職に忠實にして前兩者の中間に立ち最も敏腕且つ親切を旨として日々隆盛に越さつゝあり、目下停車場前に醫學士館正三氏館醫院なるものを設立せられ破竹の勢を以て隆盛の域に進みつゝあり氏は最も温厚の人にして患者に接する親切にして患者常に充滿するも右の結果なる可し。亦中央市街に笹川景次郎氏開業せらる年變り星移りて漸くに草根木皮の漢法醫は擊退せられたり西哲云ふ金持、學者、良醫の三役備はらざる地に住す可らずとは宜なり俱知安も亦樂土安住の地となれり

第六章 最近の俱知安

年變り星移り開村廿四星霜の俱知安は天を仰いで舊古を語り伏して前途に何物かを渴望しつゝあり。嗚呼何れの日か天與の地利を受け得たる我が俱知安の使命をなし遂ぐる日に到達すべき方今傳ふる處に依れば全歐洲の戦亂は遠く東洋に軍備經濟の餘波を及ぼし室蘭製鋼所は多大の重砲彈丸の製造に着手し尙ほ本土製鋼所も一般製鐵の必要急務を促がし元我が村内の一部たりし東俱知安(俱知安の分村)に於ける天然の鐵鑛は發掘せられ其需用に應せんとす。幾久敷間俱

知安の希望せし東西兩岸を横斷踏破する膽振鐵道は時勢の進運に促進せられ差當り輕便鐵路として起工せられんとしつゝありと。待つ可し時を故河島長官の拓殖方針は漸次進行し來り一人前の男子と成長したり寵兒俱知安の前途を祝福せざる可らず

(一) 一級町村制施行

後志支廳の管轄する三十四ヶ町村の首都俱知安は二級町村制施行せられて日尙未だ淺き自治制度のほや／＼たる地にして恰も未丁年兒が一人前の洋服を着けたる感を抱かしめたり、合併當時の支廳所在地は、小樽區、曰く岩内町、壽都町とて皆立派に一人前の町村として人民の蓄財程度や生活状態は全然其趣きを異にして大差あるを知る一旦合併して後志支廳を設けらるゝや諸役人は日毎に入替り立ち替り任免來往し朝野の貴顯紳士は北海の寵兒を訪ね來りてやれ歓迎それ送別、紋付羽織も必要を感じ袴も仙臺平では間に合ぬ洋服が入用オーバが必要靴も防寒靴では妙である手袋もてつかへしや軍手は氣が利かぬ皮手袋それ、シルクハット山高帽子、一時に突飛的のハイカラ紳士の必要を感じ眩暈せんとする有様なりしが然れども時勢は次第に要求し來り相當なる町村の資格の必要に迫まられ茲に開村以來廿餘年の後即ち大正四年四月一日一級町村制を施行せられ村會議員阿部猪五郎、宮脇胤意、廣瀬悦太郎、佐久間周作、横尾弘三郎

林傳彌、八反田角太郎、中村與三松、萩田清平、澤田義三郎、高橋元次郎、猪ノ瀬清吉、山名平藏、林文次郎、伊藤助次、樋口運之助、坂井好太郎、金輪磯五郎、中村虎藏、竹内染次郎の二十名を選挙するに至れり其後互選に依り村長を推挙し元老宮脇胤意氏を第一期村長となす依て一名の補欠を行ひ阿部重之氏當選し始めて自治体の機關は完備せり其後一年に満たざるに家事の都合に依り横尾弘三郎氏辭任し欠員となり居れり、大正五年四月突然俱知安村を俱知安町と改稱せられ間もなく宮脇氏は町長に其他の議員諸氏は町會議員となりぬ然るに間もなく宮脇町長は家事上不得已事故ありて辭職せられたる爲め、種々の曲折を経て廣瀬悦太郎氏を第二回の町長に推選し大正五年五月就職せらる茲に於て二名の町會議員を失ふに至れり

(二) 俱知安模範林事業

(イ)沿革 本事業は過去に於て幾多の變遷史を有す即ち松前時代、幕府直轄時代、開拓使時代三縣一局時代、北海道廳時代より一時帝室財産として御料林に編入せられたるも再び北海道廳に移管する所となり明治三十九年八月地方費所屬となり模範林と稱したるも明治四十一年地方費森林と改稱し俱知安事務所を置き野村武右衛門氏技手として來任す所管面積は八千二百餘町歩にして俱知安、東俱知安、眞狩、狩太の四ヶ村(山麓四ヶ村)に跨り聳立する羊蹄山蝦夷(マ

ツカリヌブリ)の秀嶺一帶の圍繞地にして周圍は凡て開墾せられ通路開け鐵道通じ交通の便頗る良く而かも本道有数の美林にして將來有望の森林なり五十年を以て森林の整理は了せられんとす目下野村氏上川に轉任せられ後任として道廳技手坂野雄憲氏専ら事業を經理しつゝあり

(ロ)事業の大略 事業は大体三種とす 一、林産物拂下 一、林地貸下 一、造林苗圃事業

林産物の拂下は主として針葉樹及薪材の拂下にして年々五万石に達し其他地元住民の便利を計り篠竹石材等の副産物をも拂下ぐるものとす是等全部の收入を合算すれば約二万餘圓實に他事業區に比し優秀の好況を呈す

造林苗圃事業は明治四十二年度より着手し毎年約七十町歩の植林をなし既に五百餘町歩の造林を了し新植後四年間は下草刈拂を爲す等専ら森林の整理に腐心しつゝあり又苗木は凡て俱知安模範林事務所の管轄苗圃より生産するものにして苗圃は山麓に設けられ其面積約五町歩、主なるものはカラマツ、獨逸唐檜、ヤチダモ、ワタドロ、エゾマツ等二百廿万本の苗木を培養しあり其の成績大に見るべきものあり

林地貸下には諸種の使用目的あるも其の最も重なるものを農耕地とす現在羊蹄山麓一帶四ヶ村に亘りて貸下許可せられたるは二百戸未滿にして未だ成墾二期に達せざるも大正六年度よりは

地代を徴収する筈なれば假りに一反歩料金一圓と見積るも尙二万圓の巨額に達す可く地方行政の財源として閉却すべからざるものあるなり、尙ほ事務所は一の事業として俱知安下ノースケに於て製炭及醋酸製造事業を指導奨励し収入獲得の目的より經營せられ來り漸く好成績を挙げんとするに當り昨年四月道廳に於て補助費削除せられたる爲め遂に此好事業を閉鎖するに到りたるは吾が俱知安の爲め最も痛切に感ぜしめたり希くは再興其事業の發達を望むものなり

俱知安警林區分署

當署は札幌警林區署の管轄に屬し元岩内、壽都の二警林區分署管轄の一圓と室蘭警林區分署管轄の一部にて狩太、眞狩の二村を合併し大正二年六月一日創めて開應せられ古宇、岩内、磯谷歌葉、壽都、島牧の六郡一圓虻田郡山麓四ヶ村を管轄し其國有林面積十二万餘町歩なり而して俱知安村市街地二條通一丁目一番地民家建坪四十八坪を借入れ應舎に充當し同署北海道廳技手兼屬眞田關次郎氏分署長に任命せらる然るに管内は明治三十七年函樽線開通と共に拓地殖民の實大に揚り一方古宇、島牧沿岸の漁業の趨勢及鐵道沿線木材需給の關係其他諸種の施設を要する關係上應舎の狹隘を感じ俱知安町基線五十二番地千六百番地の一、九、千三百八十六坪の民有地と交換し大正二年九月起工工費四千六百十六圓二十五錢を費し現在の廳舎一棟此建坪六十四

坪四合及附屬官舎二棟三戸分建坪五十五坪餘は大正二年十二月中工事竣成し同月十二日を期し新廳舎に移轉せり管轄森林面積中内施業案編成林十一万六百餘町歩未編成林二万五千四百町歩にして主要樹種はシナ、ヤチダモ、ニレ、クルミ、セン、シコロ、イタヤ、シラカバにして島牧郡に於ては掬を主林木とし其他小澤、眞狩、俱知安、黒松内地方に於てはエゾマツ、トヤマツの針葉樹を混淆せり既往三ヶ年の收入左の如し

科	目	大正二年度	同 三年度	同 四年度
主 産 物		一八、二〇八、七〇〇 ^円	一四、六五六、六八〇 ^円	一三、五〇五、三〇〇 ^円
副 産 物		一、七二〇、四六〇	二、三五三、七四〇	六、二二九、七〇〇
其 他		七一八、二五〇	一、一七一、七七〇	三、五二八、八三〇
計		三〇、六四七、四一〇	一八、一八二、一九〇	二三、二七三、八三〇

尙造林事業としては其實行總面積二百三十餘町歩植栽本數八十八万八千七百本餘にして之れ等植栽は國土保安上重大なる關係を有する箇所にして其大部分は魚付林なり尙造林及獎勵苗圃として壽都、俱知安兩合計面積八町一反二畝十三歩の施業をなせり森林監守駐在所は俱知安外十二箇所にして其位置左の如し

駐在所名	同位置
俱知安森林監守駐在所	虻田郡俱知安町
岩内同	岩内郡岩内町
小澤同	岩内郡小澤村
堀株同	古宇郡堀株村
神惠内同	古宇郡神惠内村
珊内同	同 郡珊内村
狩太同	虻田郡狩太村
真狩同	虻田郡真狩村字留壽都
南尻別同	磯谷郡南尻別村字蘭越
黒松内同	壽都郡黒松内村
壽都同	同 郡壽都町
永豊同	島牧郡永豊村
磯谷同	磯谷郡磯谷村

因に眞田分署長は大正五年二月二十九日退職後任分署長として技手三田重四郎氏任命せられ現職中なり

(四) 宗 教

明治維新前本島人(内地人)居住地には夙に神佛を奉祀し運上屋所在地には崇敬の念盛なるものありき自然開拓の進むに従ひ神社寺院は如何なる山間僻地と雖も殆んど内地府縣に譲らざる程となれり

我羊蹄山北麓の俱知安は古(齊明天皇の御宇安部比羅夫をして蝦夷を征せしめたまへ後方羊蹄山麓に政廳を置たりと日本書記に見へたり此の後方羊蹄は今のシリベシをいふ蝦夷地第一の高山なり云々と安藝守正義著述の休明光記蝦夷地總論にあり)其後方羊蹄山下尻別川の清き流れにて灌漑する一大町村こそ即ち後志支廳所在地たる俱知安にして寺院九ヶ所説教所五ヶ所あり其宗別を示せば眞宗五、眞言宗三、曹洞宗二、日蓮宗三、淨土宗一にして本願寺派東林寺大谷派專曉寺圓融寺興照寺派周延寺眞言宗金剛寺金毘羅寺曹洞宗孝運寺大佛寺日蓮宗放光寺並に本門法華宗派出所大谷派説教所淨土宗教會所眞言宗智山派成田山教會所日蓮宗説教所あり大谷派惠曉寺は明治二十六年の創立にして西十一號基線通にあり開基住職は能登の人松下惠曉師なり

管長南條博士を随伴巡教せしことあり本願寺派東林寺は明治廿七年の創立にして開基住職は安藝の人山階城師なり嘗て園田安賢男北海道廳長官たりし時金森通倫氏を随へ本村に於ける勤儉貯蓄の講演を當院に於てせられし事あり又數年前島地默雷師巡錫の時俱知安の即吟あり即ち、驛夫呼徹俱知安。客夢醒來仔細看。好是羊蹄山岳趣。宛然相似富峯觀。是なり曹洞宗孝運寺は明治廿七年の創立にして西六號基線通りにあり開基住職は東北の人今出孝運師なり永平精舎悟由禪師の巡錫せしことあり眞言宗金剛寺は明治廿八年の創立にして西六號北一線にあり開基縁起住職は備後の人石井理源師なり金毘羅寺は能く人の知り居る眞言宗の寺院にて其縁起は餘り複雑なるを以て金刀毘羅神社の御本體は大物主命と崇徳帝の御二柱を合祀し明治初年新に勅裁の社にして象頭山金毘羅大權現とは全く別種の御佛體にして西天竺摩迦陀國耆闍崛山に御出現ましし釋尊御在世の其昔、屢々大神通力を現し給ひ惡魔外道を退治し佛法守護の大善神にして佛法信者に福徳圓滿を與へ水火の難、風難盜難諸病厄苦の諸難を救んとの御誓願は千古不朽の經典に明なる處なれば四方の信仰者は宜しく進んで熱誠眞摯なる祈願を込めば現當二世の利益は求めずして俱得圓滿するに至らん、大谷派圓融寺は明治卅年の創立にして下ツースケにあり開基住職は岐阜縣の人服部大融師なり興照寺派周延寺は明治三十三年の創立にして西六號南

五線にあり開基住職は香川縣の人秦見正師なり曹洞宗大佛寺は明治三十二年の創立にして西十號南一線にあり開基住職は秋田縣の人齋藤忍隨師なり日蓮宗放光寺は西九號南一線にあり元内地より移轉せしものなり本堂の寺院は其創立の際は説教所として簡易なる設備なるも其檀信徒たる移住民の實力發展を俟て御堂を造る順序なり當村の如く各宗寺院増加し就中眞宗の寺院稍々多きに過ぐるの感あり然し諸宗何れも其檀信徒は尊法の信心深ければ物變り星移るに従ひ追々隆盛に越きつゝあり、其他神道各派の教會所もあり又聖公會、天主教教會等もあり盛なりと云ふべし

惟ふに深山谿谷の地に移住し眼界郷貫を異にせるが如き觀ある場合身心を慰め土着心を生ぜしめ日々其業務に勉勵するは誠に宗教の力に依ること最も多く又自然其結果として遂に富を生ずるに至る即ち富は富以上の大切なるものを護るに欠く可らざるものは富なりと云ふも過言にはあらざるべし其富以上のものと云ふは人である人の尊きは肉にあらず骨にあらず父母に孝に兄弟に友に夫婦相和し朋友相信と恭儉己を持し博愛衆に及ぼすと云ふ人道を實行するにも衣食住の富は互に相援けて人生最後の目的を獲得するは畢竟信仰の力に依る恰も魚と水の如く人と宗教とは實に人世に於ける最も貴重なる一大要件なりとす

(五) 消防機關

明治三十八年中央市街は長足の進歩を以て發達するや有志間に於て消防機關の必要を感じ同年五月二日中央市街に於て協議會を開きたる結果左の決議をなせり曰く私設消防設立委員五名を選擧し戸長役場並に警察分署に公設消防設置を要來し若し容れられざる時は委員五名に於て私設消防を組織し而して之が費用金額四百圓と見積り列席の諸氏に於て分擔寄附す可き事は即時に可決確定し委員に倉田徳兵衛、引野熊次郎、山本彌平、菊地千代松、山田實次諸氏を推擧し所要金額四百圓は列席二十六名に於て釀出を承認し記名調印せり、同月俱知安總代人會に於て時機尙は早しとの理由に於て否決せられたるに依り警察分署長心得巡查部長沼崎保太郎氏に豫定の行動たる私設消防設立の出願をなすや氏は岩内本署に交渉の結果一ヶ年間猶豫す可き事を以てす其理由に曰く俱知安は日ならず公設消防の設立を見るに至るべし故に萬一其際私設と公設の間柄不和を生ずる様の事ありてはとの十六世式の理由と未だ村は總代人會時代なりし爲め市街との關係淺く如何とも術策に窮し遂に三十九年の春を迎へ二級町村制は施行せられ名望家にして壯年有爲の武井三代吉氏を村長に擧げ一面警察分署は警部を以て署長たらしめ小樽警察署より警部宮川辰三郎氏着任し村會議員十二名の内殆んど過半数市街より選出せられたるよ

り豫て渴望せし消防設立の議案は大運動と共に村會に提議されたり議員諸氏の内村落選出の諸氏は直接の關係薄き爲め尙早論を主張し加ふるに村經濟の一時に膨脹するを恐るゝの理由を以て反對を試み市街選出議員は一部を村費一部分を寄附にても取纏め斷行せんとし一面私設計畫の示威的運動は逸早くも警察分署方面と連絡し百難を排しても創立せんとの意氣を示し又村醫補助金全廢の大鐵槌を以て正面より向ひ議場の騷擾言語に盡し難く調査に調査又調査、休憩休憩又休憩、漸く村費三百六十圓の出資を受け其他は特志の寄附に依る事とし料理店組合は茲に見る處あり演藝會なるものを起し豫定の金額に滿つる寄附をなし遂に其目的を達せしは三十九年十一月なりき此際最も苦心せられたる村長武井三代吉氏の勞を謝するに辭なき程なりし部落には村會の豪雄、廣瀬悦太郎、阿部猪五郎氏の如き東俱知安の如き最も本村消防に縁薄き村會議員あり實に其當時を追想し思ひ半ばに過ぎざりし、翌四十年は人家次第に稠密し一組の消防にては全市街を安心せしむる能はずとて茲に四十年の村費豫算を議するに當り消防器具並に消防夫の増員等を豫算に計上せらる時の村長上野良夫氏並に村落議員諸氏は又反對の氣勢を示したる爲め著者深く考ふる處あり東奔西走降雪を冒して櫓を飛ばし三號線小笠原安兵衛氏、北阿部猪五郎、石井彦三郎氏等を訪問(當日村會に付午前に行けり)し同道中央市街組頭村井權八氏

宅に同行せり宮川警部(著者の捕虜を待ち受けたる感ありと談笑す)消防二部を増加する必要を説く漸く當日の議題に上るや又も反對の動議は部落議員より起り休憩調停交々起り遂に又器械器具を寄附に仰ぐ事とし料理店組合再び奮勵演藝會を開催し百廿四圓を寄贈し以て第二部消防組の實現を見たり尙ほ引續き支應合併に伴ひ人家激増したる結果消防機關の不足を來し有志者苦慮しつゝありしに鎌田平次郎氏外數名發起となり特志の寄附を得一面村會は戸數の増加と市街部落の都合に依り必要を認め無事通過し大正二年四月新に第三部の成立を見るに到る現今にては各役員並に部員諸氏も職に忠にして市民亦安堵の思ひをなすに到れり其間組頭の變更は初期村井權八氏最も部下を愛し組員の統一を計り來り圓滿且つ盛大なりしが續て山上琴次郎氏より現在の山田邦吉氏引受け目下其職に居れり部長三名小頭六名創業以來幾多の變遷ありしも目今左の諸氏從事しつゝあり

組 頭	山田邦吉		
一 部長	府川兼吉	小 頭	兵庫善次
			小 頭
			太田初太郎
二 部長	鈴木龜吉	小 頭	鈴木三藏
			小 頭
			土井五郎吉
三 部長	鎌田平次郎	小 頭	戸田仁佐吉
			小 頭
			舟尾永次郎

外消防手計六十五人

大禮紀念として中央市街に於ては部落民の醸出金にて箱火の見櫓を建設して創業の際奮勵せし火防の紀念を残しつゝあり是れ火防組合區長朽木清作氏並に著者山田實次の建案にかゝり尙ほ熱心に努力し其好果を得たるものなり

(七) 衛生機關

俱知安人士の衛生思想は開村日淺きが爲め至て幼稚の感あるものゝ如く見ゆるも他町村に比較する時は稍々良好と云はざる可らず、明治三十八年の頃俱知安教育衛生演藝會なるものを起し其收入を以て衛生上必要の幻燈を購入し各部落に小集會を催ふし衛生の講話をなし餘金を以て傳染病發生の際の必要器具藥品苛性石灰等を買入れ春秋二期の清潔法施行の際は各戸に無代配付するが如き事業をなせり而して其事務の機關として俱知安衛生會なるものを組織し俱知安市街と稱する基線西六號中央市街と稱する基線西九號公設市街及び停車場附近人家最も稠密の箇所を集團として各部に組合長を置く中央市街は小笠原保兵衛氏組合長となり著者山田實次副組合長として萬端の事務を取扱ひ時日を経過し來りたるに偶々北海道廳は衛生組合規則を設定して公布せらる茲に於て衛生組合も大に活氣を呈し俱知安村を一團とし衛生組合なるものを設け横

尾弘三郎氏(醫師)組合長となり前記四部落に區長を置き其補佐として伍長を設け専ら衛生上の活動をなさしむ是れが爲め年々の傳染病の如き他町村と異なり至つて僅少なる數を示し居たり目下の衛生組合長は町長廣瀬悦太郎氏其任に當り居れり尙ほ機關の役員氏名及び衛生組合費の概畧左の如し

衛生組合

- 組長 廣瀬悦太郎氏 副組長 本田傳四郎氏 第一區長 高橋 直藏氏
 第二區長 野村 俊明氏 第三區長 藤田專太郎氏 第四區長 小林啓次郎氏
 伍長 水根正藏、石橋泰一、荒木德藏、山崎啓次郎、田邊信義、笹原次郎、高岸喜太郎
 鎌田平次郎、池本奎之助、土井五郎吉、鈴木三藏、今井四郎、鼻山榮五郎、工藤長作、吉田寛治、岡川岩吉、島崎松次郎、難波常五郎、小木文右工門、鈴木艶之助、荒木儀作の諸氏
- 衛生組合費

年次	組合役員數		収入		支出額	平均一戸負擔額
	區町村	補助	會費	寄附金		
四十三年度	九六					
四十四年度	一一八					
大正元年度	一五六					
同 二年度	一五六					
同 三年度	一五六					
同 四年度	四〇					

年次	組合役員數		収入		支出額	平均一戸負擔額
	區町村	補助	會費	寄附金		
四十三年度	九六					
四十四年度	一一八					
大正元年度	一五六					
同 二年度	一五六					
同 三年度	一五六					
同 四年度	四〇					

(八) 俱知安警察署

俱知安村は元室蘭警察署有珠分署の所轄にして巡査駐在所を置かれしが明治三十二年八月十一日岩内警察署所屬に變更せられ同時に應令第六十三號を以て俱知安村基線西六號線に俱知安分署を置かれ九月一日開廳式を舉行し巡査部長川村操氏分署長心得を命せらる當時分署長心得なる巡査部長一名外勤巡査一名を配置せられて俱知安村一圓(今の東俱知安村を含む)を管轄せり明治四十一年九月十日六號線分署廳舎を南一線西五十七番地に移す同四十年四月十二日室蘭警察署有珠分署の所轄たる狩太村巡査駐在所(狩太村一圓)を俱知安分署の所轄となし同時に人口増加の理由と新市街の發展とに依り更に同年八月十七日を以て新市街地に第二狩太巡査駐在所

を増設せらる、大正二年五月廿二日俱知安分署は昇格の上俱知安警察署となり同時に室蘭警察署伊達分署の所轄に屬せし眞狩村をも併せ尙壽郡、磯谷の兩分署を所屬として管轄するに至りたるを以て舊來の廳舎にては執務上狹隘を感ずる爲め増築に着手し同年十月廿八日を以て竣工す現在の廳舎即ち是なり

明治三十二年八月十一日より同三十三年三月三十日迄 俱知安分署長心得 巡查部長 川村操氏

同三十三年三月三十日より同三十六年五月迄同 巡查部長 岩清水幸吉氏

同三十六年五月より同三十九年六月十八日迄同 巡查部長 沼崎保次郎氏

同三十九年六月十八日より同四十一年九月廿八日迄 俱知安分署長 警部 宮川辰三郎氏

同四十一年九月廿八日より大正二年六月一日迄同 警部 北島利賢氏

明治四十五年七月より大正四年六月迄治罪係として 警部補 熊谷長太郎氏

大正二年六月一日より同三年三月二日迄 警察分署長 警部 伊福部利三氏

同三年三月二日より同年五月岩内警察署俱知安分署は俱知安警察署に昇格 署長 現任警部

日吉幾四郎氏

警部補熊谷長太郎氏室蘭警察署に轉任に付後任治罪係として 現任 警部補 鈴木喜兵衛氏

消防及衛生主任として 現任 巡查部長 三浦氏

右現在警察署長警部日吉幾四郎氏は濃厚篤實にして精勵なり最も好く部下を愛撫せられ縦横無盡の敏腕を振はれつゝありて過古未來の問題に就ては細大漏す處なく碎心盡力せらる職責公私の混合を明にし職に威ありて社交最も巧妙なり、警察補鈴木喜兵衛氏は遠く根室より轉任せられ着任以來治罪主任として精勵し署員を督勵し細心の注意を拂ひ活躍自在過去の犯罪及び突發犯者は最も敏活に調査を遂げ事務の澁滞等の事なく解決をつけられつゝあり、巡查部長三浦氏は衛生を主とし一面消防の主任たり氏は本年春東俱知安に於ける奇病ジフテリア性の傳染を受け長く病床にありしも職責上細密調査の結果病者に接近したる爲め感染し一時病氣危篤に陥りしも漸く全治するに到れり是れを以て氏の衛生上如何に勉勵せらるゝかを證すべし目下署員二十五名曰く署長、警部補、巡查部長、内勤、刑事、特務各一名つゝ外勤十九名なりとす、嗚呼回顧すれば二十餘年前室蘭警察署有珠分署の俱知安駐在所が如斯發展の實を上げ後志全國の過半を管轄して未だ足らず此田郡の過半を併呑し未だ其大を知らざるが如き發達を遂げたり

第七章 將來希望の俱知安

過ぎしものをして、過ぎしものを葬らしめよ。俱知安史を述ぶるが故に、しかく過去を追想するもの、俱知安は徒らに故きを追ふの老翁となつてはならぬ、現在にも悔る可らざるの骨節はあるが、寧ろ將來に、希望滿々たる血氣の青年たらしめねばならぬ。が、然しこれには町民の努力問題をも前提としなければならぬ。牡丹餅は棚から落ちたいのであるが、棚に置いて呉れる人がなければならぬ、置く様に仕向ける人もなければならぬからである。既に恰好の棚あり、又牡丹餅も少からざるに、牡丹餅ならざるの牡丹花をも如何にせんとするやである。

海拔六百尺の棚、北海の咽喉に當る此棚である、こゝを通過しない旅客も少からうが、こゝを看過すべき理由も甚だ少ないのである。去れば嘗ては山間の一寒村、此奥に俱知安ありと稱へられしものが、今や、堂々二百七十四方里の政治中樞となつたのである。此棚牡丹は第二第三の牡丹餅を誘ふの理由となりぬであらうか、營林区の分署も、警察署も、模範林の事務所も、農事試験場も皆此相伴役なりしとせば、區裁判所の新設が將た移轉は早晚實行せらるべしとの豫想も空想とは嘲らぬであらう、況して陸軍の二十五師團説が實現せらるゝの曉に、師團が旅

團司令部の設置と、二個聯隊の駐在は朝夕喇叭の響に蝦夷富士の木靈を驚かす事であらう。

明治廿五六年頃と記憶する、第七師團を北海道に新設せらるゝ最初の豫定地は、實にかくいふ俱知安と岩見澤であつたのである。然るに、時の屯田司令官永山將軍の建白により、今の旭川と札幌に變更せられたのである、烏兎匆々三十年、幾たびか候補地に擧げられて、しかも物價高貴、經濟不便の理由は流星光底、北海道に俱知安の運命を逸したのである。が然し、何時かは花咲く春の來らぬことやある、待つべきは此春である。

膽振鐵道も長い問題であるが、重要な問題丈けに時間を要する少からぬ事である、幸にして鐵にも華さく頃となり、今年のうちには東俱知安までには着手せられ、期年ならずして工場林立、電氣精煉の貨物を俱知安驛に山積する事となるであらう。

道路も畧完成したが、北鐵線のセトセ開通は早晚實行せねばならぬ、函樽鐵道新設の際、岩内に頭を出すため此便利な線路を棄て、俱知安稻穂兩隧線を採用した當時の北垣社長の心事は實に同情すべき限りであつたが、今や小澤岩内線を有するの現在、かゝる不經濟の線路を棄て、國家百年のためセトセ線を開通せねばならぬ、必ずしも岩内人士を俱知安に招待するが爲めに言ふのではない、實に國家問題の已む可らざるためである、而して又序に赤井川俱知安間道

路を何が故に後志支應たるものが開通せぬかを怪しむものである、右は既に二十年前よりの懸案で、小樽俱知安間道路としての設計は當時の小樽支應長久保誠之君をして自身實地踏査まで實行せしめたものである、小樽赤井川間は既に落成したるに、呼べば應へんとする赤井川俱知安間道路は何が故にしかく遅延しつゝあるかである、此道路は必ずしも俱知安中心論より割出したるものではない、軍事上より又交通上より随分便利を與ふべき道路であると信ずる。

俱知安の農業は、勞力、天候、肥料に研究を加へたるものを以て、堅實なる収益を得るの方法を講ぜねばならぬ、これには是非一隻眼を有する献身者の起つて、日本全國を巡廻しつゝ、長を採り短を補ふの篤志に待たねばならぬ。俱知安の氣候が水田に不向ならしむるは却て又天候の一なるかも圖り得ないのである、年々歳々、米價の低廉なるに菜豆の高價は、北海道の農業殊に俱知安の農家を幸したる昨今に顧みて、作物研究の歩みを弛めてはならぬ、俱知安はどこまでも農業立町の地として立たせたいものである。

今の關東都督府長官白仁武氏が、二十八年か官林解除のため俱知安巡視の際、野生の桑葉を撈ぎ來つて之を白紙に押捺せし處、實に美濃判大なりしに驚き、歸來之を北海道土産殊に俱知安の誇りとせしが今如何との同氏の質問は、直ちに之を町民諸君に致して、天然的養蠶國たるの

眞價を十二分に發揮したいものである、現にソーヌケの水の如きは製絲に極適するをやである、養蠶、種紙製造、製絲、織物製造、誠にこれ諏訪湖畔に於ける信州に彷彿たるもの、企業家の奮起を促さねばならぬ。

北海道に於ける水電の動力として、位地として尻別川の水電は殘る第一等地である、苫小牧の化學工業は此水電を利用して、附近に石灰岩を發見するあらば直ちに俱知安に窒素肥料の工場を起さんとして居る、橋本組の長流川及洞爺湖を利用する七千の馬力に依る電氣精煉の製鐵と相待つて東西の二大工場を山麓に期待すべからずとは何人か言ひ得んやである、殊に一萬馬力以上の尻別水電(小樽電燈の分とは全く別なり)をして或は將た小樽發企の水電をして、動力を供給せしめば木材を材料とする醋酸は如何、器具は如何、曲物は如何、多大の産額を有する澱粉を基礎として、酒精の製造は如何、考究し來れば又幾多の工業地たるを發見するであらう。以上列舉し來りたる理想を實行するの町民あり、手腕家あらば俱知安の繁榮は月を期し、年を期して待つべしである、何ぞ況んや、商業の振不振を論ずべけんやである、更に又俱知安の將來を悲觀するの理由何處にかあると云はねばならぬ、要は町民の奮闘努力如何に在り、新來諸君の手腕幾何なりやと云ふに歸着せねばならぬ、かくて俱知安は今尙光明の途に在り、今後更

らに大發展の時機ありと斷言せねばならぬ。

(一) 政治機關に伴ふ將來の發展

前章に於て紹介したる諸官衙は漸く出生したる寵兒に命名したるに過ぎず未だ百日の宮參りも濟まず況んや誕生の披露をや

人には天折の憂あるも俱知安の政治機關には其心配なし只今後政治の變動上微々たる曲折は避く可らずとするも俱知安の繁榮には大なる關係あらざる可し目下の成行にて前進せんか俱知安區裁判所は是非新設の必要を認めつゝありて當局者は調査に調査を重ねつゝありと、無論將來に於ける發展の如何に依り區裁判所は一躍して札幌地方裁判所後志支部と早變昇格の機を見るなしとせず若し政變の爲め壽都區裁判所の復活成就すると雖も俱知安の政治機關の一部を殺かるゝが如き患ひなからん

天の時は變るあり人の和は破るゝあり、然れども俱知安の地の利は決して異動するの憂ひなし若し膽振鐵道開通し北海道縣制の實施を見んか後志支廳は後志縣廳と變體し稅務署の如き其他の諸官衙も亦新設せらる可く財政整理の機關も擴張せざる可らず將來兵營の必要も目前に迫り新設せらる可く其他の諸官衙亦皆擴張せらるべくして更に縮少の餘地なし將來行政機關の完成

と共に之に伴ふ俱知安の發展は確實なる事を保證す

(二) 道路改修と俱知安

道路は實に國家の生存上一日も忽せに附すべからざる血管なり、道路の破壊は血管の破裂にして國家の動脈は中止せらるべし、故に北海道津々浦々迄國道縣里道あり又私道あり、國民が自由に布設したる私道は今尙租稅を免除せられざるも不便を補ひ居れり然かも不便として鐵道あり漸次文明邦國の夫れの如く其軌を一にして積極的に道路を擴張しつつあり、然るに俱知安としての理想の道路は曉天の星たる感あり、今假りに一朝東亞の風雲切迫し俱知安をして軍事行動上必要の場所とせんか戰慄す可き憾あらしむべし騎兵騎馬は或は鐵路(函樽線に依て輸送し來らんか砲車の通ず可き道路幾程もなく騎馬の飛ぶ可き道路幾條かある全般の軍隊は不便不利なる道路狹隘の當地に駐屯し一朝企畫破れ退去の期迫まるに當り小樽赤井川に通ずる道路は如何、定山溪道路は如何騎馬を通ずるだに容易ならざる險惡の道路砲車は言ふに及ばず兵站部全部を俱知安に放棄し敵の自由に任せ單身遁避するの外術策なきに至るべし

著者をして極論せしめんか寧ろ開拓に先ち道路を改修すべし道路の完全なる地方は不知の内拓地殖民の實を擧ぐ可し國土の安寧人智の開發殖産の増加等を圖る點に於てするも道路の改修よ

り着手せざるべからず、況んや軍事上重大視せられある俱知安に於てをや
然れども道路改修は成、不成の問題にあらずして時間の問題なり近き將來に於て必ず遂行せら
るべき問題なり道路改修運動は唯其前後遅速を争ふに過ぎず

我が俱知安は永久に北海道一部の主府なる都會を成すの地位にあり室蘭に至る鐵路赤井川より
俱知安に通ずる鐵路の變更並に小樽より赤井川を経て俱知安に通ずる軍用道路、札幌より定山
溪を経て俱知安に通ずる軍用道路は必ず改修を實行し大軍の輸送砲車の通行を便ならしめ村内
の里道亦是れに伴ひて改修せられ安全なる位置と變化せざる可らず以上の計畫實行せられんか
俱知安の發展に大なる關係を有する亦論なきなり茲に於て俱知安は始めて東西兩海岸の中央起
點の大都會と化し繁昌す可き事近き未來に實現せらるべし

(三) 農業之前途 (一)

俱知安の價值は那邊に在りや昔は林産に榮え鐵道布設工事に賑ひ中頃農利を唱ひ置應を祝福せ
り而して今や如何山林は伐採し盡されんとし工事は皆終りに近く土地は瘠薄となり今に於て見
る可きものなし然らば即ち今後の俱知安をして永く有價值ならしめんとするの道果して如何是
れ吾人在住者が寸時も忘るべからざるの問題たらずんばあらず由來本道開村の順序消長の跡を

觀るに交通至便にして不定の事業頻發するが如き處に位置するものは人口の集散常無く風俗稍
智に長じ土地は荒廢せられ經濟の維持困難にして住民は多く徒手致富の策を夢想す之に反して
邊僻の沿岸地又は稍鐵道に遠ざかりて常に道路交通の不便を訴ふる純殖民農村の如き處に在て
は風俗質朴に勤勉業に専らに町村の維持亦甚しく窮乏ならず之れ著者一己の見解にあらずして
世間有識の士が同感する處なり今若し俱知安を以て例を前者に擬せんか少しく其趣を異にせん
も投機的土地賣買の中心となり不時の利を趨ふて集り不知不識人口過剰となり小作地多くして
農民永住の誠意無く土地は次第に少數の富豪に兼併せらるゝ等町村價值を減損せしむる原因
決して少しと云ふべからず此の如く不幸にして吾俱知安も亦鐵道沿線地の惡例を脱することを
得ざりしなり然り而して俱知安の價值を向上し若くは回復を談ずるに先ち尙一方の觀察面あり
他なし俱知安なる村及び俱知安なる市街が生活する要素は絶對的農業範圍なることは是なり故に
農業以外に興る處の事業即ち土工等の如き一時的般賑現象を看て以て將來の俱知安を云爲する
の早計なるは勿論假令近き將來に多少の土工的事業の勃興することありとするも是等に伴ふ人
口の集散の如きは齊しく一時的のものなれば重要視するの價值を認めず俱知安消長の素因を爲
すものは四境繞圍の農村部落ならずんばあらず然らば即ち農家を吸收保護するの策と及び新た

に入らんとする農家の覺悟とは共に本村未來の隆替に影響するところ莫大なるべきを惟ひ以下少しく農業保護の急務を陳べ併せて新移住者に警告せんとす曰く目下俱知安農業全般より見て稍危殆に頻せるは數多なる小作農業者にして之等は實に些の貯蓄なく辛ふじて一年を支ふるもの又は數年豊收の伴ふもの無ければ到底永く其地に住するの餘裕を存し得ざるもののみにして土地の改良や隣保の慶弔等奈何を望むことを得ん是等多數の小作者を救ふの途は専ら地主の年賦土地讓與と土地購買に要する資金融通機關の設備を最も急なりとす此の提案たる頗る空寛たるが如きも共同資本の蓄積と大規模なる銀行金融の擧と相待て土地購買を奨め又一面には地主の活動を喚起して低價分讓の法を勵行することあらば地主は今日の如く無價値の瘠土を所有して徒らに村費の負擔を啣つが如き事無く耕作者は永く吾が所有地として土地の肥培を講じ生産の増加を圖り頃に面目を一新するものあらん今や國歩進歩し多年の懸案たりし我國農事改良の根本議も既に自作者増加案として國論一齊に喚起し來れり而して其具体的案さへ各所に唱道するに至り農務當局も大に傾聽贊意を表し近々何等か實行を見んとするに會せり本道に於ても希くは當町之れが主動者となり將來の繁榮を有望事業の斷行に求むるを得ば恐らく幸之れに過ぐるものなからん次に新移住の人士に告ぐるものは從來の俱知安人氣質を改め新覺悟としては

飽迄豪健質實の美風を養ふに力め郷黨團結して一村の平和農作の豊穰を謀るに於て敢て人後に落ちざらん事を期すべし此の覺悟を邁進し新古共に一生面を開くことを忘る可らず

(三) 農業の前途 (二)

本町は開村以來二十餘年にして蝦夷富士山麓四ヶ町村の中稍々古き歴史を有する町村に屬せり然るに從來農業經營甚だ粗放にして無肥料耕作を繼續し所謂掠奪的經營たりしを以て今や地力漸く減耗し延いて民力疲憊の狀況を呈するに至り進歩の度は寧ろ他の後進町村に比して遜色あるは頗る危懼に堪へざるなり是れ從來村是として農業經營の基礎確立せざるに由るべしと雖も一は氣候の關係上冬季生活の他地方より稍々困難なる事情あるを以て、轉業の頻繁にして一時的又は投機的農業の經營行はれたると大農場主の多くは本村に居住せず且つ適當なる監理者を得ずして何等小作人の保護監督を爲さず冷淡なるより従つて小作人も愛土の感念なく唯廣大なる面積を耕作し以て多量に收穫す可く自然土地を愛する念を生ぜざる状態にして價格の變動甚しき青豌豆或は粗笨的にして而も地力を減耗することなく無肥料にて耕作し得る大豆の連作の如き偏作農業を繼續したる結果一般作物に對する研究心薄弱にて充分試の驗をもなさず一二回の實驗にして好成績を得ざれば直ちに不適當として放棄するは甚だ當を得ざるものと云ふ可し

然るに俱知安町農會に於て明治三十八年より四十四年に至る七ケ年間本町氣象觀測の結果植物の發育に最も肝要なる期間即ち五月初旬より十月初旬に至る間壽都方面より遙かに高温にして乾燥するが故に肥培の方法其宜しきを得當町の風土に適する特種を撰定するに於ては總ての植物を耕作し得可く數年前より瑞典及北米加奈太地方より各種の種子を輸入試作の結果逐次優良なるものを撰定し之れが耕作を勵行し多大の効果を顯はしつゝあり殊に果樹の如きは殆んど望みなきものと唱へられしも今や漸次好成绩を擧げつゝあるに至れり

而して當町の地勢は高、低、丘及傾斜の四區よりなり地質に於ても沖積土壤土粘土火山灰泥炭砂礫土等種々の土性ありて各種の作物栽培に適し左の條項を具備するに於ては前途有望なる理想的農村と化成すること容易ならん今左に各項を例記して参考となさん

(一) 人体の改良と土壤の改良

西諺に曰く家畜なければ肥料なければ農業なしと、然るに吾國に於ては肥料なければ農業なしと云ふが如く單純なる格言に依て考ふるにも其基礎甚だ強固ならざるを知るべし家畜は常に直接農業の基礎たるのみならず人体養成の源泉たり故に農家の貧富如何は家畜の數に依りて判別するを得べし。然り而して産業の發展を圖り國力を充實せんと欲せば須からず身體強

壯ならざる可らず然るに古來より本邦人種殊に本道農家の多くは身體の養素たる三主成分中最も貴重なる蛋白質と脂肪とを欠き其大部分は澱粉質をのみ偏片に攝取し居るを以て體軀の發育不完全にして充分なる活動を爲し能はざる欠點を有する状態にあり本道の如き寒地にありては體温の補給上脂肪を多量に攝取する必要があるが故に家畜中牛を飼養搾乳し以て自家飲料として其足らざる成分を補ひ人体の改良を計り同時に廢物たる黍稈類及屑物を利用し犢牛繁殖を兼ね多量の肥料を製造し以て土地の改良維持増進を爲し得べく且つ牛乳を自家飲料に供する時は前二要素の欠陥を補ふのみならず耕作に妙を得栽培充分なれば凶年に於ても不作のみならず最も澱粉質の多量なる馬鈴薯を常食とし得べく従つて身體強壯となり併して國家食料品の補給を計るを得べし而して將來五町步經營農業として牛馬豚各一頭の家畜及五六羽内外の家禽を飼養せしめ一は勞役に使用し一は副業として一家經濟の餘裕を作ることを行するにあり

(二) 種子の改良

夫れ種子改良の急務なるは今更贅言を要せずと雖も農家の多くは此點に留意すること甚だ冷淡にして折角指導當局に於て優良種子を作り配付するも粗放經營の結果忽ち退化せしむる憂あり仄かに聞く當町農會は年々歳々氣候風土の同一なる瑞典及北米加奈太地方より農産種子を輸入

して試作の結果良種の配付を怠らざるを以て他町村に比して遙かに總べての品質優等なりと雖も現在の如き小規模の經營にては當町の産業を急進せしむること至難なるを以て少なくとも各種の原種を毎年各戸に多少たりとも配付し得る程度に經營せしめざる可らず現に當町に於て燕麥種子を改良したる結果一昨々年の如きは他地方に於て作柄不良なる爲め馬糧用として供給し得ざる劣等品のみを産出し販路に苦しみ居るに係らず當町にては大豊作を以て收穫し陸軍糧秣廠の最も歡迎する所となり當町種子をして全道各地に奨励するに至らしめたり昨年當町の耕作反別は二千町歩にして從來の奨励品種より反當約一石以上增收あるを認む然れども之れを七斗と見積りて計算するも一万四千石の增收にて假りに石參圓とすれば四万貳千圓の利益を得たる次第なり要するに農産種子の改良を計り當町産額百萬圓の一割を増收するとせば優に拾萬圓の増利益ある譯なり以て種子改良の急務なるを識り得可し

(三)

耕作反別の案配を適當ならしむる事

當町の農家は既に述べたる如く從來偏作農業にして地質の如何を顧みず其當時價格の高騰なるもののみを偏作するの弊ありて其多くは自産自給の道を忘れ一時に巨利を博すべき賣物のみを耕作し食料品は總べて高價なる米麥を購入するが爲め収入多額なるに係はず却て負債を残す

に至る是れ失敗の大原因にして堅實なる農業を勵行せんとせば勞力の案配地質の如何により所謂適地に適種を撰定し耕作せざる可らず然る時は其要する費用小額にして比較的多額の所得あり農業經營上順調なるを得可し今假りに昨年如き高價なる青豌豆大福豆を石貳拾五圓に販賣したりとし瘠地にして燕麥及大豆の適地に栽培し僅かに二斗を收穫したらんには徒らに手数多くして僅かに五圓の収入のみ之れに反し燕麥を耕作する時は手数約半ばにして優に二石を收穫し得可し然る時は約六圓即ち一圓の増額にして遙かに利益多かるべし斯る實例は現に一般の認識し居る状態なるを以て須からず自家食料作物耕作を主とし其他の殘餘は地質の肥瘠を調査し夫れに適する作物を輪作し以て病蟲害の自然驅除を行ふと同時に肥料の調節を計るが如き方法の經營を勵行するにあり

(四) 特殊作物奨励及改良

本村の特産物としては(周到なる注意を要する)園藝作物に屬する菜豆類及豌豆類にして其耕作反別も年々變動甚だしく秩序的に耕作せられず其販路も甚だ不確定にして安んじて耕作し得ざる現況にあり斯の如き状態にては當町に於ける特産物として當町の經濟を向上せしむる事不能なるや勿論なり、されば其適地及肥培の方法を實地に指導すると同時に町村として大々の保

護を與へ以て特殊産物の種類並に産額の増加を圖らざる可らず今左に其概要を述べて參考となすべし

(イ) 菜豆及豌豆類 他作物に比し連作の行はれざる種類にして極めて土壤の沃饒なるを要し且つ肥培は他作物より一層の注意を要するを以て一般耕作者に之れが技術を授け品質善良にして同一なるものを收穫せしむるにあり

(ロ) 馬鈴薯の栽培 馬鈴薯は前項に於て縷々述べたるが如く澱粉質豊富なるものにして其製品の需用廣き事は一般の識る所にしてあらゆる製造原料に供せらるゝのみならず馬鈴薯をして海外に輸出する時は比較的利益多きが如し且つ當町の土壤は馬鈴薯栽培に恰適し居るを以て之れが栽培方法を指導し品種の統一を計り是れを露領方面に輸出するに於ては將來有望の特産物たるを疑はざるなり

(ハ) 苹果栽培 當町は從來積雪多量にして其障害の爲め苹果の栽培見込なき者として放棄され殆んど喬木仕立として肥培を怠り來たりたる状態にして氣候地質に適せざるにあらずして發育に要する丈の肥培を爲さざるに因るものなり其風土に適當する栽植を爲すに於ては余市方面に遜色なき品種を收穫し得ること容易なるべし人曰く本町は發育期間短く果肉の硬質なるを以て

見込なしと是れ一理ある理論なるか如きもそは現況の肥培及氣候の状態を知らざる者の言にして當町の氣候は苹果栽培に好適なるのみならず空氣乾燥なるが故に稍々硬きも味美にして貯藏用としては他村のものよりは數等上位にあるべく從て輸出用としては最も適するものと云可し而して當町は地勢多様にして高臺には傾斜の箇所多し而して秋季氣温の逆轉に依り平坦地より降霜遅く年に依りては降雪期まで結霜を見ざる状態なれば斯る廢地を利用し苹果の栽培を奨勵し馬鈴薯と共に海外輸出品として販路の擴張を企圖するにあり

(ニ) 造林及風防林の設置奨勵 當町の開拓當時は地味肥沃にして多少氣候不順なりしも相當の收穫を得たるや疑ひなし然るに其後無肥料耕作の結果植物性よりなる有機質分は次第に欠乏し土壤は膨轉の度を失し次第に凝固し土粘密着し從來表土五六寸のものは三四寸に減じ理學的作不用不充分となりたるのみならず風防林の設備を欠けるが爲め作物の發育を妨げ若しくは開花結實時に於て風害を被り發育を阻止せらるゝを以て從來充分收穫し得たると同様の氣候に於ても不作を見るに至りたるものなれば作物の障害多き南東風を避くる爲め南東又は東に風防林を設置すると同時に瘠地若しくは砂礫地等にて耕作に適せざる個所には造林を經營し國産の増加を企圖すると共に細木を得て吹抜堀小屋を造り收納舎に充て又は稻架用サギリとして乾燥用に供

し専ら農産物の品質を改良すべし

(四) 養 蠶 業

著者本稿を記するに當り全道の養蠶業に對し調査を爲したり

凡て事業の何たるを問はず少費多穫ならざる可らず之れ經濟に上に於ける定則なり蠶業又然り然るに本道蠶業の状態を調査するに進歩の甚だ遅々たるのみならず近年却て減退の觀なき能はず是れ何んぞや其原因多種多様にして數ふるに遑あらずと雖も從來本道の蠶は天恵の野桑のみ倚頼して經營をなすもの多く又野桑あるが爲めに養蠶するの欠點に外ならず翻て本道蠶業獎勵に關する沿革の示す所に依れば安政年間舊幕府時代に創まり開拓使時代に至り大に擴張し其後各種機關の保護を経て明治十九年北海道廳設置以來斯業の獎勵發達に努め諸種の補助を設けられたり殊に明治三十六年園田長官時代に於て之れが勵行を計り補助規程を設定し尙進んで明治四十三年より桑園新設に補助を與ふる事となり又昨年四月之れが改正を見たり其方法としては至れり盡せりと云ふも又過言にあらざるべし然るに其効果の顯著ならざるは獎勵の方法にして實地に適合せざる所なきに非らざるなきか、而して亦當町蠶業の沿革を調査するに明治三十二年僅に二戸の飼育者ありて蠶量十六匁を掃立て生繭三石を收穫したるを以て嚆矢とす爾來漸

次増加し同三十八年には三十八戸に過ぎざりしが翌三十九年蠶業巡回教師を置き指導獎勵の結果俄かに増加して百三十六戸となり翌四十三年には百七十三戸收繭量百五十八石餘に上り稍々進歩の觀ありしも其後に至り次第に山野桑の欠乏と同時に町の中央部に於ける飼育者は廢止して次第に山野に接近せる新移民の手に移り飼育せられたるより其戸數も從て減退の趨勢を呈するの狀況となれり然れども當町村は氣候風土良く蠶業に適し地勢の關係よりするも耕地に適せざる傾斜地を私用桑園と爲して桑樹を栽植し當町村に適當する獎勵方法を以てせば將來本道有望の蠶業地として發展するに至るや必せり左に不振の原因に就き所感を記して聊か參考に供し併せて斯界先輩諸氏の高教を仰がんとす

(一) 栽桑經營の誤りたる事

俱知安は四圍の山野至る所に天然の野桑富豊なるが故に一般に之れに依頼して栽桑に留意せざるのみならず野桑の摘取に當り將來を顧慮せず薪炭材と同様に亂伐したる結果附近に桑樹の欠乏を告げ強て山野桑により飼育せんとせば摘桑賃金に多額の費用を要し收支償はざるに至れり又偶々栽桑をなしたるものあるも俱知安の氣候風土を調査せず他地方の桑苗を移入栽植したる結果發育不良なるを觀て俱知安は栽桑の見込みなきものとして放棄するが如きは誤れるも甚だ

しと云ふべし是等は獨り經營者の罪に非ずして指導當局者たるものの調査粗漏の欠點と云ふも敢へて憚らざる處なり而して作物の何たるを問はず地方により其適否を異にす甲地の良種は乙地に於て惡種に變退し又之れに反して乙地の不良種は甲地に恰適するが如く特殊の氣候あるを以て桑苗も亦此原則に適應せざるべらず俱知安農會に於ては明治四十二年より桑園經營試験の結果最も成績良好なるものは俱知安の野桑を採取改良したるものにして他より輸入したるものは諸種の欠點あるを免れずして蠶業經濟に伴はざるものあり故に將來俱知安にして農家の副業たる蠶業を經營せしめんとせば其飼料たる良桑苗を配付し以て桑園の開設を勵行するにあり故に本事業の發達を期するには親木圃の施設を爲し良苗を仕立つるの急務なるを認るものなり

(二) 愛土心なき地主の多き故

俱知安に於ける地主の多數は農場以外の繁華なる都市に居を占め所謂小作經營にして土地の良否年の豊凶に關せず小作料を徵收するも小作者保護の方法を執らず自己の經濟より打算するのみにて小作者を永住せしむるの手段を講せず即ち農場地主は愛土心を有せず良き買人あれば急ぎ賣却し一時に暴利を貪る徒輩少なからざるが故に何等の副業をも小作人に勧誘する事なく其小作契約年限も極めて短く長きものは三年乃至五年にして甚だしきに至りては毎年改約するを

例とせり而して小作人に於ても肥培により土地の改良を計り生産額を増加せしむるに至れば直ちに小作料金を騰貴せしむるが如き暴舉を敢へてする地主あるを以て小作人は永住の觀念なく桑樹の培養は兎に角養蠶す可き計畫も掃立當時に於て始めて決定する實況にあり故に總べての準備も不完全なるを以て經濟的ならざるのみならず且つ偶々蠶種の購入期を失し折角の志望も空しく中止するの已むなきに至れる實例少なからず

(三) 小作人の惡弊

前項に反し小作人の惡弊は長く掠奪的農業に馴れたるものは偶々良地主の小作人を保護するも唯困窮の場合のみ保護を受けんが爲め眞面目を装ひて小作を爲し一兩年にして多少の蓄財を有するに至れば却て地主に負債を残し破約若くは無斷逃走するもの多し之れ等は折角良地主の保護法を自然中止せしむる動機を醸し總ての産業發展を障碍するに至るものなり

(四) 勞力配給の當を得ざる事

新開地時代は地味肥沃に且つ雑草の繁茂少なき爲め勞力少なき割合に大地積を耕作し尙餘暇を利用し蠶兒を飼育するに左までの困難を感せざりしも逐年無肥料にして粗放的耕作を繼續し來りたる結果地力次第に減耗し雑草の繁茂従つて多く耕作に非常に多くの勞力を要し且つ作物は

之が爲めに生育充分ならず漸次生産高を減少するの有様を呈せるより蠶兒飼育の餘暇なきに至りたるもの多數なるが如し

(五) 移住民の土地貸付を受くるに困難なりし事

從來小作人の希望は移住するに際し本道に於て少なくとも五町歩以上の土地を占有し獨立經營をなさん目的を以て渡道したるや疑ひなし然るに不幸にして移住當時に其恩典に浴する能はず一時凌ぎに小作を爲し居たるもの多く數年を経過するも容易に土地を得る能はず貸付の告示毎に出願しては轉住の念離るゝ事なし故に土着の精神に乏しく從て桑樹を栽植し稚蠶を飼育するが如き積極的事業の經營は自然閑却され来れり以上は俱知安蠶業の發展を阻止したる主なる原因にして其他移住者の多くは農業の經營状態を顧みず各自府縣に於て經營したる慣例を踏襲して飼育せし爲め失敗し俱知安養蠶の有望ならざる如き誤解を招きたる等種々なる原因なきにあらざると雖も將來地主をして小作人へ年賦償還の方法に依り土地分譲の方法を講じ全部(大農場)を自作農家たらしめ同時に町村事業として前述の如く桑苗の無償配付、蠶業傳習所の設置及び蠶業に關する學術を實地に指導するに於ては農家の副業として否老幼婦女子の家庭的生業として經營せしむるを得べく然る時は俱知安飼養戸數千五百戸と見積り一戸平均良繭五斗宛を收穫す

るものとせば七百五十石是れを一升四十錢と假定すれば優に三万圓の收入を見るべし之れを更に冬期中の副業として加工するに於ては俱知安の一大事業たるのみならず延て主要なる國産の増進を圖る好事業たるべし

(五) 商業の前途倉庫の設置及販路の調査

農業經營の方法如何に完備し毎年如何に豊收するも販路不確實なるに於ては其收入も亦不確定にして經濟上の原理に反し万全なる經營を繼續し能はざるに至るや論なきなり故に生産の方法指導奨励と共に販路の調査機關を設け之れが確實を期し同時に火災保險を付し得る程度の倉庫を建設し一般金融の便を講し可成輸出に重きを置き當町の利益を他に壟斷せらるゝが如き事なからん事を期するにあり

以上の條件を具備するの外目下俱知安農會に於て有望視し居る自産自食の要素なる水稻の試作中にして成績頗る良好なるを以て尙ほ進んで當町村の風土に適する特性種を選出する爲め苦心中なれば近き將來に於て實現せらるべく然る時は從來荒地として放置せられたる濕地及不耕地は水田に開發し得べく從つて人口の増加を來たし現在の粗放的經營は漸次集約的農法に進むも遠からざるべし故に當町は農業を町是の基礎として官民一致協力之れが改善に意を致さば前途

有望なる農産地たる實に易々たる可し

第八章 俱知安の氣候

本章は、氣候並に俱知安の氣候及び素人氣候として區別をなす等なりしも壽都測候所及び俱知安農會等を調査したる結果當町に於ける素人氣候論の如きは場合に依り農業者の誤解を來し事なきを保せざるより之れを省く之れ當町村の農業に就て重大なる關係を有すればなり

當町は虻田郡の西部に位し市街地は海面を抜く事五百九十尺にして四圍山岳を以て圍繞せられ海岸を去る約四里殊に南方には有名なる峻嶺蝦夷富士の聳立しあるを以て氣候自から他と異なる處あり故に農業經營も從て他と同一ならず又當町中に於ても精細に調査する時は山岳及び平野等地勢如何に依り多少の差異あるは勿論なり然れども茲には明治三十八年より同四十四年に至る七ヶ年間平均を概述して參考となす

溫度平均、溫度は二月最も低くして氷點下七度七(華氏零下二十二度二)八月最も高くして十九度九(華氏六十七度八)を示し年平均は五度二とす而して月平均の氷點下にあるは一月二月三月及十二月の四ヶ月にして其他の月は何れも氷點以上であり例年五月に至れば溫度俄かに上昇し

て八月最高に達し九月より急降を始むるを普通とす

最高溫度、最高溫度の平均は一月氷點下二度八より八月廿五度六(華氏七十八度二)の間にありて年平均は十度六を示し其極度は四十二年八月六日に於ける三十二度六(華氏九十度七)なりし風、風は最も農業上に大關係を有するが如き感あるを以て特に詳記せん

四周には山岳屏立するを以て風力從つて微弱にして年平均僅かに三メートル四に過ぎずと雖も偶々局部的暴風又は颶風の襲來する事ありて一般に損害を被ること尠からず而して一年中の最も弱きは九月の二メートル四最も強きは五月の四メートル四とす即ち夏秋の候に弱く冬春の候に強し以上の如く年平均に依れば微弱なるが如しと雖も其最大速度に至りては四十二年四月七日に於ける南東風は三十六メートル二、大正元年四月及大正四年一月二月の南東風は之れ以上速力強大なりしならんも觀測中止の場合にて確實に知ることを得ざりしは遺憾と云ふ可し

風向、冬季は北西最も多きを占め北又は西の風之れに亞ぎ夏季は南西の風最も多く南又は南東の風之れに亞ぎ春秋二季は南北兩風半ばとす

降水量、年總量は千五百三十八ミリメートル四(一坪に二十八石一斗五升三合)にして本道中降水量最多の部に位するが如し一年中最も少きは三月八十四ミリメートル六(一石五斗四升八合)

にして四月の八十五ミリメートル三、之れに亞ぎ最も多きは十二月の二百三十四ミリメートル三(四石二斗八升八合)にして是れに亞ぐは十一月の二百三十三ミリメートル二とす而して一日の最少量は四十四年八月十六日に於ける九十五ミリメートル(一石七斗三升八合)にして平均一五三、八四となる

天候、晴天日數一年中快晴の多きは春季にして冬季に少なし最多は四十三年の三十二日最も少きは四十一年の十三日曇天は秋季に多し最多は四十年の二百十四日四十三年の二百十三日降水日數は夏季に少なく冬季に多し最多は四十年の二百三十六日最少は四十三年の二百拾二日但し曇天の日數と重複するものなり

暴風日數は夏秋の候に少なく冬春の候に多く最多は三十九年五十二日最少は四十三年の三十二日七ヶ年平均四十四日尙年平均の日照時數は百五十八時間三とす

旱魃、雨雪量の十日以上引續きなかりし日は最も少なく四十年の七月十七日より三十日に至る十五日間及四十四年五月六日より二十日に至る十五日間の無雨を最とし三十八年八月十一日より二十一日に至る十日十一時間四十二年の六月十六日より廿五日に至る十日間同年七月三十一日より八月八日に至る十日間の五回にして就中四十四年五月の旱魃は最も甚しく苦痛を感じ加

ふるに未曾有の山火全道に亘り人家の焼失したるもの妙からざりし

霖雨、降雨の十日以上引續きたる事は一二回に過ぎざるも冬季降雪の降り續くことは最も多くして三十九年には四十一日間四十一年には三十四日間四十二年には降雪實に五十日間連續したることあり

霜雪の期節 初霜の平均は十月一日にして最も早きは四十三年の九月廿三日終霜の平均は五月廿六日にして最遅は四十一年の六月廿八日とす

雪、初雪の平均は十月廿八日にして最も早きは四十一年十月九日終雪の平均は四月二十六日にして最遅は四十三年の五月二日とす

根雪、根雪初日の平均は十一月十五日にして最も早きは三十九年の十一月三日とす
以上の氣候は俱知安に於ける氣候の概況を記せるものにして十二ヶ月平均表の如き複雑なるものを省き讀者の見易き範圍を選び記述せしものなり諒せられたし尙ほ俱知安と壽都に於ける明治三十八年より四十四年に至る七ヶ年平均の觀測に依れば一年中の平均最高及最低溫度並に晝夜の溫度の差は當町に甚しく壽都に少なし然れども農期間に於ける五月五日頃より十月三日頃まで即ち作物發育に最適する期間中最高溫度及平均溫度は共に壽都より當町に高く亦風力弱き

を以て気温を冷却せしむる事少なく故に變遷の期間を熟知し之れに對する應用を巧みにして農業を經營するに於ては最適の農業地たるを疑はざるなり

附記 六月下旬及八月中旬より下旬に於て例年南東の暴風襲來して耕作物の損害を被ること多大なれば東方に大風防林を設置するの急なるを覺知す可し各自所有地と雖も此風防林の必要あるを忘る可らず

第九章 新移住者に警告

俱知安にて失敗せるもの、數を職業別に示せば固より二三にして足らずと雖も最も多きものは農民ならん是れ主として俱知安の農本位なるを度外したる結果なるべし然り而して其原因を釋ぬるに多くは新殖民地の常態として金錢の濫費及利益の比較的饒多なりしによる換言すれば質朴なるべき農村に居住しながら浮華豪奢の生活を營みたるより竟に負債山積して逃走するもの續出したる事あり而して如何せば堅實なる農業地たらしむる乎の問題は町村として未だ精神的議題とならざる状態にあり故に今後當町に入り商業に或は工業に各自其實業に従事せんとするに當りては須らく着實質朴を主として一家の繁昌策を確立すべし、從來の如く一攫千金の暴

利を貪り物品の販賣に於ても品質疎悪にして價格不廉なるが如き弊風を一掃するに勉めざる可らず由來俱知安人氣質として各地に擯斥せらるる傾きあるは概ね之に因る豈戒めざるべけんや上記の如く俱知安の失敗者は避く可らざる天災其他にあらずして人為即ち放漫或は誑詐等に起因す故に今後來町以て業を營まんとするものは農本位なる俱知安なる事と及び質素勉強が成功の基たる事を忘れず勤勉事に従はば數年ならずして産を起し得る事疑ひなきなり

(一) 言語と動作を慎め

著者は北海道の土人アイヌ人種に就て大に學びたることあり其内最も賞す可きは彼等は大議論を爲すに當りて一方の敵方が如何に讒謗罵詈するも黙して之を謹聽し中間に於て辯駁するとか腕力に訴ふるが如きことなく相手の議論終るや順序正しく夫れを辯駁するを常とす而して一方は位地を代へて之を謹聽し傍聽者如何に多くとも一人として妨害するものなく其最終に至り辯駁出來ざる者が謝罪するか傍聽者より仲裁するものなりと現今の社會状態は果して如何國を代表する代議士は如何紳士紳商の談判又は議論は如何禮儀及言語と動作は如何實に寒心に堪へざる事のみ多く一流の紳士の態度議論アイヌより劣れりと云ふも憚からざるべし俱知安の紳商紳士にも亦是れあるを認む(或一部)人類の價值何れにあるかを認め難き僞善者多々あるを遺憾と

す左に其實例の二三を記述し反省を促かすべし

- (1) 公會の席上に於て淫猥極まる醜語を吐露して平然たる紳士紳商少なからず
- (2) 紋付は凡て五ツ紋袴は相應の品物を以てすも其行動は十八世紀式、三ツ紋の田舎の村長様途中路傍に立小便をなす最も甚しきは夜中自分の前より隣家の前に行き放尿するを見る
- (3) 五ツ紋付羽織高貴織袴は紳士なれど行動は出面取の如く食膳を漁り乞食僧侶のふ時に遇ひしに似たり
- (4) 婦人は概してハイカラ、丸髻の御奥様風なるも常に路傍に放尿摘鼻する人少なからず一陣の大風見るに忍びざるスタイルを曝露することあり
- (5) 他人の讒謗罵詈のみに氣焰を吐き紋付袴の儘大胡座遂には袴羽織のまゝ大立廻りの大慘劇を演ず紋付羽織を併べて云ふ壯士役者の舞臺感此の行動や實に酒呑む舊土人に劣る紳士あるを見聞す

其他細末に涉りたらんには十頁二十頁の材料に乏しからずと雖も以上各項は時々目撃する二三の例に過ぎず古來日本は威儀禮法の國と賞揚せられ來りしに世の變遷か將た教育家の責めか舊土人の行爲に劣る事少なからず大に反省を要す可き事ならずや

第十章 俱知安雜觀

俱知安雜觀とは著者自身の立場より社會に紹介すべき必要ありと信ずる、現時の状態より將來の推測並に模範的功績ある人を短評記述し殖民地の活動狀況を紹介せんとするに外ならず著者腦裡の反古籠より紙片の記憶を探し出したるもの即ち是れ俱知安史中の雜觀なり、されば記事に秩序なく文意に活氣はなけれども著者が誠意の所在を認めて一讀再考を希ふと云爾

(一) 俱知安人中富豪及豪商

貧弱なる俱知安とは函樽人の通評惡罵なり、然れども人家皆無の新殖民地に移住し僅々廿餘年にして一躍數萬の富を得たる其堅忍不拔の勇者に對しては大に賞揚せざる可らず惡罵世評は恐るゝに足らず三十八方里の面積は全部荒蕪地にあらずして良圃あり水田あり山林ありて過半皆各所有者あり俱知安町内に於て僅か二十餘年にして一萬圓以上十萬と呼ぶ財産家も數多あるを知る曰く武井三代吉、阿部半平、眞鍋濱三郎、伊井億右衛門、中村與三松、關口茂平、村雲好三、河合忠次郎、佐久間周作、藤井九平等の諸氏の外尙多數の資産家あり開村以來僅かに二十餘年にして皆其成功をなしたる實に模範的成功者たり農村部落に入りては阿部猪五郎、廣瀬悅

太郎、富永寅次郎、坂井好太郎、伊藤助次、中岡新藏、鹽田政市、荒木周三郎、石井彦三郎、森彌三郎、勝浦忠吉、宮竹庄太郎、篠原伊藏、林文次郎、重金諸氏其他表面を飾らす所謂内福長者万以上の富豪少なからず亦其行爲質朴にして蓄財に腐心しつゝある例令ば三號線佐々木治右衛門氏(郷里廣島縣山縣郡筒賀村字伊仁の人)の如きもの亦尠ならず中には僅かに住宅を設け倉もなければ牛馬の小屋も漸くの人にして小作人何十戸を有する農業者ある事は罵詈訛評亡者には腦裡に浮ぶまい昨年の如きは一戸にて大福豆一種の収入のみにて千圓以上二千圓位の収入を得たる者あり葦葺の矮屋は恰も豚小屋の如き感ある可きも此小屋の主人は一ヶ年收穫三千圓以上の收穫收得あるとは他方面の人々は豫想外の感あるべし

(二) 宅地及水田並に畑の價格

俱知安驛に降りて直進すること三四丁にして表面矮小なる一戸二階建の主人公として俱知安の豪商西の大關としての伊井億右衛門氏基線中央市街大禮記念箱火の見る基線を東に向て直進する十丁にして六號線に至り東の大關中村與三松氏何れも雜穀商として俱知安商業界の兩王と云ふも不可なる可し尙ほ商業の前途の項參照

市内宅地並に水田畑地の賣買價格

宅地	一等地	一坪	金拾貳圓
	二等地	同	金八圓
	三等地	同	金五圓
	四等地	同	金三圓
	五等地	同	金壹圓乃至貳圓

將來宅地見込地の騰貴と共に宅地見込地が高價に賣行く爲め絶對に見込なき土地までが人氣昂騰し農業家の二十町歩以上の地は買収し得ざるに至る

近き將來に室蘭俱知安間の鐵道か又は東俱知安俱知安間の鑛山鐵道開通するに至らば俱知安の市街宅地は益々騰貴するは火を賭るより瞭かなり
俱知安市街の全面積として豫定區域を合すれば東西千二百間南北九百間此坪數百〇八万坪此内道路敷地及び坪諸官衛公共用地を引去りたるものは皆市街宅地の部に屬す將來發展の餘地ある市街宅地は基線筋を主位として東北に向て開拓せんか殆んど區制否市制を施行するも狹隘を叫ぶが如き事あらざるべし

俱知安人の活動雜録

一人口増加の比較 俱知安は前文各項に於て記述せし如く細微たる此田郡俱知安の一小部落として蝦夷富士山麓に生れし以來年を過ぐる事爰に二十有餘年而して開村當時工業界の人縫部兼次郎(廣島縣人岩内より入山)同工業の鈴木大吉氏岩内より入山(工業部參照)雇人を使役したるに始まり引續き德島縣人阿部半平氏外十六名及石川縣人醫師石井收平氏を合して十八名の無願開墾移住者を始めとし爾來年々潮の如く來往者を増加し(御料林解除後區劃貸付をなしてより)今や戸數二千五百餘、人口一万四千を算するに至る是れに依りて見るも如何に當町の急速なる發達をなしつゝあるかを想見し得べし明治四十三年以降の戸口を示せば左の如し

年次	戸數	人口
四十三年	二、五七九	一四、三七二
四十四年	三、一二八	一六、五〇五
大正元年	二、八七五	一五、四二八
同 二年	二、九二八	一五、八一〇
同 三年	二、四三四	一三、一〇一
同 四年	二、五一三	一三、五二六

大正三年に於て著しく戸口の減少したるは明治四十三年に於て東俱知安を分村せしめたる爲め區域の關係上正確に知り難き故なりと傳へられしも町村は村費徵收に對する相當の機關を以て調査しある爲め概して當局者の統計過誤と認むる能はざるも四十三年の凶作にて山麓は更なり北海道全体の農村不作の結果皆争ふて漁村に轉住し農繁時季に至るも吸集能はざりし爲めなる事を信ず大正五年九月現在の如きは著しく増加を見るに至りたるは前年凶作の爲め漁村に散在轉住せしものが當年の豊作と農産物高價に伴ふ農村繁盛の爲め意外に來集したるに依る可し

二、商業 元來當町は四面皆山脈を有し森林に富み開村以來木材業勃興し來りたる爲め商業家は一副業の如き觀ありしも町内四部落の發達と共に鐵道開通後旅客の來往頻繁となり管内行政の中樞となりたるが故時運趨勢に伴ひ商業家一團となり軒を並べ遂に今日の殷賑を見るに至る而して當町に集散する木材農産物は當地各商人の手に依りて全部消化せられ且つ東俱知安、真狩、狩太方面に對する物資の集散市場となり其他各方面に對しても商業的勢力を扶植するに至れり當町に於ては從來小樽、函館の順位にて共に頻繁の取引をなし居たるも最近に於ては内地方面に向ひ鐵道便を利用して蕎麥の直輸出を爲すに至れり(當地停車場に臺車入れをして五日目の早朝東京上野驛に着)米澤、會津、仙臺、石ノ巻、秋田、山形等は皆鐵路に依る事多し其

外内地方面より輸入の物品、呉服、太物、洋反物及小間物の如きは、樽、札、函の商人の手を経ず直ちに取引を爲さんとするの域に達せり、因に木材特別鐵路輸出も前記諸物貨と同一の者あり、當町の將來は注目に價へす

三、物品販賣業者 二百七十戸ありと云ふも小は駄菓子小賣を始めとして大は米穀酒其他の卸小賣業なり、專業としては雜穀農産物買業者もあり又販賣業の傍ら飲食店を營み一人にして二種の營業税を納付するもの珍しからず

四、委託販賣業 本業は雜穀農産商にテラホラ認め居れど目覺しき專業者なし然れども漸次商業家の活動時機に達すると同時に滿三年を出ずして専門の營業者を見るに到る可し況んや昨年以來俱知安を中心とす可き各方面に於ける農家の資金豊富となりしより從來の如く商人より仕送りを受くる事なく亦賣急ぎ金に替へ借金拂ひの必要も感せざるに至りたれば、今後は倉庫委託販賣業者の必要を認むるに至るべし

五、銀行は目下北海道銀行派出所あるも明治四十三年開店以來幾多の波瀾曲折ありて主任は再三更迭せられたるも何れも事業創立の間際として事業の進行圓滿ならざりしが現主任池田正治郎氏は折よく昨年以來農産物の豊穰にして高價なる時に來任したる上尙ほ本年も非常の盛況を見

たる際とて同出張所の營業狀態も亦隨つて好況なり

明治四十三年上半季預金

六一、一〇〇圓

同 下半季同

二五〇、九〇〇

大正四年下半季同

一、八四六、九〇〇

同 五年上半季同

七三八、〇〇〇

前記の數字を見るに預金額の激増しつゝあるは一は人口の増加に依るべきも寧ろ經濟界の潤澤を證明するものなり

六、立志信託株式會社 此種の會社は種々なる方法を以て各地に開業せられ中には如何はしきものなきに非らざるも同會社は大正三年の設立にして營業内容は無盡信託業にして商業資本の貸付個人信用貸付をなす、現在貸付金二千〇十八圓、社長八反田角太郎氏、將來有望視せられありしが町内資本の潤澤なる爲め貸出しに墜跌を來すならん事を慮り今より事業の革新を計らんと企圖せられつゝあり

七、北部信用組合 は明治四十三年に組織せられ營業内容は株式組織にして主として農業資金の貸付をなす組合長は阿部猪五郎氏其任に當り居れり